

第3章 各調査の結果

< 図表のみかた >

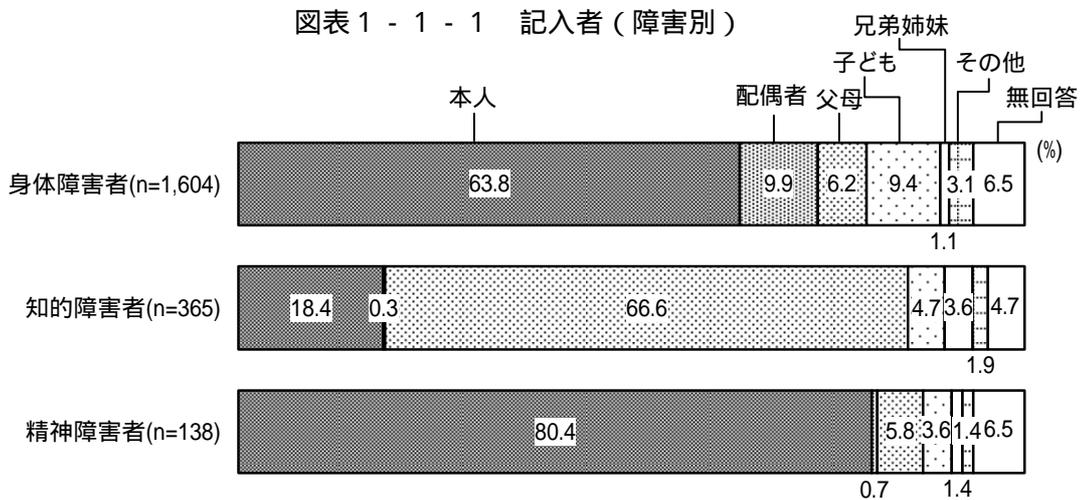
- 1 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示しています。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN（Number of case）、それ以外の場合にはnと表記しています。
- 2 ％は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。従って、回答の合計が必ずしも100.0％にならない場合（例えば99.9％、100.1％）があります。
- 3 年代別、要介護度別などは、未回答の方がいたため、合計が全体とは一致しません。
- 4 回答者が2つ以上回答することのできる質問（複数回答）については、％の合計は100％にならないことがあります。
- 5 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されています。

1 障害のある人の調査

(1) 基本属性

記入者 (F 1)

記入者は、身体障害者は、「本人(63.8%)」が最も多く、「配偶者(9.9%)」が続いている。知的障害者は、「父母(66.6%)」が最も多く、「本人」は18.4%である。精神障害者は、「本人」が80.4%である(図表1-1-1)。

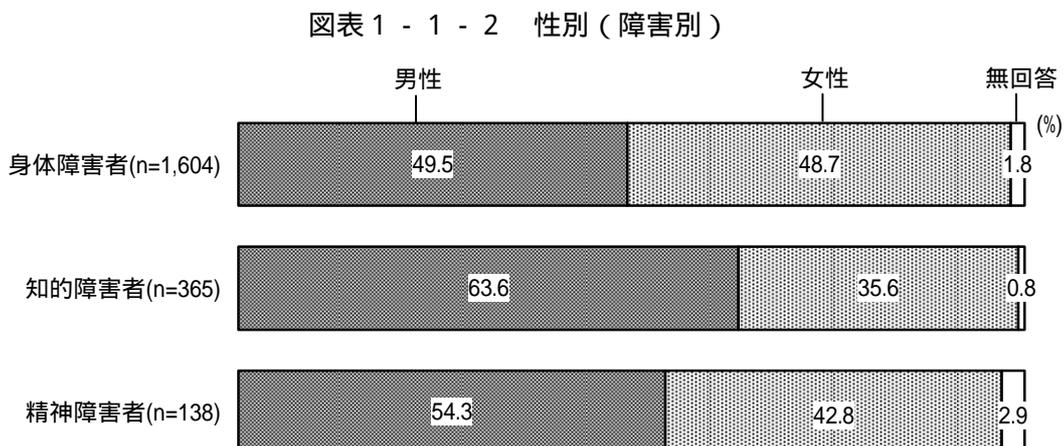


性別 (F 2 - 1)

あて名本人の性別は、身体障害者は、「男性(49.5%)」と「女性(48.7%)」が約5割ずつである。

知的障害者は、「男性(63.6%)」が6割を占めている。

精神障害者は、「男性」が54.3%、「女性」が42.8%である(図表1-1-2)。



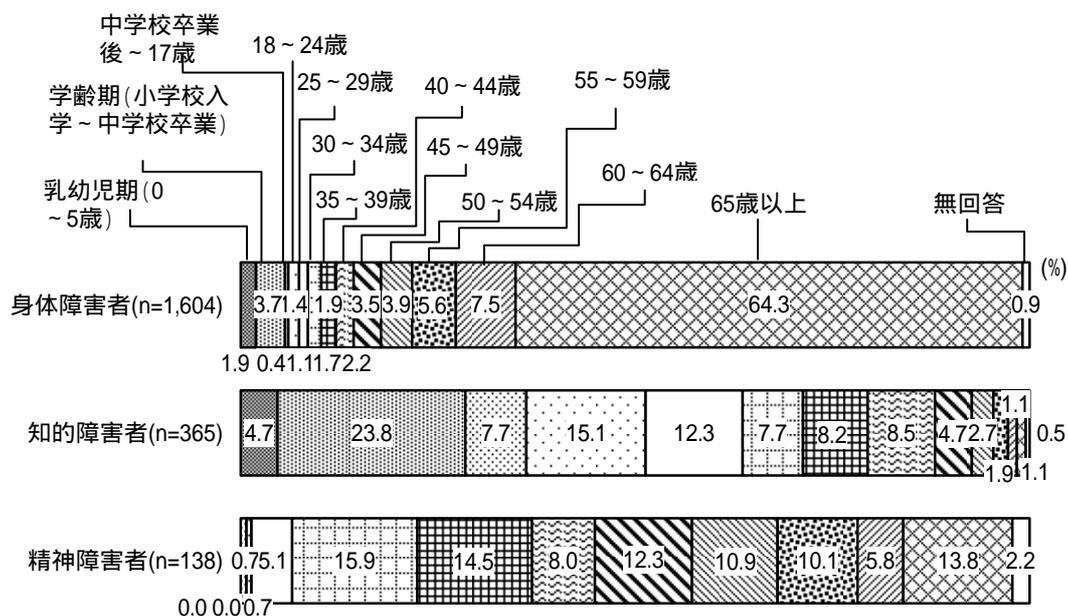
年齢 (F 2 - 2)

あて名本人の年齢は、身体障害者は、「65歳以上 (64.3%)」が6割を超えている。

知的障害者は、「学齢期 (23.8%)」が最も多く、17歳以下が36.2%である。

精神障害者は、学齢期以下がおらず、「30~34歳 (15.9%)」が最も多く、「35~39歳 (14.5%)」が続いている (図表1-1-3)。

図表1-1-3 年齢 (障害別)



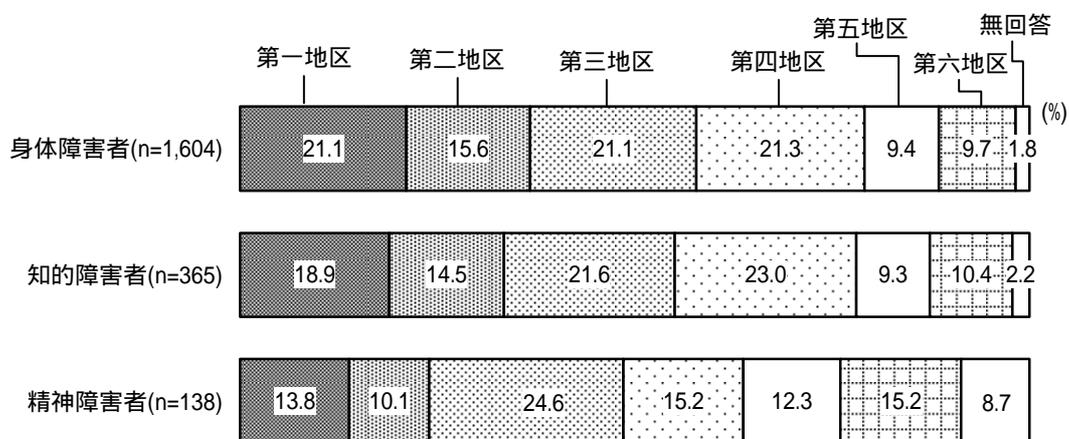
居住地域（F3）

居住地域は、身体障害者は「第四地区（21.3%）」、「第一地区（21.1%）」、「第三地区（21.1%）」の順に多くなっている。

知的障害者は、「第四地区（23.0%）」、「第三地区（21.6%）」、「第一地区（18.9%）」の順に多くなっている。

精神障害者は、「第三地区（24.6%）」、「第四地区（15.2%）」、「第六地区（15.2%）」の順に多くなっている（図表1-1-4）。

図表1-1-4 居住地域（障害別）



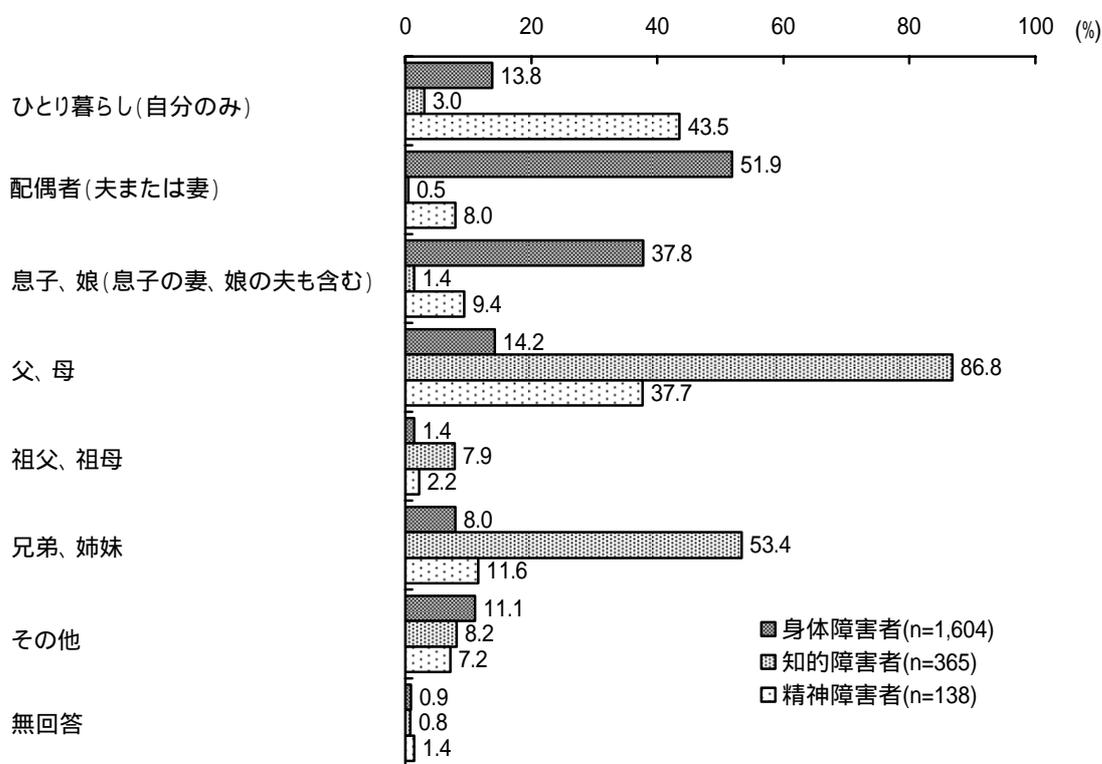
同居者（F4）

同居者は、身体障害者は、「配偶者（51.9%）」が5割を超えており、「息子、娘（37.8%）」が続いている。

知的障害者は、「父、母（86.8%）」が8割を超えており、「兄弟、姉妹（53.4%）」が続いている。

精神障害者は、「ひとり暮らし（43.5%）」が4割を超えている（図表1-1-5）。

図表1-1-5 同居者（障害別：複数回答）



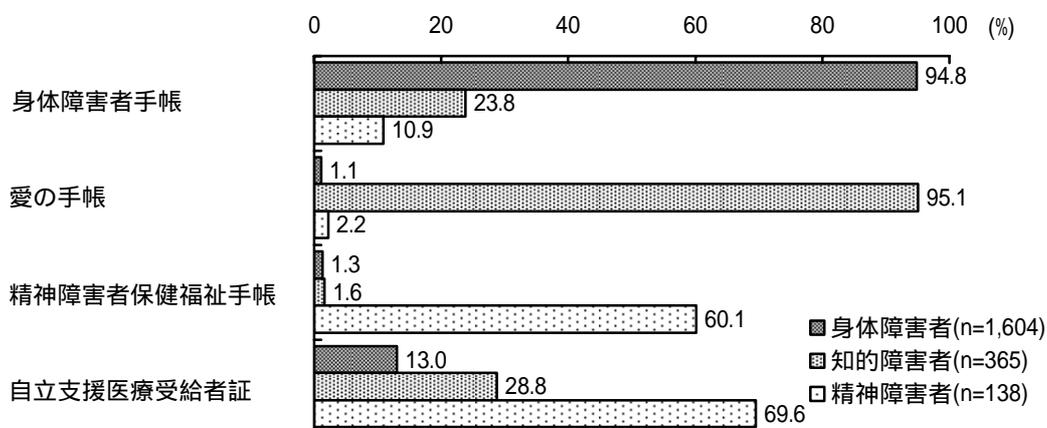
所持する手帳（F5）

所持する手帳について、身体障害者は、「身体障害者手帳」が94.8%、「自立支援医療受給者証」が13.0%である。

知的障害者は、「愛の手帳」が95.1%、「自立支援医療受給者証」が28.8%、「身体障害者手帳」が23.8%である。

精神障害者は、「自立支援医療受給者証」が69.6%、「精神障害者保健福祉手帳」が60.1%である（図表1-1-6）。

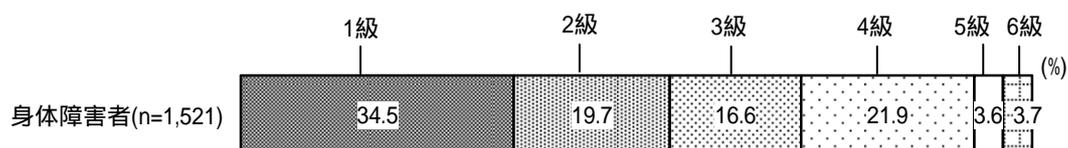
図表1-1-6 所持する手帳（障害別）



身体障害者手帳の程度（F5）

身体障害者に、身体障害者手帳の程度をたずねたところ、「1級（34.5%）」が最も多く、「4級（21.9%）」、「2級（19.7%）」が続いている（図表1-1-7）。

図表1-1-7 身体障害者手帳の程度
 <身体障害者手帳を持っている人>（身体障害者）



愛の手帳の程度 (F 5)

知的障害者に、愛の手帳の程度をたずねたところ、「4度 (37.8%)」が最も多く、「2度 (32.0%)」が続いている (図表 1 - 1 - 8)。

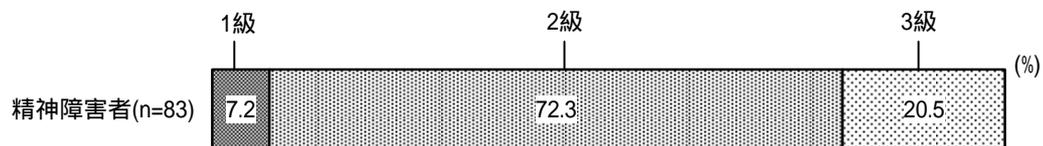
図表 1 - 1 - 8 愛の手帳の程度
 < 愛の手帳を持っている人 > (知的障害者)



精神障害者保健福祉手帳の程度 (F 5)

精神障害者に、精神障害者保健福祉手帳の程度をたずねたところ、「2級 (72.3%)」が7割を超えている (図表 1 - 1 - 9)。

図表 1 - 1 - 9 精神障害者保健福祉手帳の程度
 < 精神障害者保健福祉手帳を持っている人 > (精神障害者)



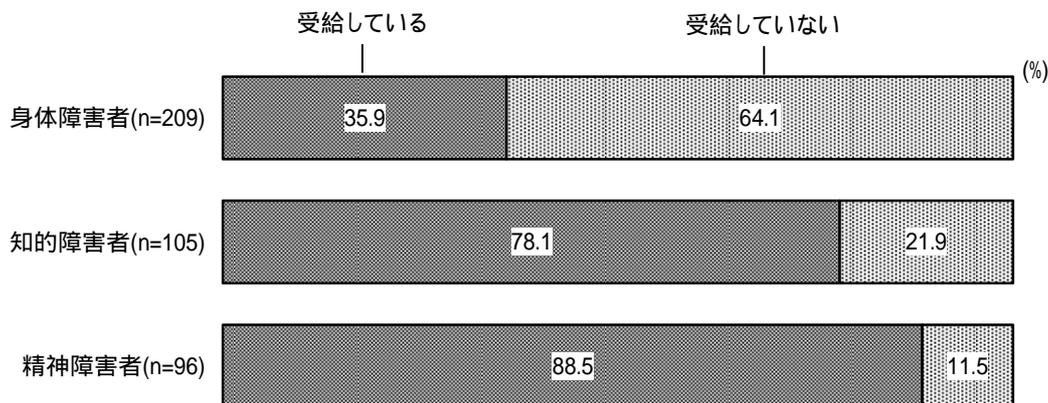
自立支援医療の利用（F 5）

自立支援医療受給者証を持っていると回答した人に、受給の有無をたずねたところ、身体障害者は、「受給している（35.9%）」が3割台である。

知的障害者は、「受給している（78.1%）」がおよそ8割である。

精神障害者は、「受給している（88.5%）」がおよそ9割である（図表1-1-10）。

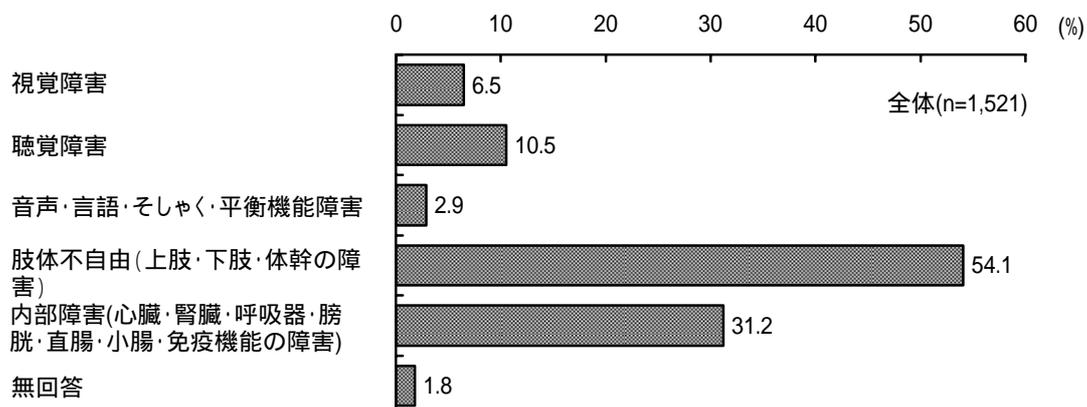
図表1-1-10 自立支援医療の利用
 <自立支援医療受給者証を持っている人>（障害別）



身体障害者手帳に記載された項目（F 6）

身体障害者手帳を持っている人に、身体障害者手帳に記載された項目をたずねたところ、身体障害者は、「肢体不自由（54.1%）」が最も多く、「内部障害（31.2%）」が続いている（図表1-1-11）。

図表1-1-11 身体障害者手帳に記載された項目
 <身体障害者手帳を持っている人>（全体：複数回答）



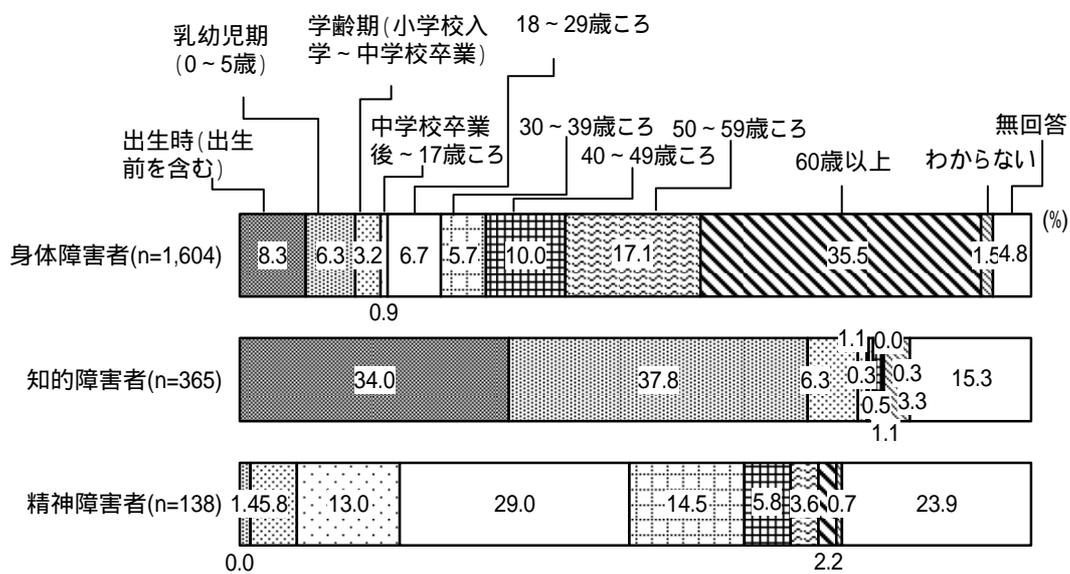
障害が生じた時期（F7）

主な障害が生じた時期は、身体障害者は、「60歳以上（35.5%）」が最も多く、「50～59歳ころ（17.1%）」が続いている。

知的障害者は、「乳幼児期（37.8%）」、「出生時（34.0%）」がそれぞれ3割を超えている。

精神障害者は、「18～29歳ころ（29.0%）」が最も多く、「30～39歳ころ（14.5%）」、「中学校卒業後～17歳ころ（13.0%）」が続いている（図表1-1-12）。

図表1-1-12 障害が生じた時期（障害別）



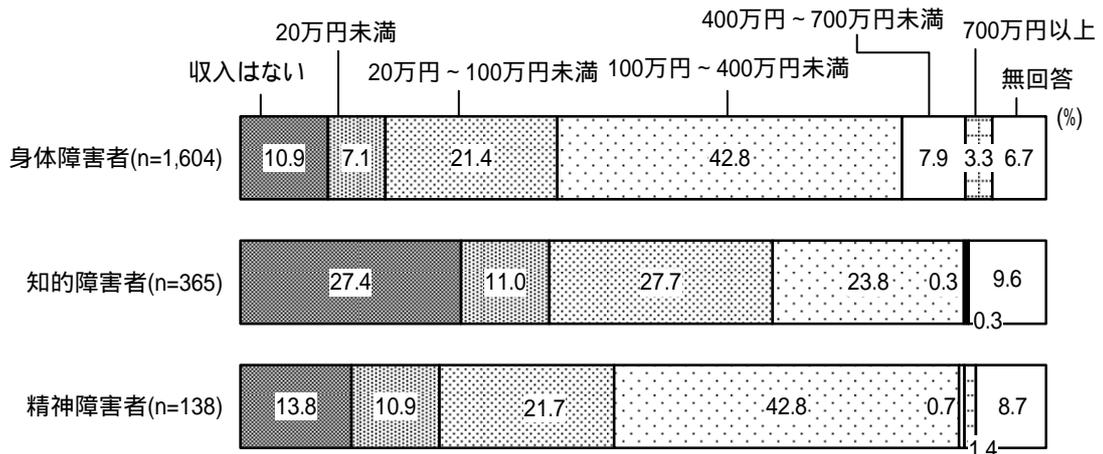
年収（F8）

年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含んだ年収をたずねたところ、身体障害者は「100万円～400万円未満(42.8%)」が最も多く、「20万円～100万円未満(21.4%)」、「収入はない(10.9%)」が続いている。18歳以上では、「収入はない(6.8%)」が1割以下となる。

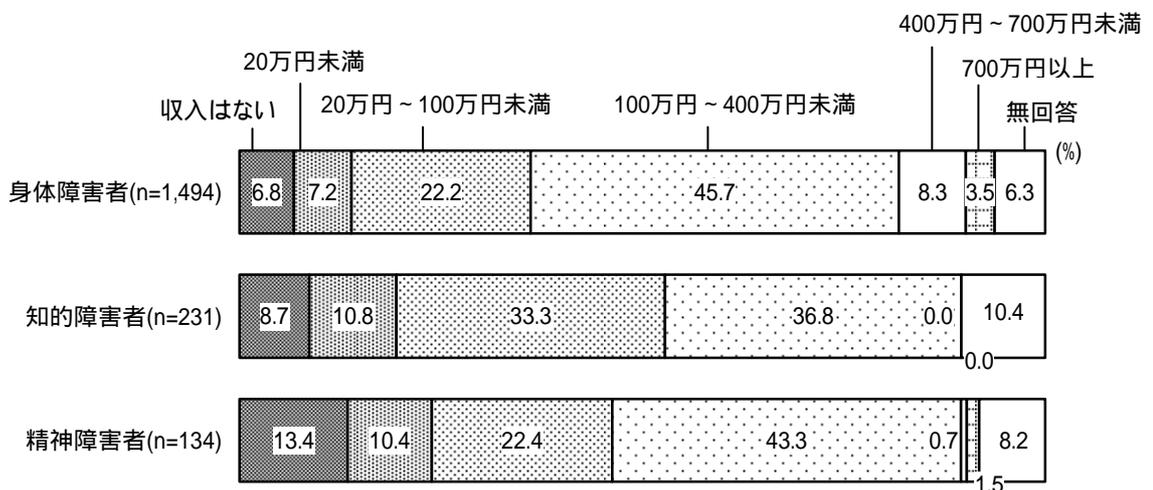
知的障害者は、「20万円～100万円未満(27.7%)」、「収入はない(27.4%)」がそれぞれ3割弱である。18歳以上では、「収入はない(8.7%)」が1割以下となり、「100万円～400万円未満(36.8%)」が最も多く、「20万円～100万円未満(33.3%)」が続いている。

精神障害者は、「100万円～400万円未満(42.8%)」が4割を超えており、「20万円～100万円未満(21.7%)」が続いている。18歳以上でも大きく変わらない(図表1-1-13-、)

図表1-1-13- 年収（障害別）



図表1-1-13- 年収（18歳以上、障害別）



(2) 住まい

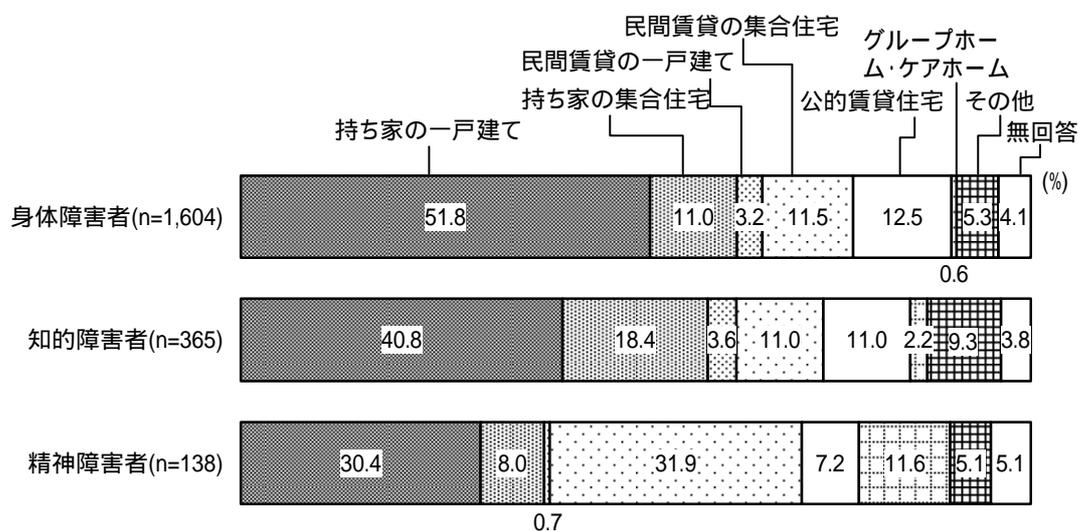
住居(問1)

住まいは、身体障害者は、「持ち家の一戸建て(51.8%)」が最も多く、「持ち家の集合住宅(11.0%)」と合計すると、『持ち家』は62.8%となる。

知的障害者は、「持ち家の一戸建て(40.8%)」が最も多く、「持ち家の集合住宅(18.4%)」と合計すると、『持ち家』は59.2%となる。

精神障害者は、「民間賃貸の集合住宅(31.9%)」が最も多く、『持ち家』は38.4%である(図表1-2-1)。

図表1-2-1 住居(障害別)



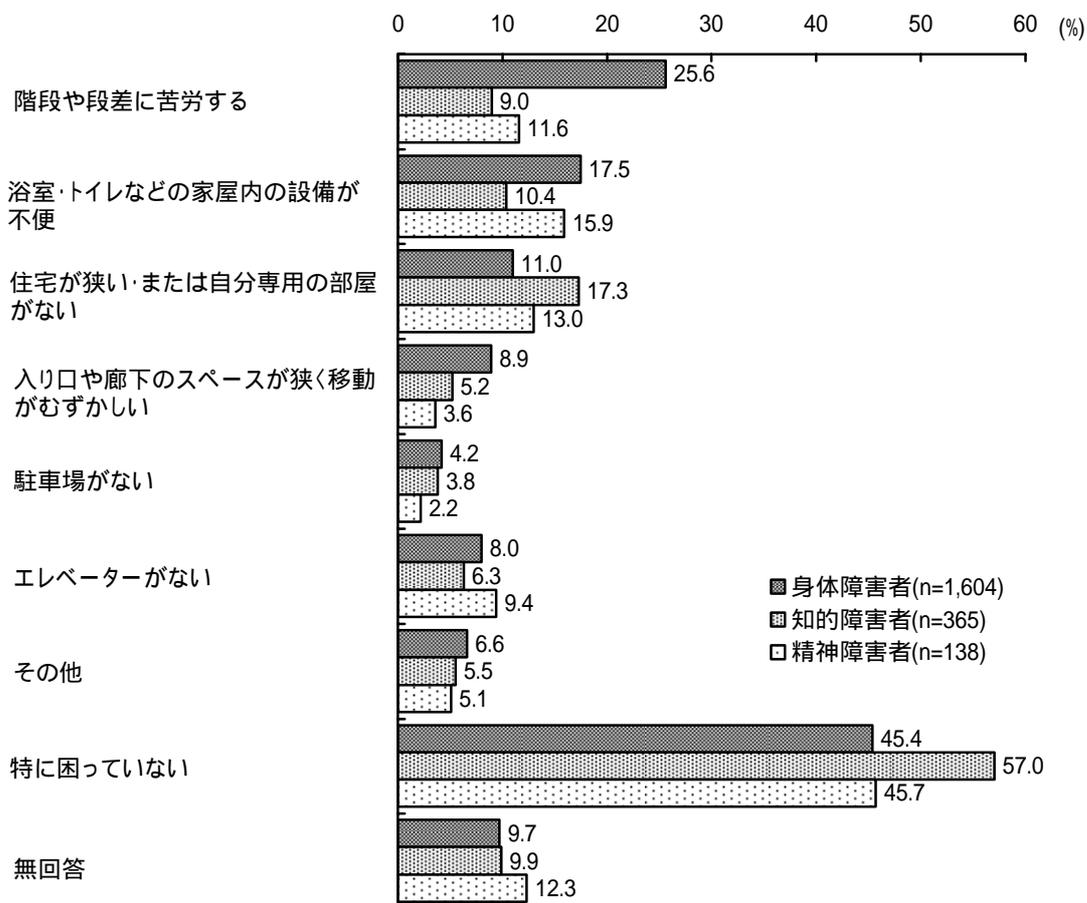
住居について困っていること 設計・設備（問2 - 1）

住まいの設計・設備について困っていることは、身体障害者は、「特に困っていない（45.4%）」が4割を超えている。困っていることは、「階段や段差に苦労する（25.6%）」、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便（17.5%）」となっている。

知的障害者は、「特に困っていない（57.0%）」が5割を超えている。困っていることは、「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない（17.3%）」、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便（10.4%）」が1割台である。

精神障害者は、「特に困っていない（45.7%）」が4割を超えている。「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便（15.9%）」、「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない（13.0%）」、「階段や段差に苦労する（11.6%）」がそれぞれ1割台である（図表1 - 2 - 2）。

図表1 - 2 - 2 住居について困っていること 設計・設備（障害別：複数回答）



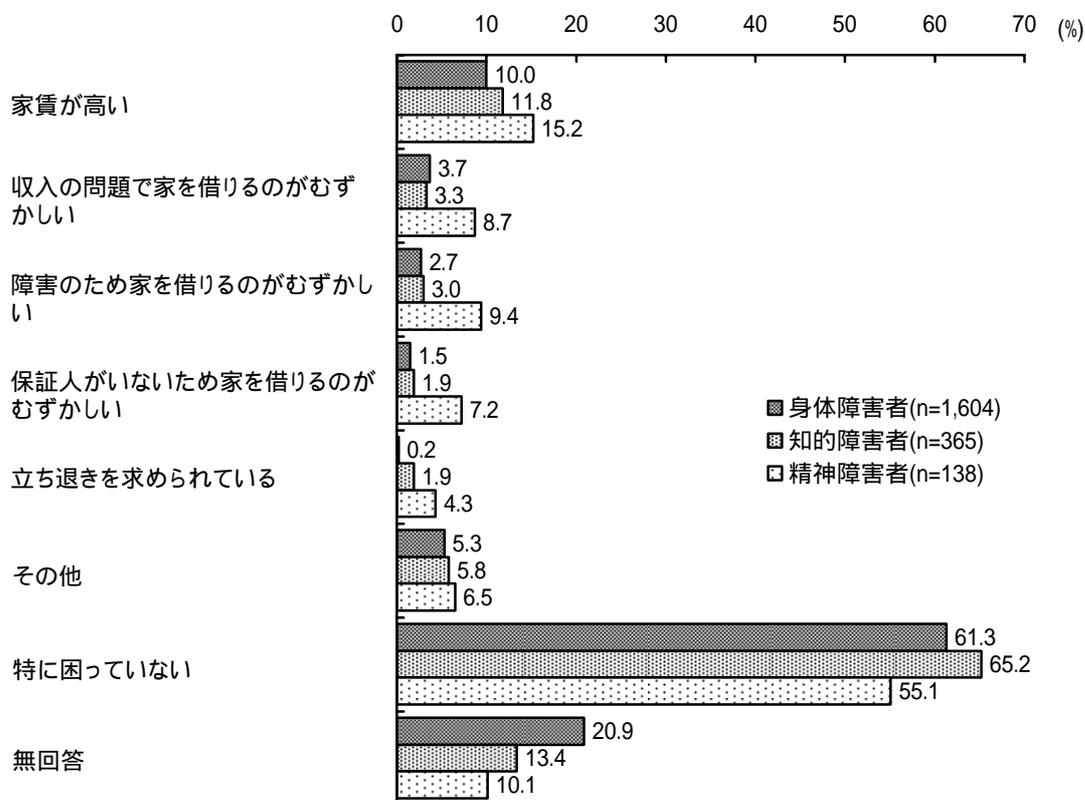
住居について困っていること 住宅事情（問2 - 2）

住宅事情について困っていることは、身体障害者は、「特に困っていない（61.3%）」が6割を超えている。困っていることは、「家賃が高い（10.0%）」が1割である。

知的障害者は、「特に困っていない（65.2%）」が6割を超えている。困っていることは、「家賃が高い（11.8%）」が約1割である。

精神障害者は、「特に困っていない（55.1%）」が約5割である。困っていることは、「家賃が高い（15.2%）」が1割を超えている（図表1 - 2 - 3）。

図表1 - 2 - 3 住居について困っていること 住宅事情（障害別：複数回答）



(3) 日常生活

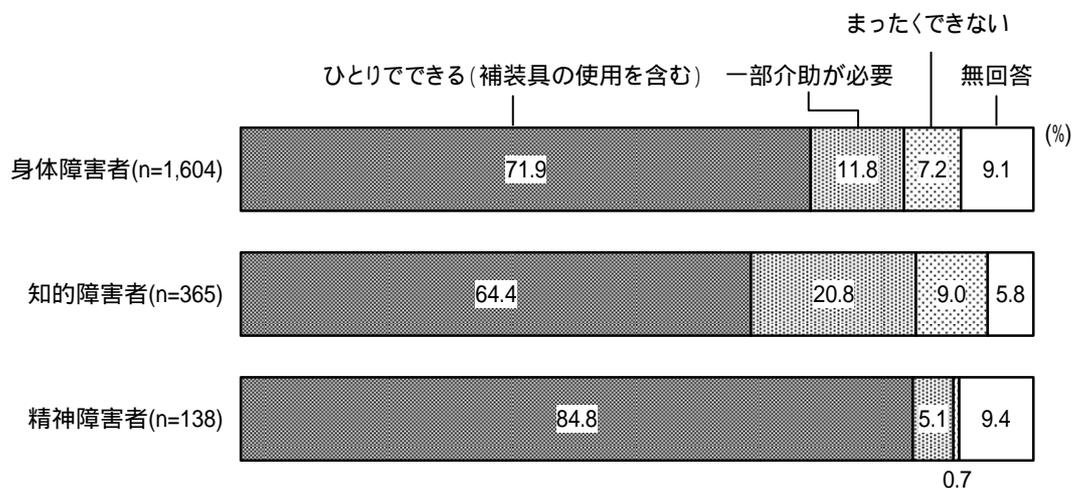
日常生活の状況（ADL等） 食事（問3-1）

食事の状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（71.9%）」が7割を超え、「一部介助が必要（11.8%）」が約1割である。

知的障害者は、「ひとりでできる（64.4%）」が6割を超え、「一部介助が必要（20.8%）」が約2割である。

精神障害者は、「ひとりでできる（84.8%）」が8割を超える（図表1-3-1）。

図表1-3-1 日常生活の状況（ADL等） 食事（障害別）



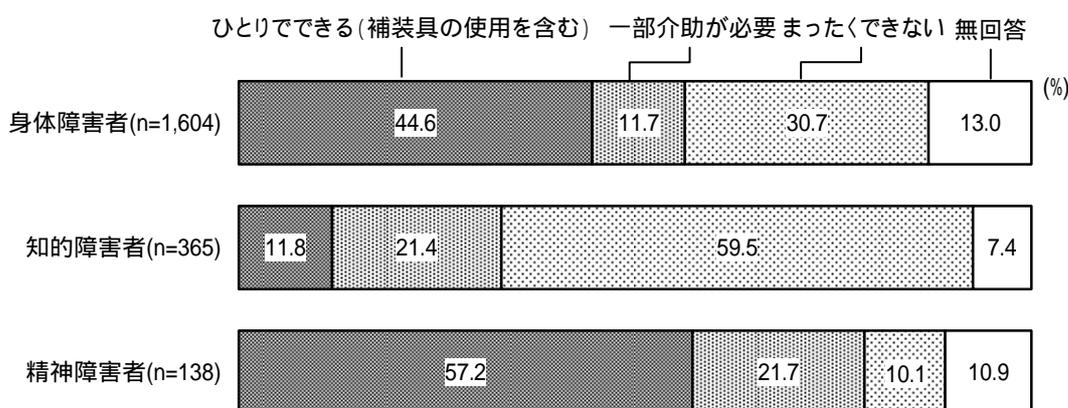
日常生活の状況（ADL等） 調理（問3-2）

調理の状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（44.6%）」が約4割であり、「まったくできない（30.7%）」が約3割である。

知的障害者は、「まったくできない（59.5%）」が約6割であり、「一部介助が必要（21.4%）」が約2割である。

精神障害者は、「ひとりでできる（57.2%）」が5割を超える（図表1-3-2）

図表1-3-2 日常生活の状況（ADL等） 調理（障害別）



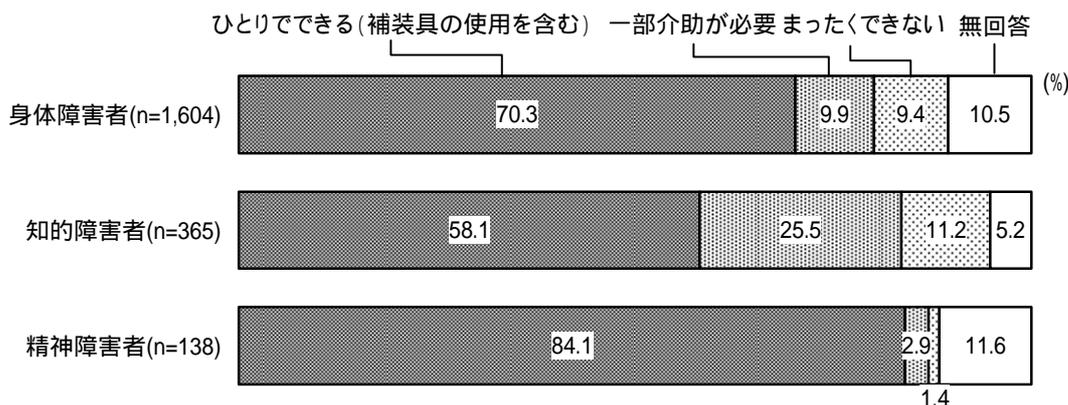
日常生活の状況（ADL等） 排泄（問3-3）

排泄の状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（70.3%）」が7割を超え、「一部介助が必要（9.9%）」、「まったくできない（9.4%）」がそれぞれ約1割である。

知的障害者は、「ひとりでできる（58.1%）」が6割弱であり、「一部介助が必要（25.5%）」が2割を超える。

精神障害者は、「ひとりでできる（84.1%）」が8割を超える（図表1-3-3）

図表1-3-3 日常生活の状況（ADL等） 排泄（障害別）



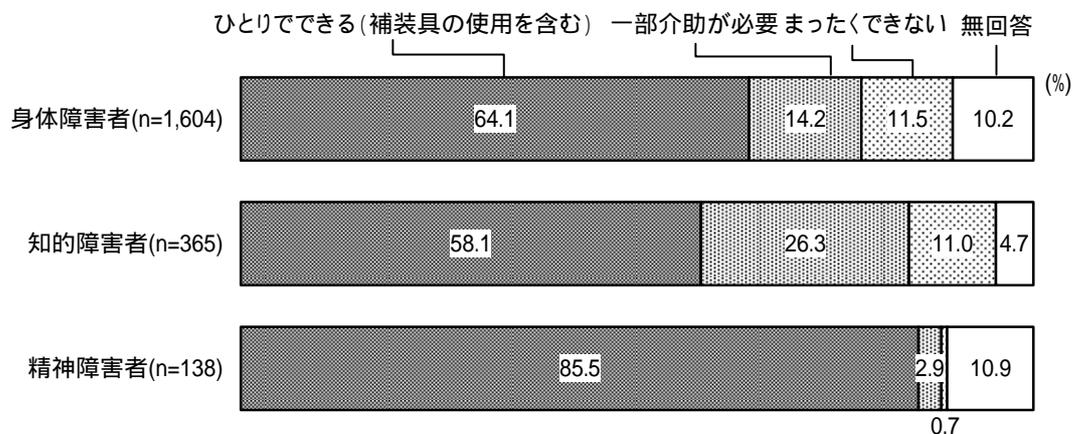
日常生活の状況（ADL等） 着替え（問3 - 4）

着替えの状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（64.1%）」が6割を超え、「一部介助が必要（14.2%）」、「まったくできない（11.5%）」がそれぞれ1割台である。

知的障害者は、「ひとりでできる（58.1%）」が6割弱であり、「一部介助が必要（26.3%）」が2割を超える。

精神障害者は、「ひとりでできる（85.5%）」が8割を超える（図表1 - 3 - 4）。

図表1 - 3 - 4 日常生活の状況（ADL等） 着替え（障害別）



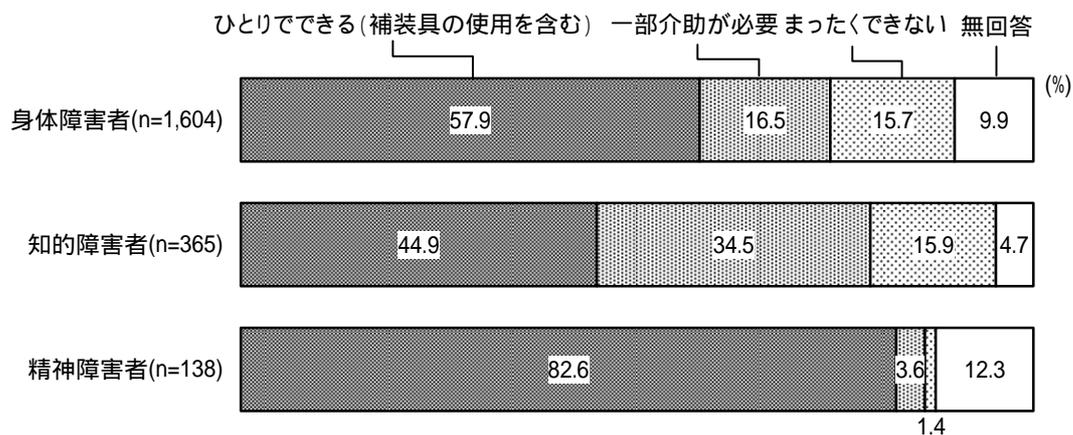
日常生活の状況（ADL等） 入浴（問3 - 5）

入浴の状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（57.9%）」が6割弱である。

知的障害者は、「ひとりでできる（44.9%）」が約4割であり、「一部介助が必要（34.5%）」が3割を超える。

精神障害者は、「ひとりでできる（82.6%）」が8割を超える（図表1 - 3 - 5）。

図表1 - 3 - 5 日常生活の状況（ADL等） 入浴（障害別）



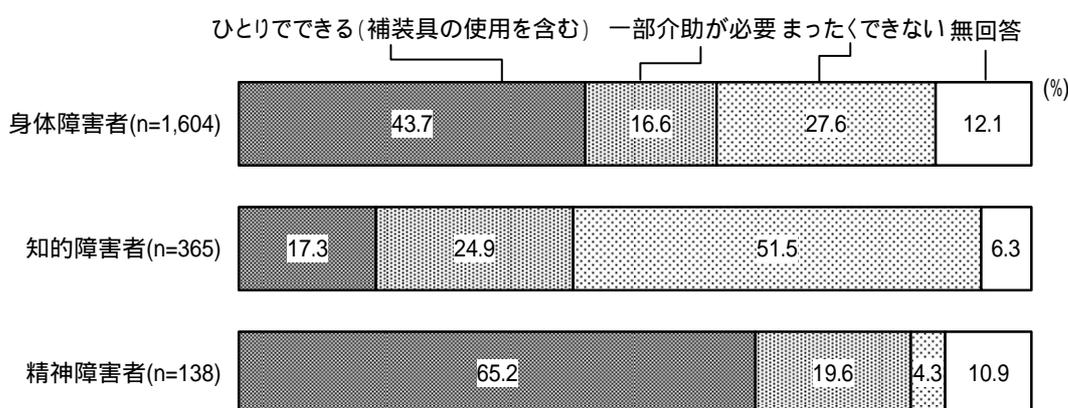
日常生活の状況（ADL等） 掃除、洗濯（問3 - 6）

掃除、洗濯の状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（43.7%）」が約4割であり、「まったくできない（27.6%）」が2割を超える。

知的障害者は、「まったくできない（51.5%）」が5割を超え、「一部介助が必要（24.9%）」が約2割である。

精神障害者は、「ひとりでできる（65.2%）」が6割を超える（図表1 - 3 - 6）。

図表1 - 3 - 6 日常生活の状況（ADL等） 掃除、洗濯（障害別）



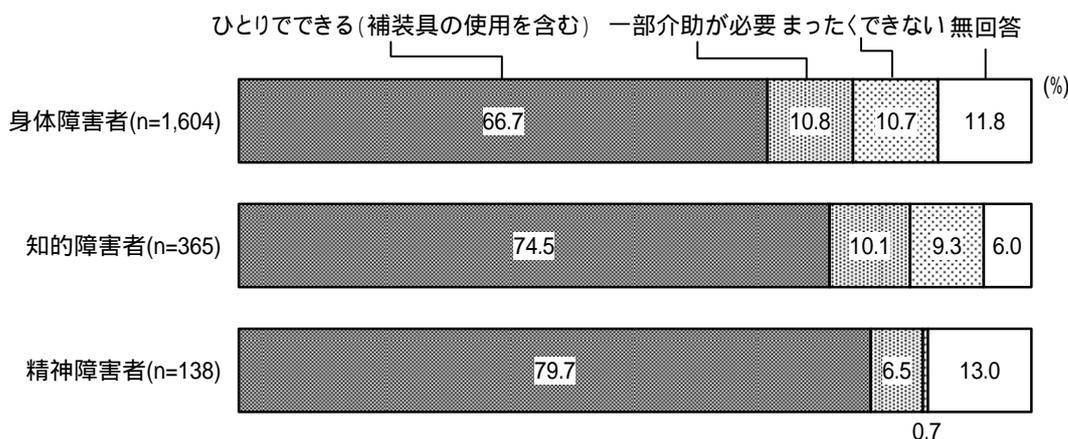
日常生活の状況（ADL等） 室内の移動（問3 - 7）

室内の移動の状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（66.7%）」が6割を超え、「一部介助が必要（10.8%）」、「まったくできない（10.7%）」がそれぞれ約1割である。

知的障害者は、「ひとりでできる（74.5%）」が7割を超える。

精神障害者は、「ひとりでできる（79.7%）」が約8割である（図表1 - 3 - 7）。

図表1 - 3 - 7 日常生活の状況（ADL等） 室内の移動（障害別）



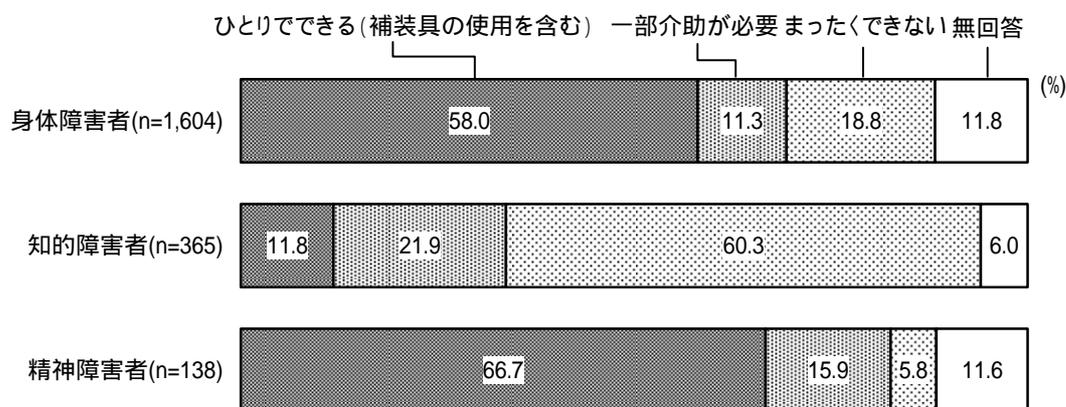
日常生活の状況（ADL等） お金の管理（問3 - 8）

お金の管理の状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（58.0%）」が約6割であり、「まったくできない（18.8%）」が約2割である。

知的障害者は、「まったくできない（60.3%）」が約6割であり、「一部介助が必要（21.9%）」が約2割である。

精神障害者は、「ひとりでできる（66.7%）」が6割を超える（図表1 - 3 - 8）

図表1 - 3 - 8 日常生活の状況（ADL等） お金の管理（障害別）



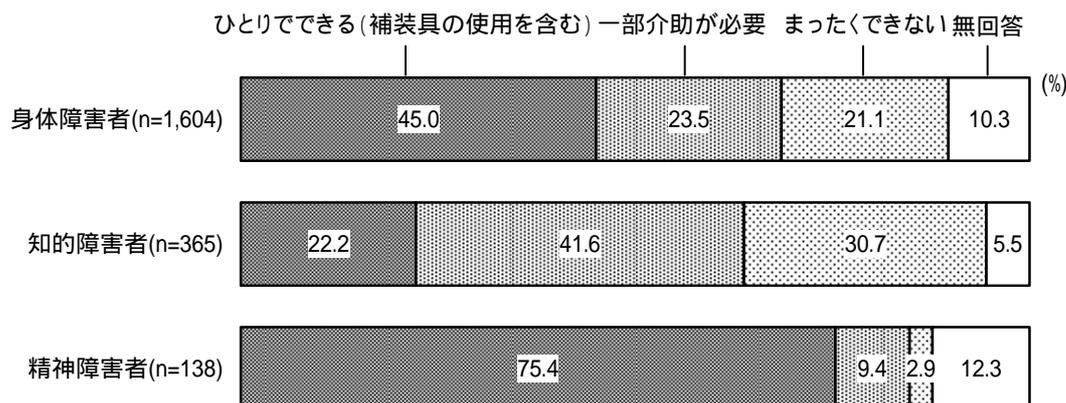
日常生活の状況（ADL等） 外出（問3 - 9）

外出の状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（45.0%）」が約4割であり、「一部介助が必要（23.5%）」、「まったくできない（21.1%）」がそれぞれ2割を超える。

知的障害者は、「一部介助が必要（41.6%）」が約4割であり、「まったくできない（30.7%）」が約3割である。

精神障害者は、「ひとりでできる（75.4%）」が7割を超える（図表1 - 3 - 9）

図表1 - 3 - 9 日常生活の状況（ADL等） 外出（障害別）



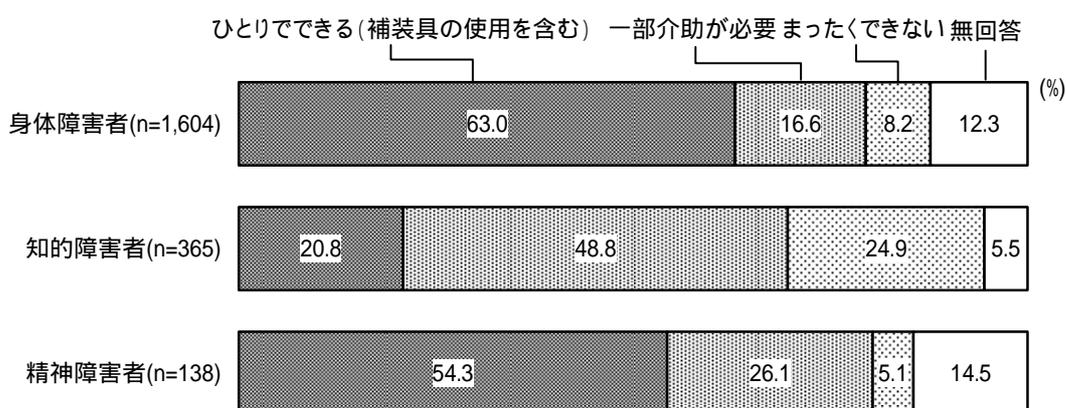
日常生活の状況（ADL等） 人とのコミュニケーション（問3 - 10）

人とのコミュニケーションの状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（63.0%）」が6割を超え、「一部介助が必要（16.6%）」が1割を超える。

知的障害者は、「一部介助が必要（48.8%）」が約5割であり、「まったくできない（24.9%）」が2割を超える。

精神障害者は、「ひとりでできる（54.3%）」が5割を超える（図表1 - 3 - 10）。

図表1 - 3 - 10 日常生活の状況（ADL等） 人とのコミュニケーション（障害別）



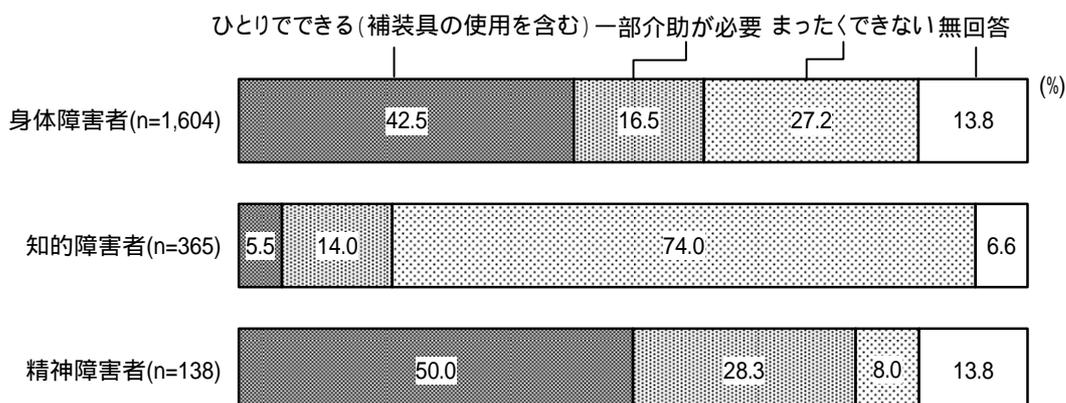
日常生活の状況（ADL等） 障害福祉サービスなどの手続き（問3 - 11）

障害福祉サービスなどの手続きの状況は、身体障害者は、「ひとりでできる（42.5%）」が4割を超え、「まったくできない（27.2%）」が3割弱である。

知的障害者は、「まったくできない（74.0%）」が7割を超える。

精神障害者は、「ひとりでできる（50.0%）」が5割である（図表1 - 3 - 11）。

図表1 - 3 - 11 日常生活の状況（ADL等） 障害福祉サービスなどの手続き（障害別）



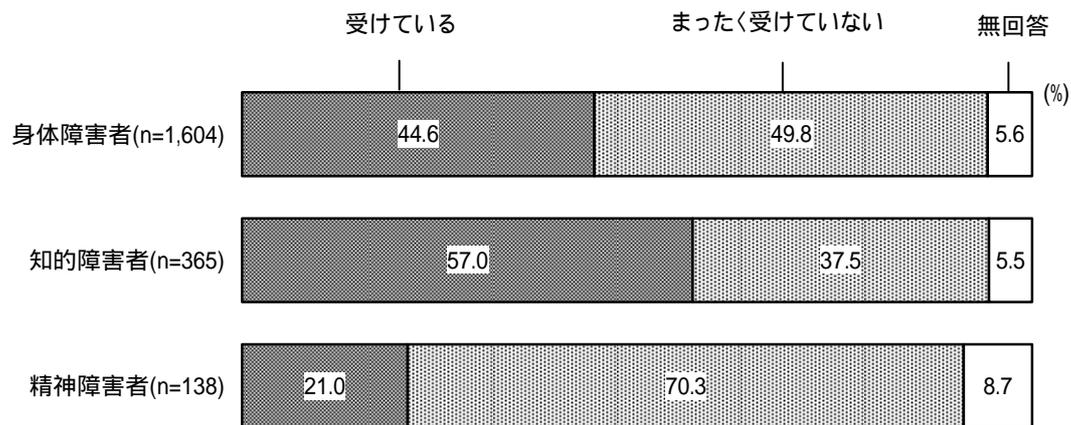
介助の状況（問4）

日常生活の介助の状況は、身体障害者は、「受けている（44.6%）」、「まったく受けていない（49.8%）」が約5割ずつである。

知的障害者は、「受けている（57.0%）」が5割を超えている。

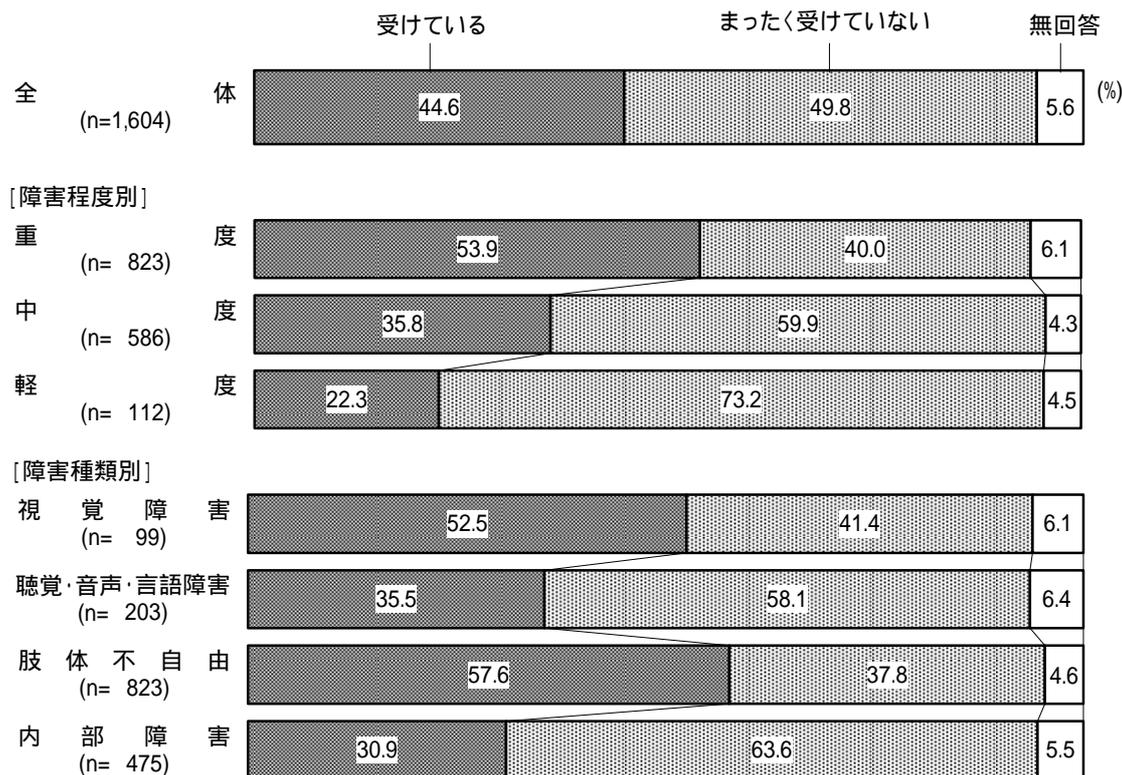
精神障害者は、「まったく受けていない（70.3%）」が約7割である（図表1 - 3 - 12 - ）。

図表1 - 3 - 12 - 介助の状況（障害別）



身体障害者を障害程度別に見ると、障害が重いほど「受けている」が多くなるが、重度でも53.9%であり、「まったく受けていない」が40.0%となっている。障害種類別では、視覚障害者と肢体不自由は「受けている」が過半数だが、聴覚・音声・言語障害、内部障害は「まったく受けていない」が60%前後を占める（図表1-3-12- ）。

図表1-3-12- 介助の状況（身体障害者：障害程度別、障害種類別）

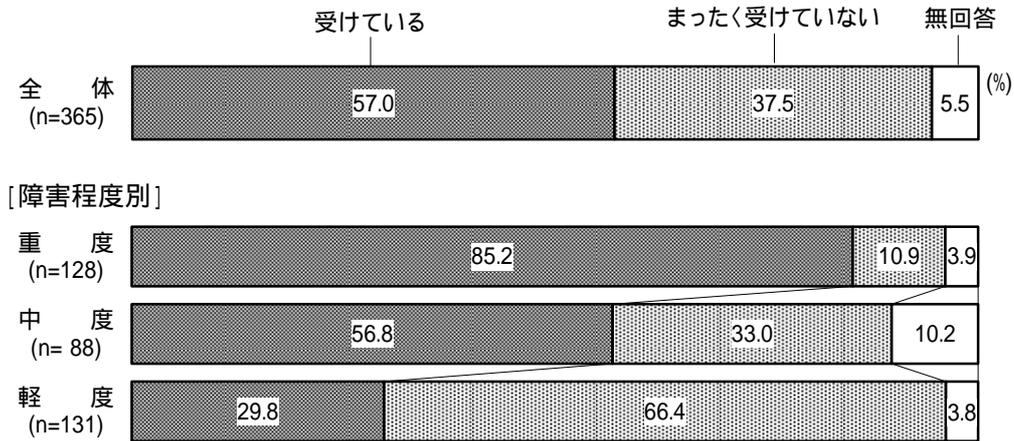


身体障害者の障害程度別の区分は次のとおりである。

- 重度：身体障害者手帳1、2級
- 中度：身体障害者手帳3、4級
- 軽度：身体障害者手帳5、6級

知的障害者を障害程度別に見ると、身体障害者と同様に、障害が重いほど「受けている」が多くなっているが、重度は85.2%と80%を超え、「まったく受けていない」は10.9%となっている（図表1 - 3 - 12 - ）。

図表1 - 3 - 12 - 介助の状況（知的障害者：障害程度別）

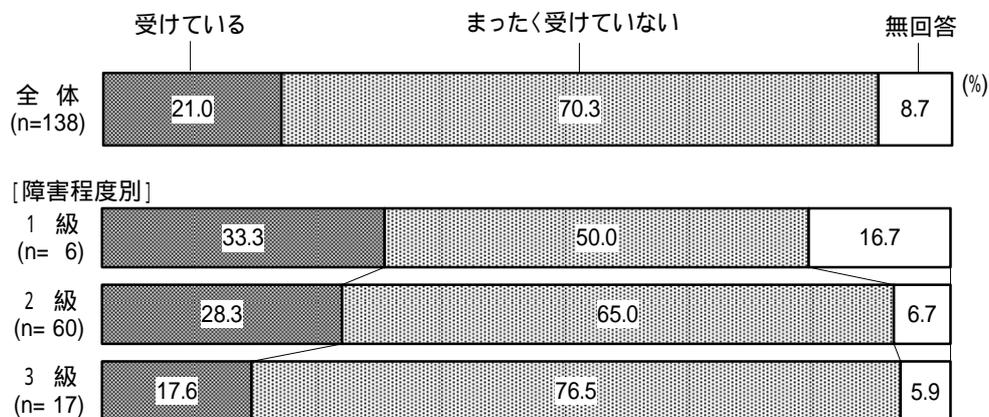


知的障害者の障害程度別の区分は次のとおりである。

- 重度：愛の手帳1、2度
- 中度：愛の手帳3度
- 軽度：愛の手帳4度

精神障害者も障害が重いほど「受けている」が多いが、1級でも33.3%にとどまり、「まったく受けていない」が50.0%と半数を占める（図表1 - 3 - 12 - ）。

図表1 - 3 - 12 - 介助の状況（精神障害者：障害程度別）



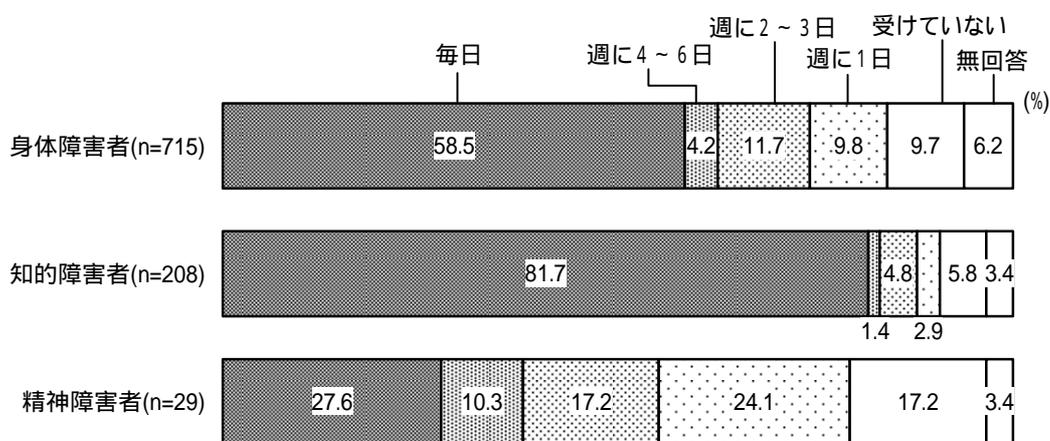
家族等介助の頻度（問4 - 1）

介助を受けていると回答した人に、家族・親族等の介助の頻度をたずねたところ、身体障害者は、「毎日（58.5%）」が最も多く、「受けていない（9.7%）」は約1割である。

知的障害者は、「毎日（81.7%）」が8割を超える。

精神障害者は、「毎日（27.6%）」が最も多く、「週に1回（24.1%）」が続いている。「受けていない（17.2%）」は2割弱である（図表1 - 3 - 13 - ）。

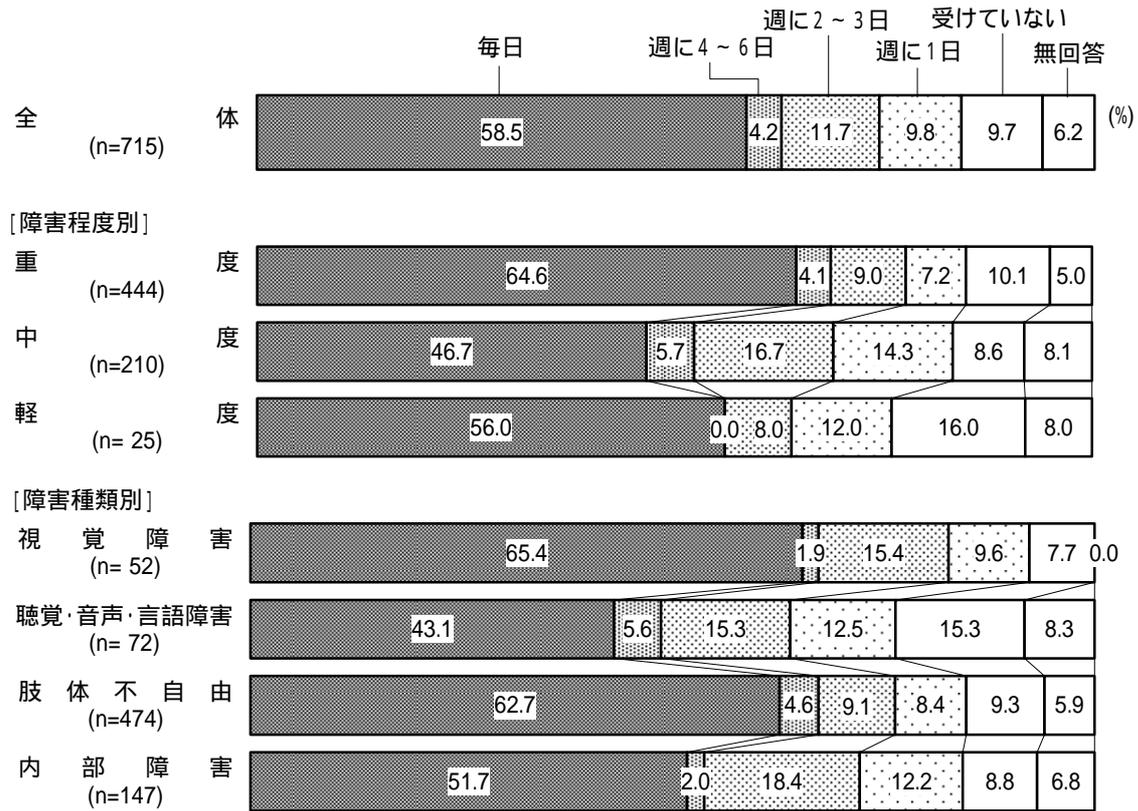
図表1 - 3 - 13 - 家族等介助の頻度
 < 介助を受けていると回答した人 >（障害別）



身体障害者を障害程度別及び障害種類別に見ると、まず、障害程度別では、いずれも「毎日」が最も多いが、重度は64.6%と6割を超える。障害種類別でも、「毎日」が最も多いが、視覚障害と肢体不自由が60%台である（図表1-3-13- ）。

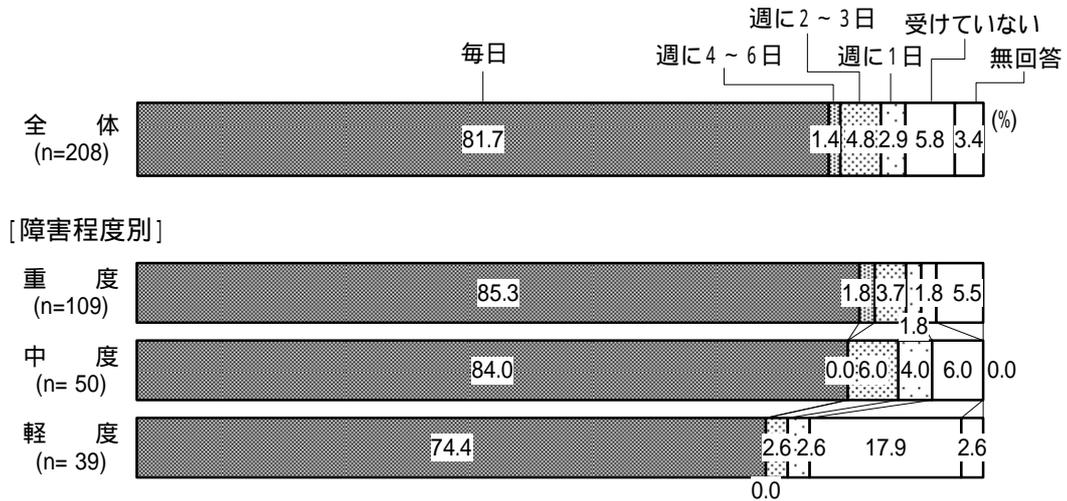
図表1-3-13- 家族等介助の頻度

< 介助を受けていると回答した身体障害者 >（障害程度別、障害種類別）



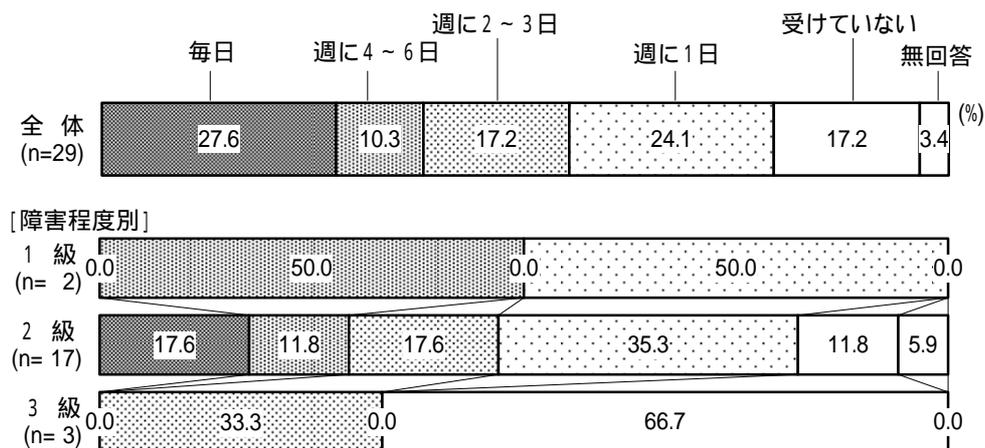
知的障害者を障害程度別に見ると、いずれも「毎日」が最も多いが、中度は84.0%、重度は85.3%といずれも8割を超え、家族介助の依存度が高い(図表1-3-13-)。

図表1-3-13- 家族等介助の頻度
 < 介助を受けていると回答した知的障害者 > (障害程度別)



精神障害者を障害程度別に見ると、2級は「週に1日(35.3%)」が最も多い(図表1-3-13-)。

図表1-3-13- 家族等介助の頻度
 < 介助を受けていると回答した精神障害者 > (障害程度別)



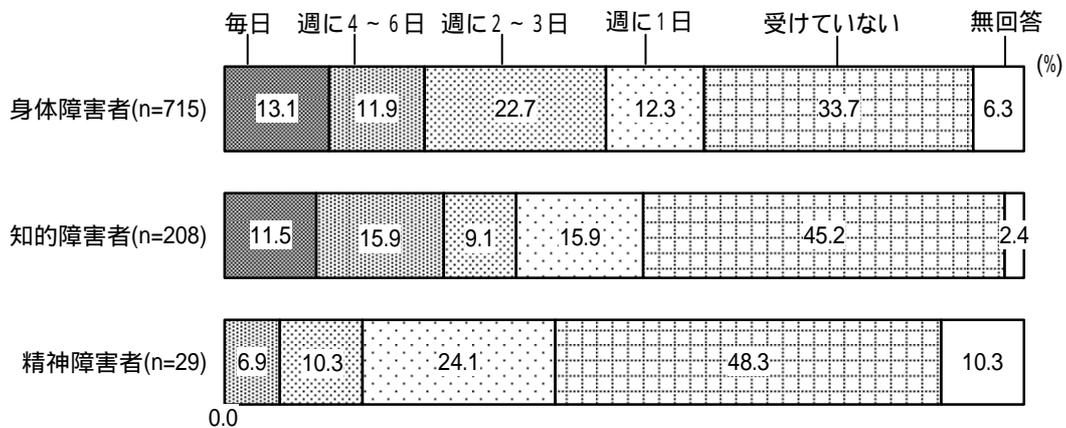
公的サービスによる介助の頻度（問4 - 2）

介助を受けていると回答した人に、公的サービスによる介助の頻度をたずねたところ、身体障害者は、「受けていない（33.7%）」が3割を超え、「週に2～3日（22.7%）」が約2割である。

知的障害者は、「受けていない（45.2%）」が4割を超える。

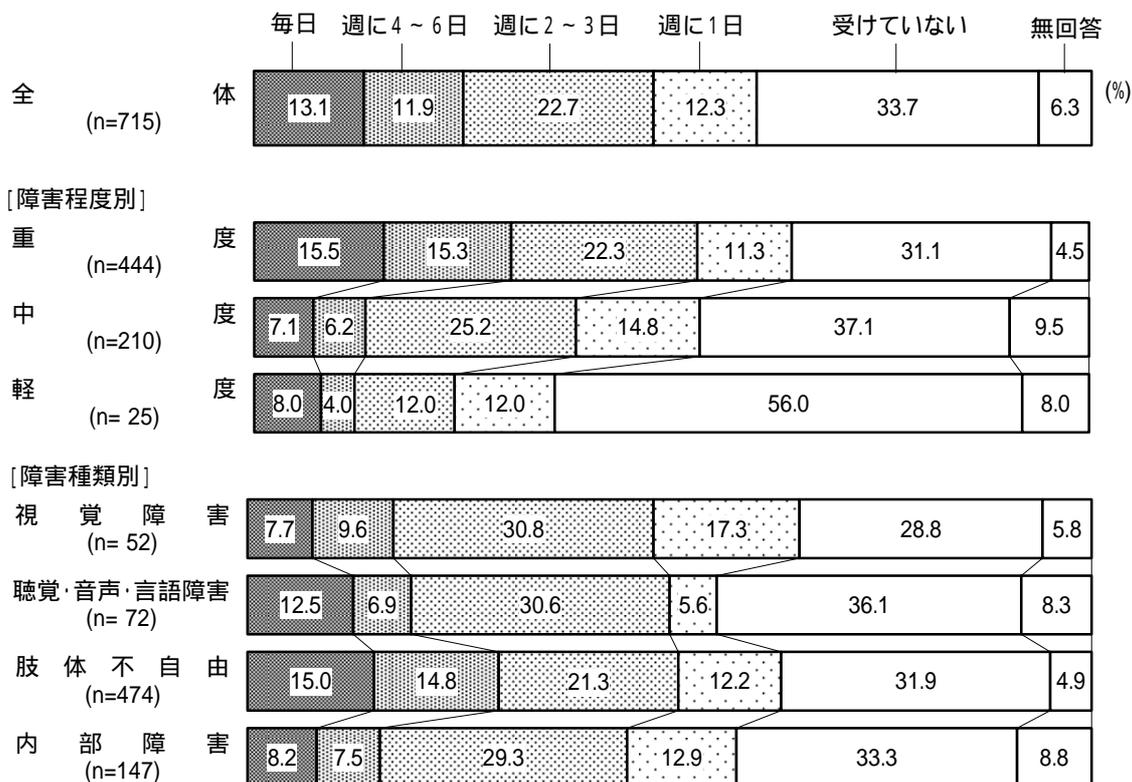
精神障害者は、「受けていない（48.3%）」が5割弱である（図表1 - 3 - 14 - ）。

図表1 - 3 - 14 - 公的サービスによる介助の頻度
 < 介助を受けていると回答した人 >（障害別）



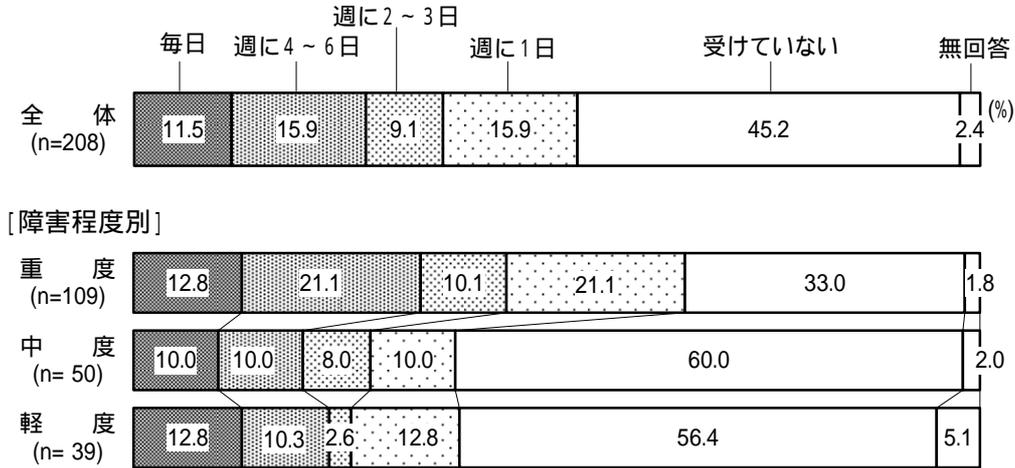
身体障害者を障害程度別に見ると、いずれも「受けていない」が最も多く、重度でも31.1%とおおよそ3割を占める（図表1-3-14- ）。

図表1-3-14- 公的サービスによる介助の頻度
 < 介助を受けていると回答した身体障害者 >（障害程度別、障害種類別）



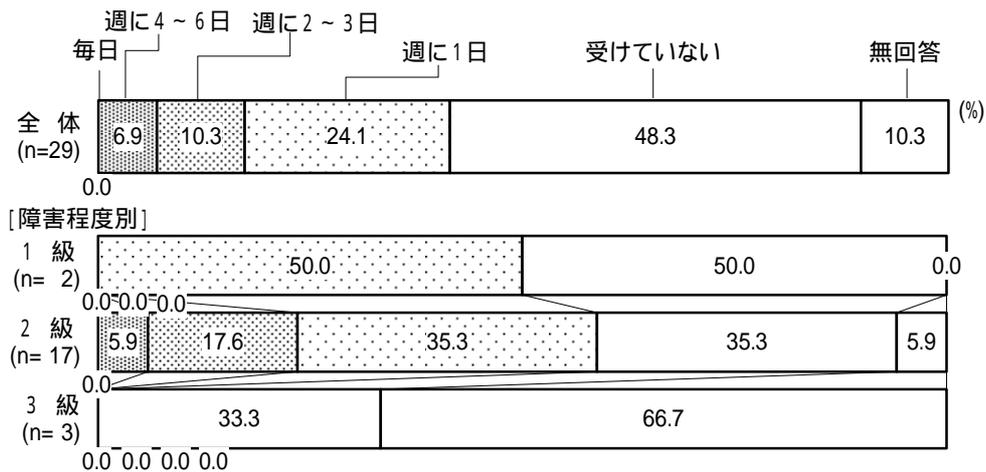
知的障害者を障害程度別に見ると、身体障害者と同様に、いずれも「受けていない」が最も多く、重度でも33.0%とおよそ3割を占める（図表1-3-14- ）。

図表1-3-14- 公的サービスによる介助の頻度
 < 介助を受けていると回答した知的障害者 >（障害程度別）



精神障害者を障害程度別に見ると、2級は「受けていない(35.3%)」が最も多い（図表1-3-14- ）。

図表1-3-14- 公的サービスによる介助の頻度
 < 介助を受けていると回答した精神障害者 >（障害程度別）



(4) 日ごろの活動

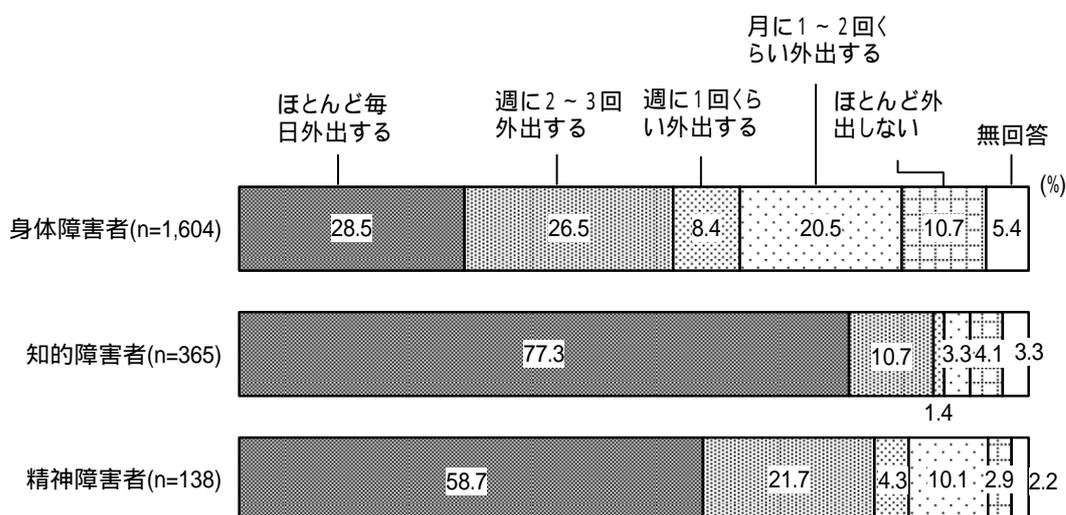
通学、通勤等による外出の頻度(問5)

通学、通勤、通所、通院のために外出する頻度は、身体障害者は、「ほとんど毎日外出する(28.5%)」が最も多く、「週に2~3回外出する(26.5%)」が続いている。また、「ほとんど外出しない(10.7%)」が約1割である。

知的障害者は、「ほとんど毎日外出する(77.3%)」が7割を超える。

精神障害者は、「ほとんど毎日外出する(58.7%)」が最も多く、「週に2~3回外出する(21.7%)」が続いている(図表1-4-1)。

図表1-4-1 通学、通勤等による外出の頻度(障害別)



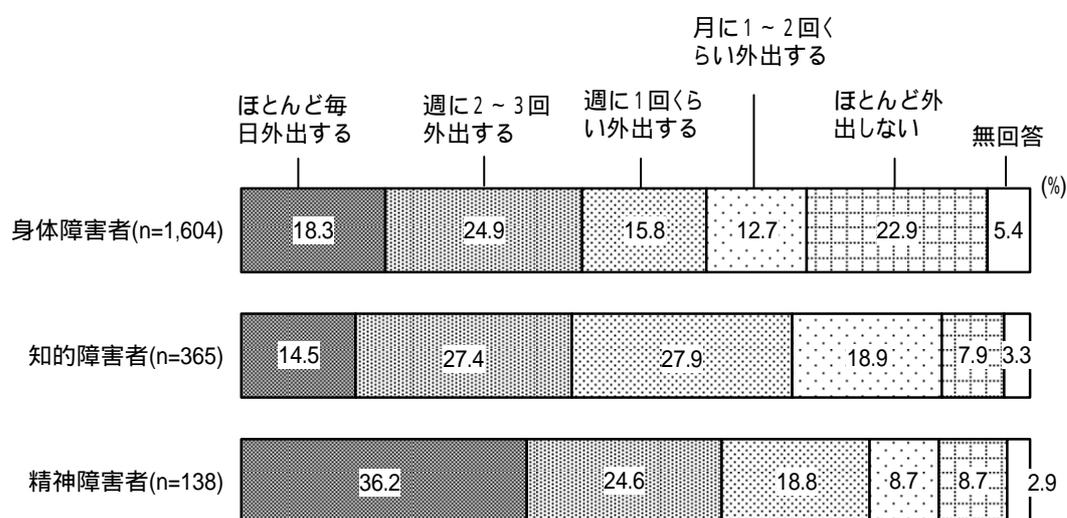
余暇等による外出の頻度（問6）

余暇活動等のために外出する頻度は、身体障害者は、「週に2～3回外出する（24.9%）」が最も多く、「ほとんど外出しない（22.9%）」が続いている。

知的障害者は、「週に1回くらい外出する（27.9%）」が最も多く、「週に2～3回外出する（27.4%）」が続いている。

精神障害者は、「ほとんど毎日外出する（36.2%）」が最も多く、「週に2～3回外出する（24.6%）」が続いている（図表1-4-2）。

図表1-4-2 余暇等による外出の頻度（障害別）



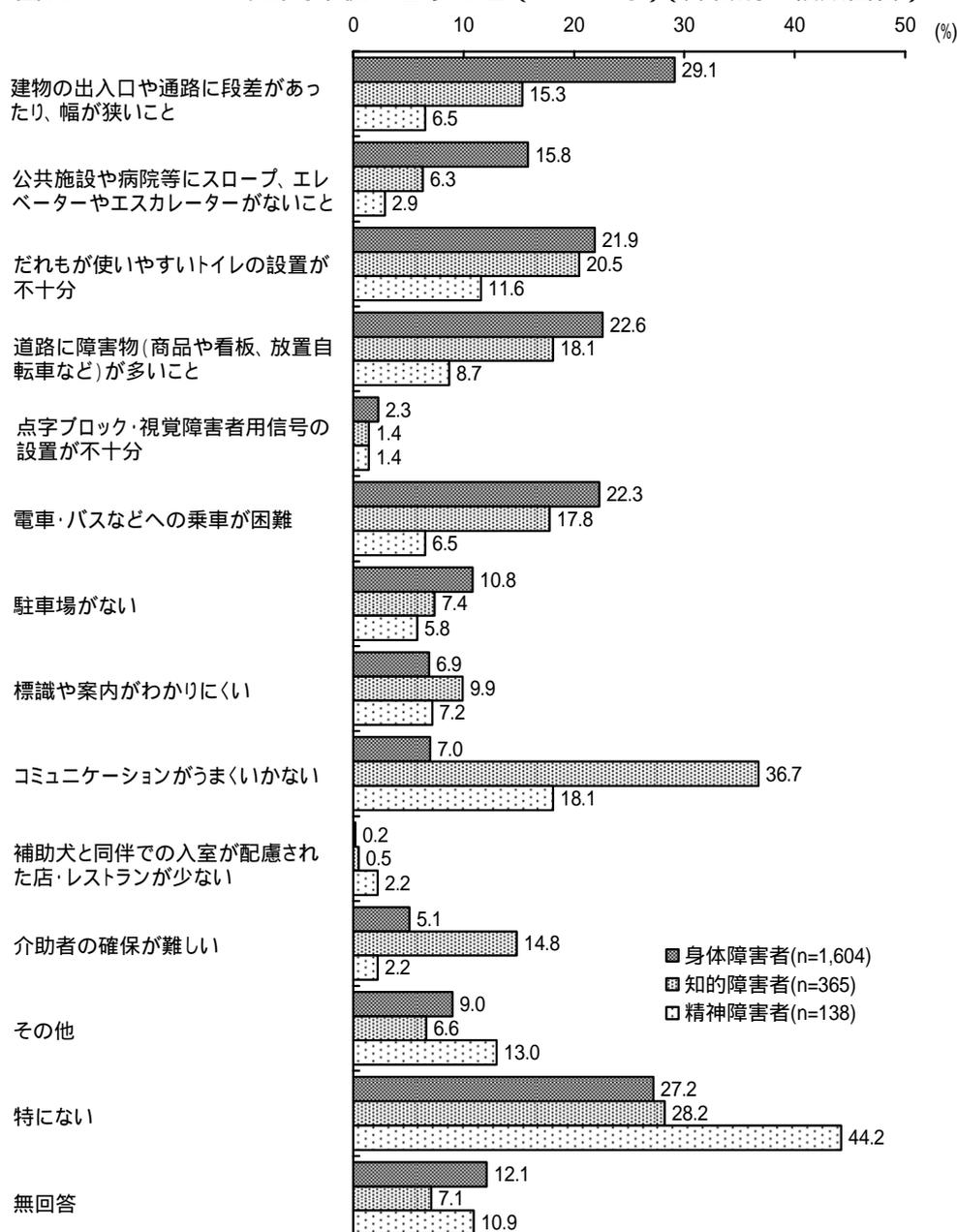
外出時不便に思うこと(バリア等)(問7)

外出時に不便に思うことは、身体障害者は、「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと(29.1%)」が最も多く、「特にない(27.2%)」が3割弱である。「道路に障害物が多いこと(22.6%)」が続いている。

知的障害者は、「コミュニケーションがうまくいかない(36.7%)」が最も多く、「特にない(28.2%)」が3割弱である。「だれもが使いやすいトイレの設置が不十分(20.5%)」が続いている。

精神障害者は、「特にない(44.2%)」が4割を超える。不便に思うことは、「コミュニケーションがうまくいかない(18.1%)」、「だれもが使いやすいトイレの設置が不十分(11.6%)」がそれぞれ1割台である(図表1-4-3)。

図表1-4-3 外出時不便に思うこと(バリア等)(障害別:複数回答)



(5) 就労

現在の仕事(問8)

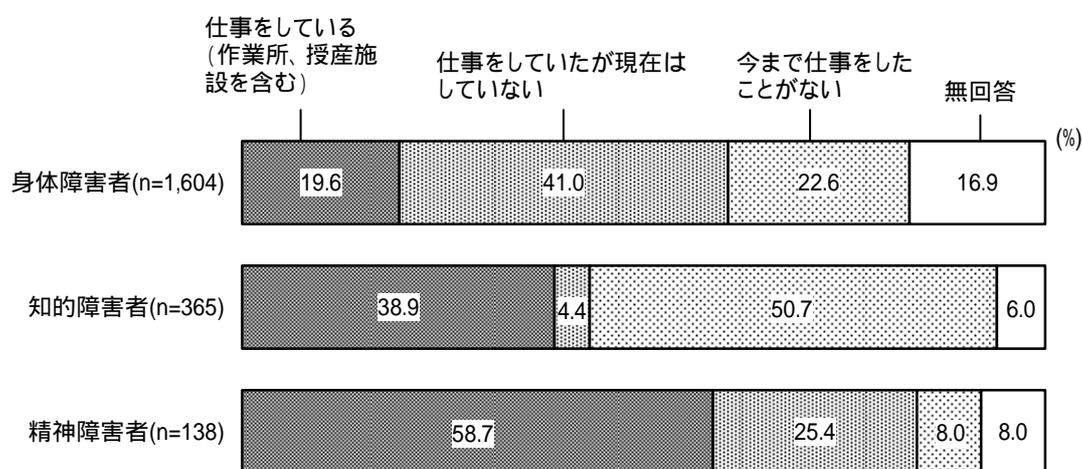
身体障害者は、「仕事をしている」が19.6%であり、18歳以上では20.7%である。

知的障害者は、「仕事をしている」が38.9%であり、18歳以上では、61.0%である。

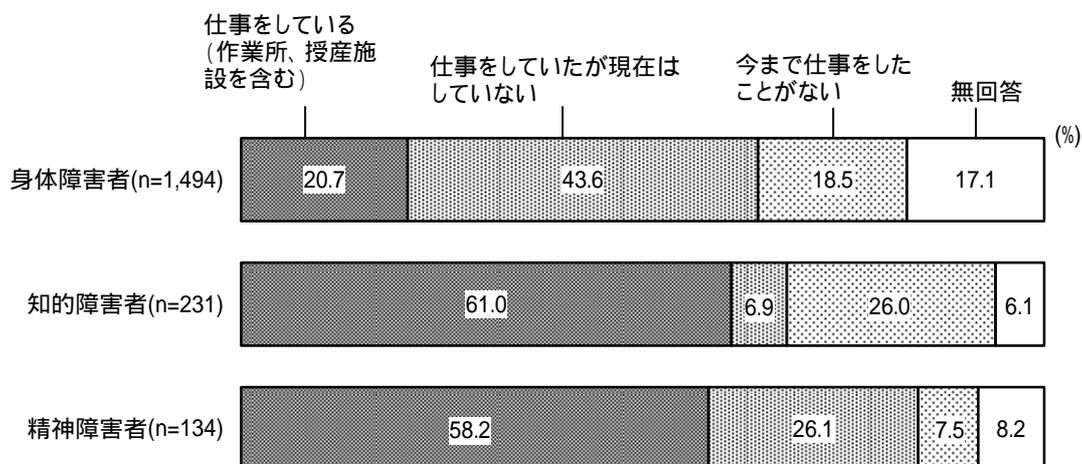
精神障害者は、「仕事をしている」が58.7%であり、18歳以上では58.2%である(図表1

- 5 - 1 - 、)

図表1 - 5 - 1 - 現在の仕事(障害別)



図表1 - 5 - 1 - 現在の仕事(18歳以上、障害別)



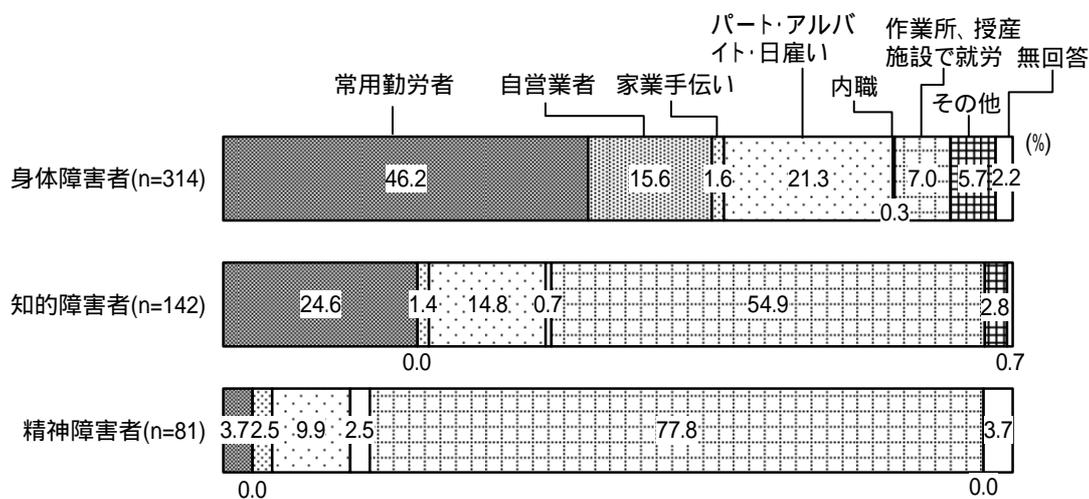
仕事の形態（問8 - 1）

仕事をしていると回答した人に、仕事の形態をたずねたところ、身体障害者は、「常用勤労者（46.2%）」が最も多く、「パート・アルバイト・日雇い（21.3%）」が続いている。

知的障害者は、「作業所、授産施設で就労（54.9%）」が最も多く、「常用勤労者（24.6%）」が続いている。

精神障害者は、「作業所、授産施設で就労（77.8%）」が8割弱である（図表1 - 5 - 2）。

図表1 - 5 - 2 仕事の形態
 <仕事をしていると回答した人>（障害別）



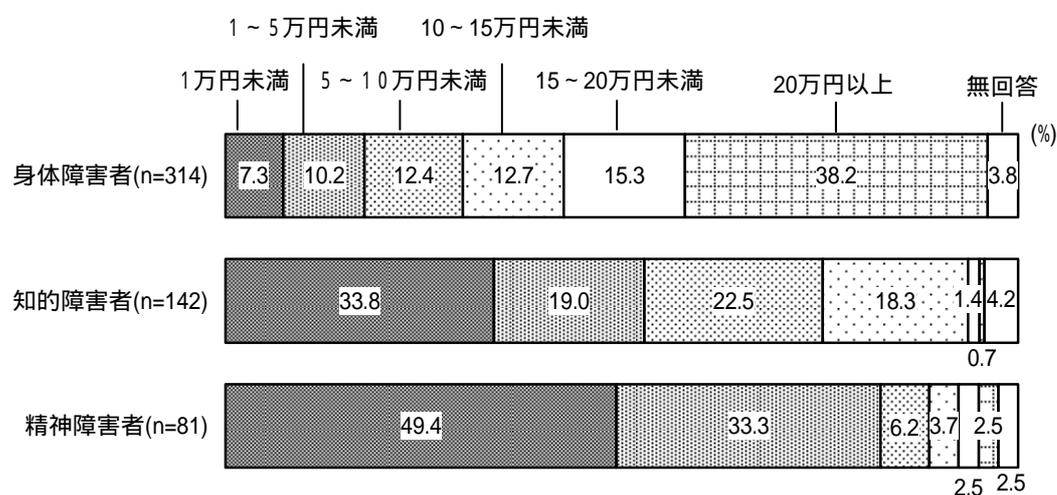
月収（問8 - 2）

仕事をしていると回答した人に、月収をたずねたところ、身体障害者は、「20万円以上（38.2%）」が最も多く、「15～20万円未満（15.3%）」が続いている。

知的障害者は、「作業所、授産施設」に就労している人が5割程度ということもあり、「1万円未満（33.8%）」が最も多く、「5～10万円未満（22.5%）」が続いている。

精神障害者は、「作業所、授産施設」が8割弱ということもあり、「1万円未満（49.4%）」が約5割であり、「1～5万円未満（33.3%）」が続いている（図表1 - 5 - 3）。

図表1 - 5 - 3 月収
 <仕事をしていると回答した人>（障害別）



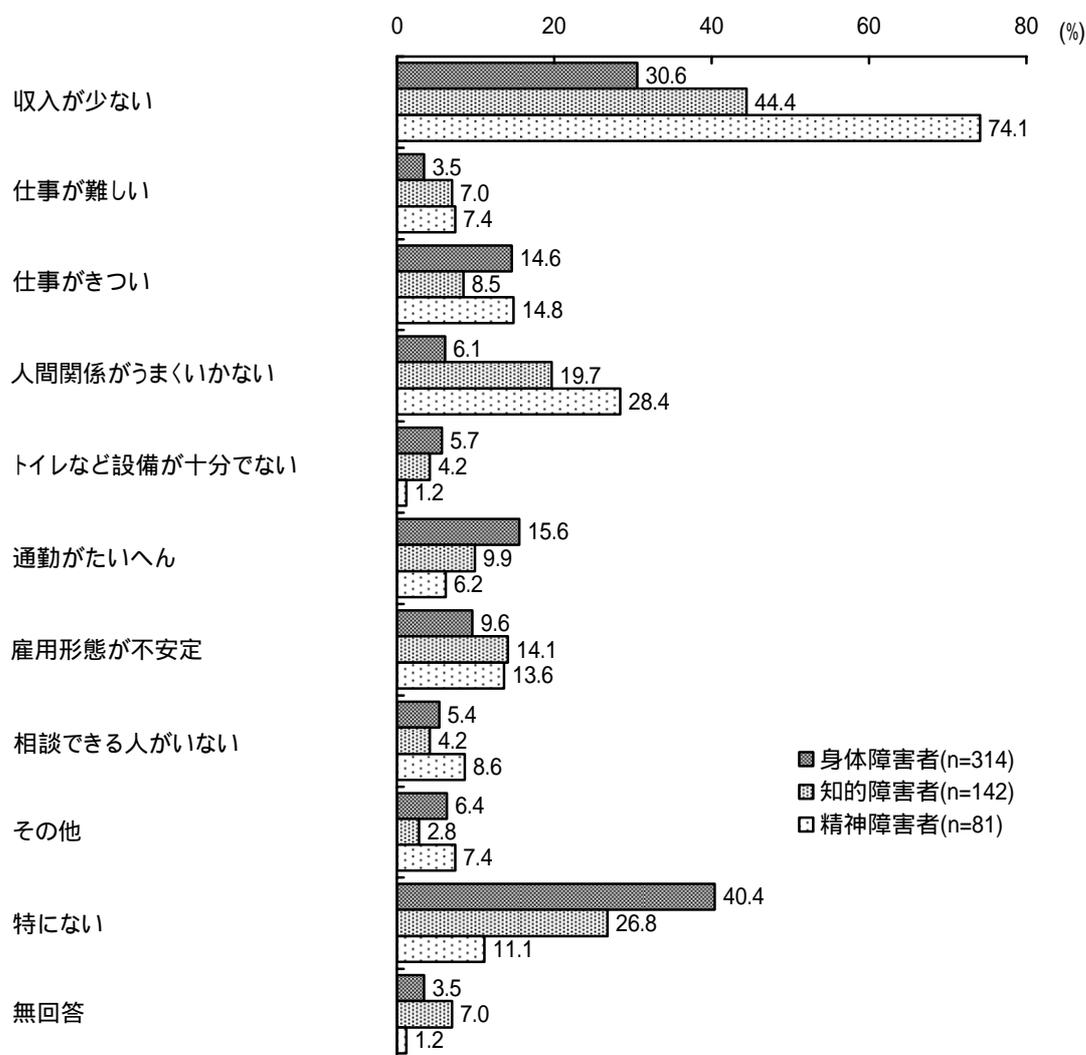
仕事上の不安（問8 - 3）

仕事をしていると回答した人に、仕事をする上での不安をたずねたところ、身体障害者は、「収入が少ない（30.6%）」が約3割であり、「通勤がたいへん（15.6%）」、「仕事がつらい（14.6%）」が続いているが、「特にない」も40.4%である。

知的障害者は、「収入が少ない（44.4%）」が最も多く、「人間関係がうまくいかない（19.7%）」が2割弱であるが、「特にない」も26.8%である。

精神障害者は、「収入が少ない（74.1%）」が最も多く、「人間関係がうまくいかない（28.4%）」が続いている（図表1 - 5 - 4）。

図表1 - 5 - 4 仕事上の不安
 <仕事をしていると回答した人>（障害別：複数回答）



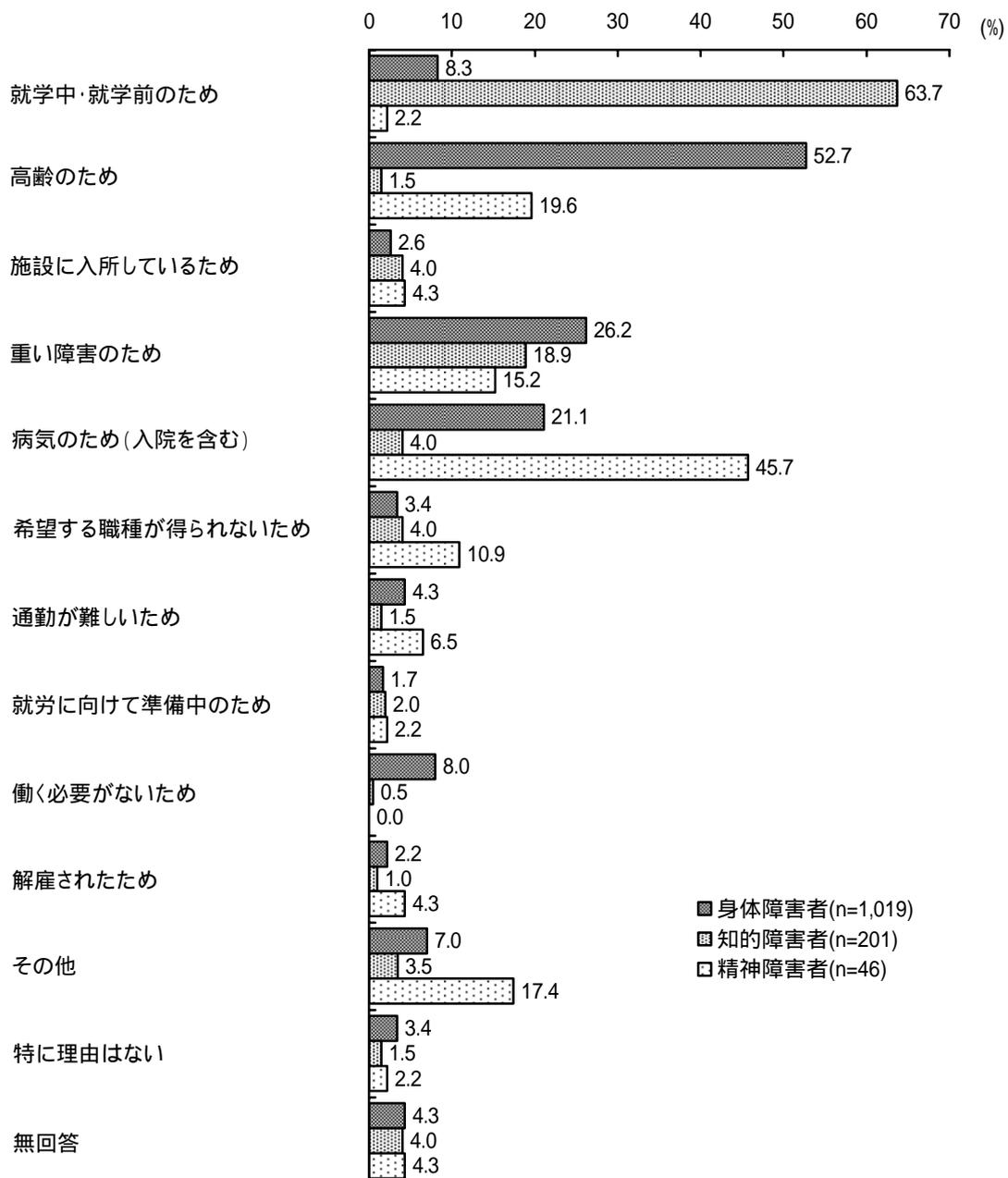
仕事をしていない理由（問8 - 4）

仕事をしていないと回答した人に、仕事をしていない理由をたずねたところ、身体障害者は、「高齢のため（52.7%）」が5割を超え最も多く、「重い障害のため（26.2%）」、「病気のため（21.1%）」が続いている。

知的障害者は、「就学中・就学前のため（63.7%）」が最も多く、「重い障害のため（18.9%）」が続いている。

精神障害者は、「病気のため（45.7%）」が最も多く、「高齢のため（19.6%）」が続いている（図表1 - 5 - 5）。

図表1 - 5 - 5 仕事をしていない理由
 <仕事をしていないと回答した人>（障害別：複数回答）



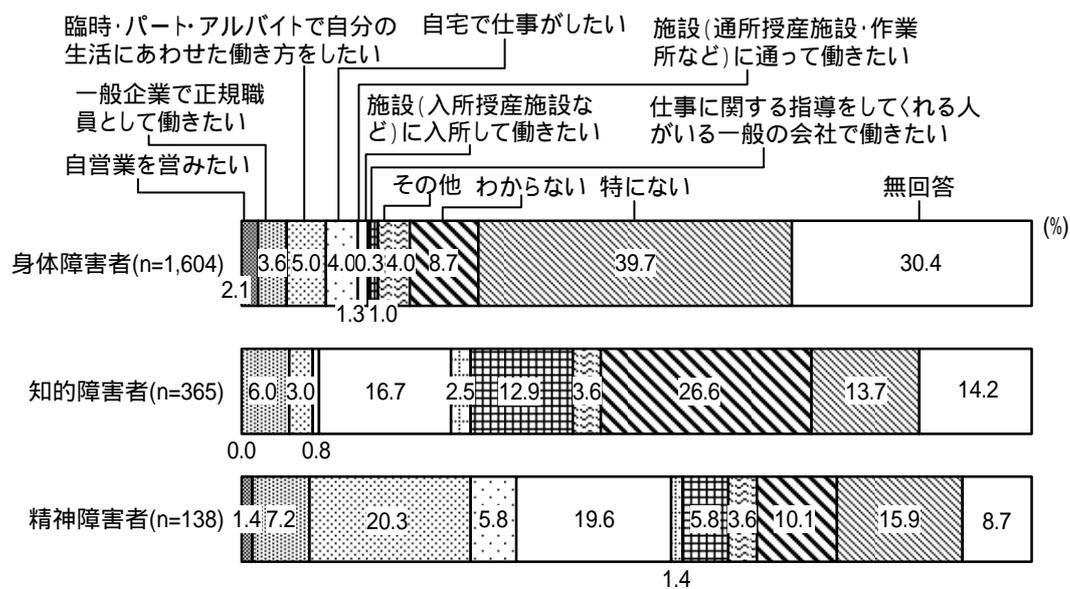
今後したい仕事（問9）

今後したい仕事は、身体障害者は、「特にない（39.7%）」と「わからない（8.7%）」を合計すると5割弱になる。それ以外では、「臨時・パート・アルバイトなどで自分の生活にあわせた働き方をしたい（5.0%）」が最も多く、「自宅で仕事がしたい（4.0%）」が続いている。

知的障害者は、「特にない（13.7%）」と「わからない（26.6%）」を合計すると約4割になる。それ以外では、「施設（通所授産施設・作業所など）に通って働きたい（16.7%）」が最も多く、「仕事の指導をしてくれる人がいる一般の会社で働きたい（12.9%）」が続いている。

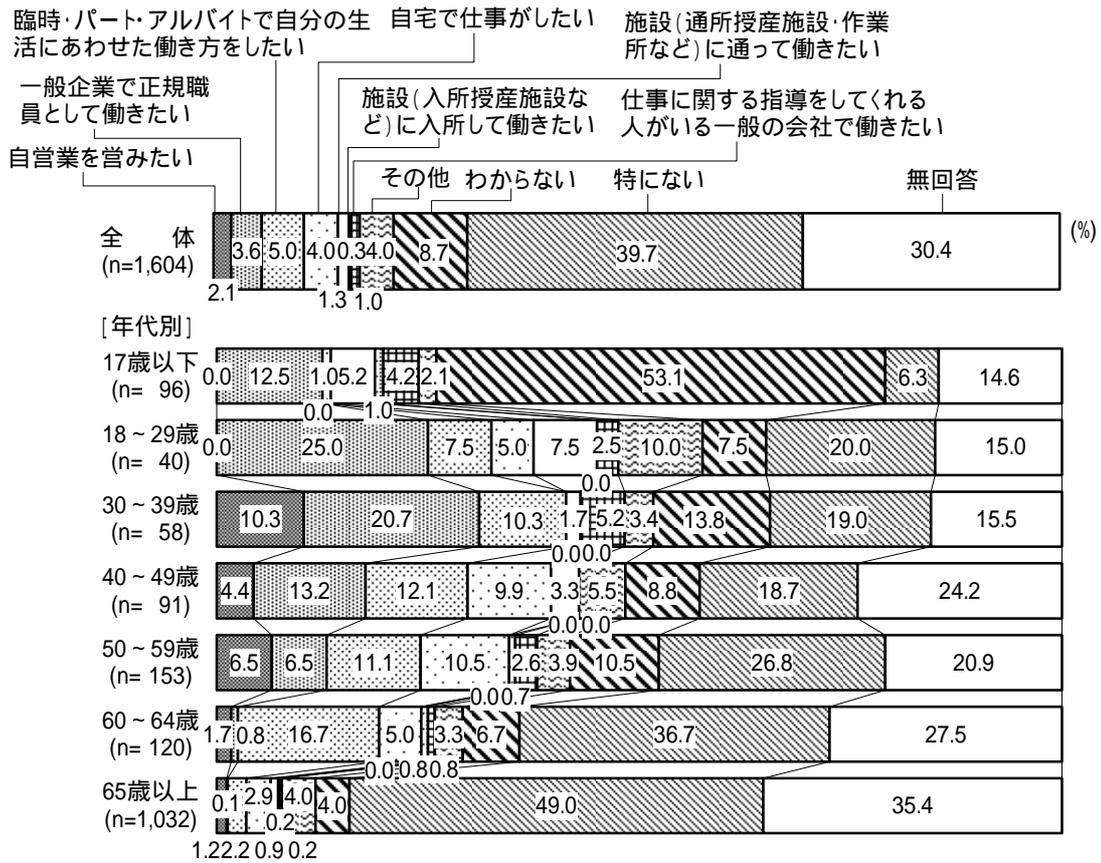
精神障害者は、「臨時・パート・アルバイトなどで自分の生活にあわせた働き方をしたい（20.3%）」が最も多く、「施設（通所授産施設・作業所など）に通って働きたい（19.6%）」が続いている（図表1-5-6- ）。

図表1-5-6- 今後したい仕事（障害別）



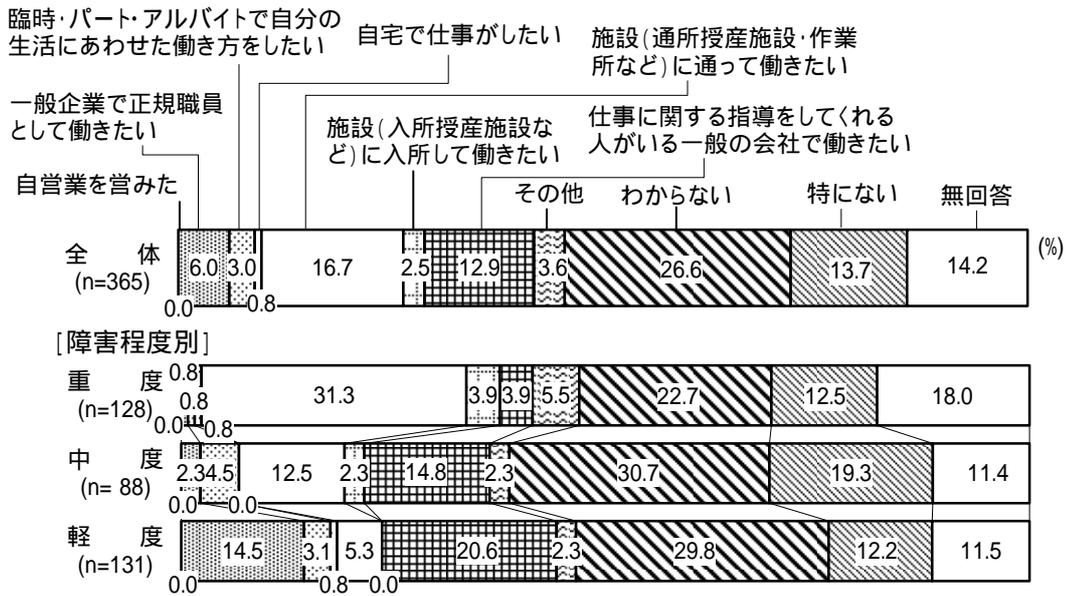
身体障害者を年代別に見ると、17歳以下は「わからない(53.1%)」が過半数を占める。18～29歳、30～39歳は「一般企業で正規職員として働きたい(それぞれ25.0%、20.7%)」が最も多い。40歳以上の各年代は「特にない」が最も多いが、年代が上がるほどその割合が増し、65歳以上では49.0%とおおよそ半数を占める(図表1-5-6-)。

図表1-5-6- 今後したい仕事(身体障害者:年代別)



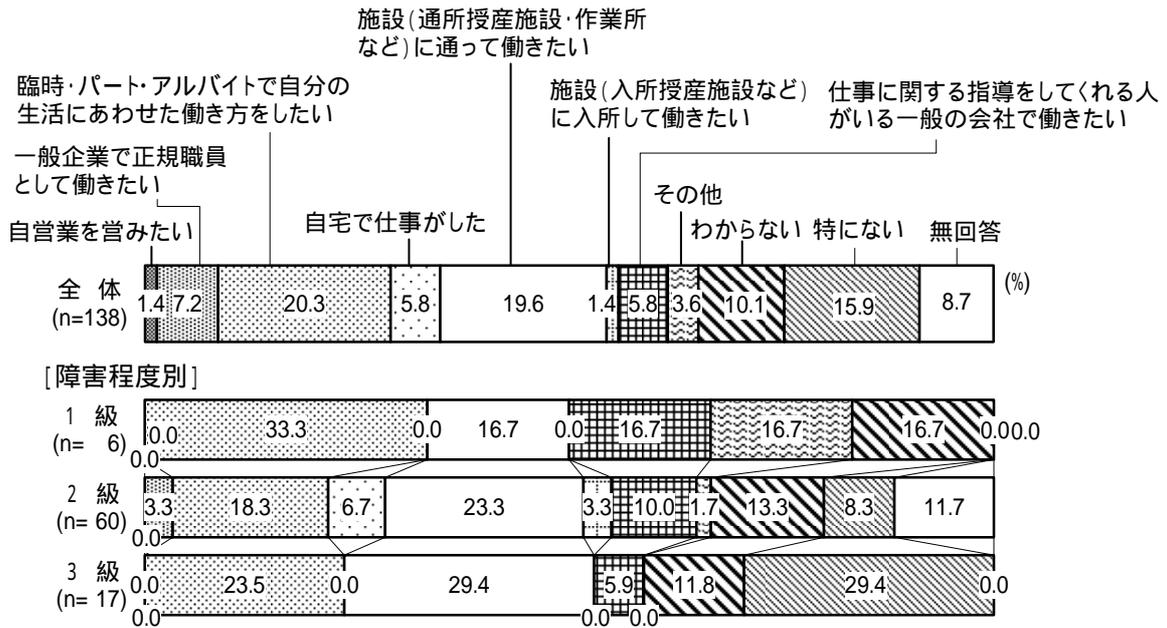
知的障害者については障害程度別に見ると、全般的に「わからない」、「特にない」、「無回答」が多くを占めるものの、重度は「施設（通所授産施設・作業所など）に通って働きたい（31.3%）」がおおよそ3割、中度、軽度は「仕事の指導をしてくれる人がいる一般の会社で働きたい（それぞれ14.8%、20.6%）」が10～20%台であり、また、軽度は「一般企業で正規職員として働きたい（14.5%）」と、（支援付きを含む）一般就労を望む回答も少なくない（図表1-5-6- ）。

図表1-5-6- 今後したい仕事（知的障害者：障害程度別）



精神障害者を障害程度別に見ると、1級は「臨時・パート・アルバイトなどで自分の生活にあわせた働き方をしたい(33.3%)」がおよそ3割となっている。2級及び3級は「施設(通所授産施設・作業所など)に通って働きたい(それぞれ23.3%、29.4%)」が20%台であり、通所施設を志向する傾向がやや強い(図表1-5-6-)。

図表1-5-6- 今後したい仕事(精神障害者:障害程度別)



(6) 地域生活

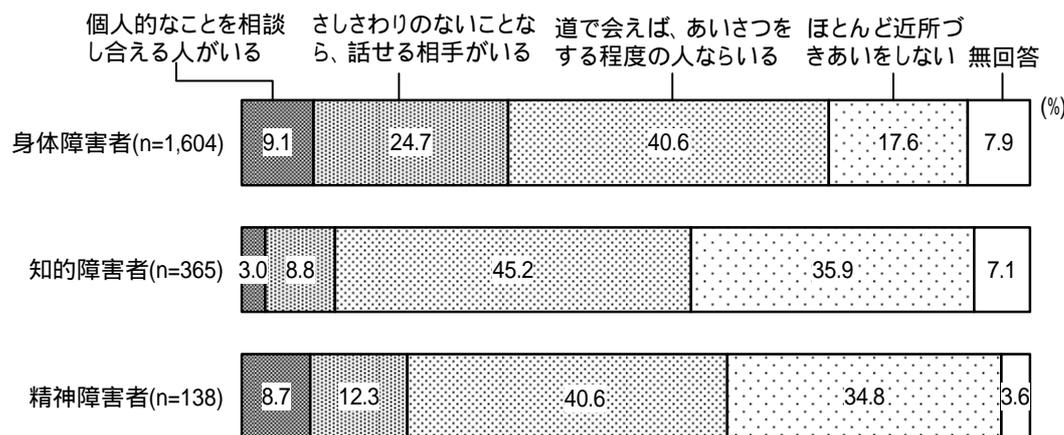
近所づきあいの程度(問10)

隣近所の人とのつきあいの程度は、身体障害者は、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる(40.6%)」が最も多く、「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる(24.7%)」が続いている。

知的障害者は、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる(45.2%)」が最も多く、「ほとんど近所づきあいをしない(35.9%)」が続いている。

精神障害者は、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる(40.6%)」が最も多く、「ほとんど近所づきあいをしない(34.8%)」が続いている(図表1-6-1)

図表1-6-1 近所づきあいの程度(障害別)



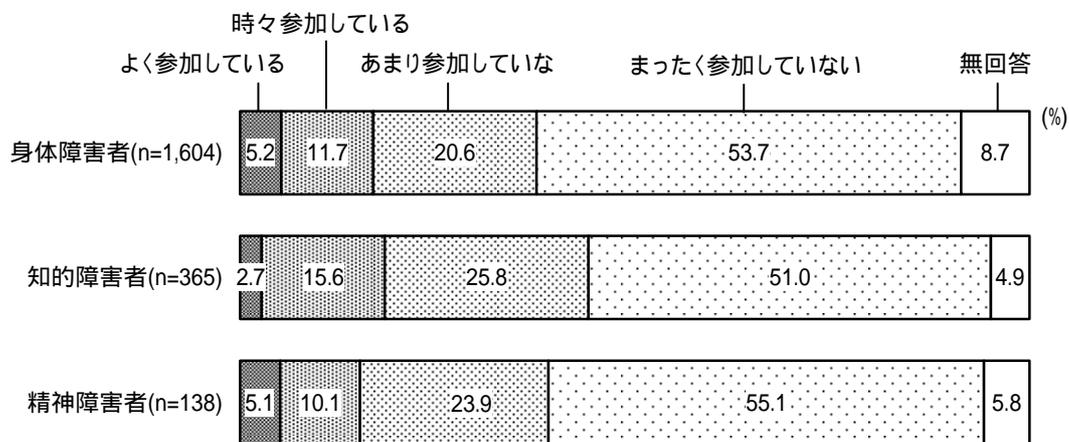
地域活動への参加程度（問 11）

地域活動やボランティア活動、地域の行事への参加程度は、身体障害者は、「まったく参加していない」が 53.7%である。「よく参加している」と「時々参加している」を合計すると 16.9%である。

知的障害者は、「まったく参加していない」が 51.0%である。「よく参加している」と「時々参加している」を合計すると 18.3%である。

精神障害者は、「まったく参加していない」が 55.1%である。「よく参加している」と「時々参加している」を合計すると 15.2%である（図表 1 - 6 - 2）。

図表 1 - 6 - 2 地域活動への参加程度（障害別）



参加している地域活動の種類（問11-1）

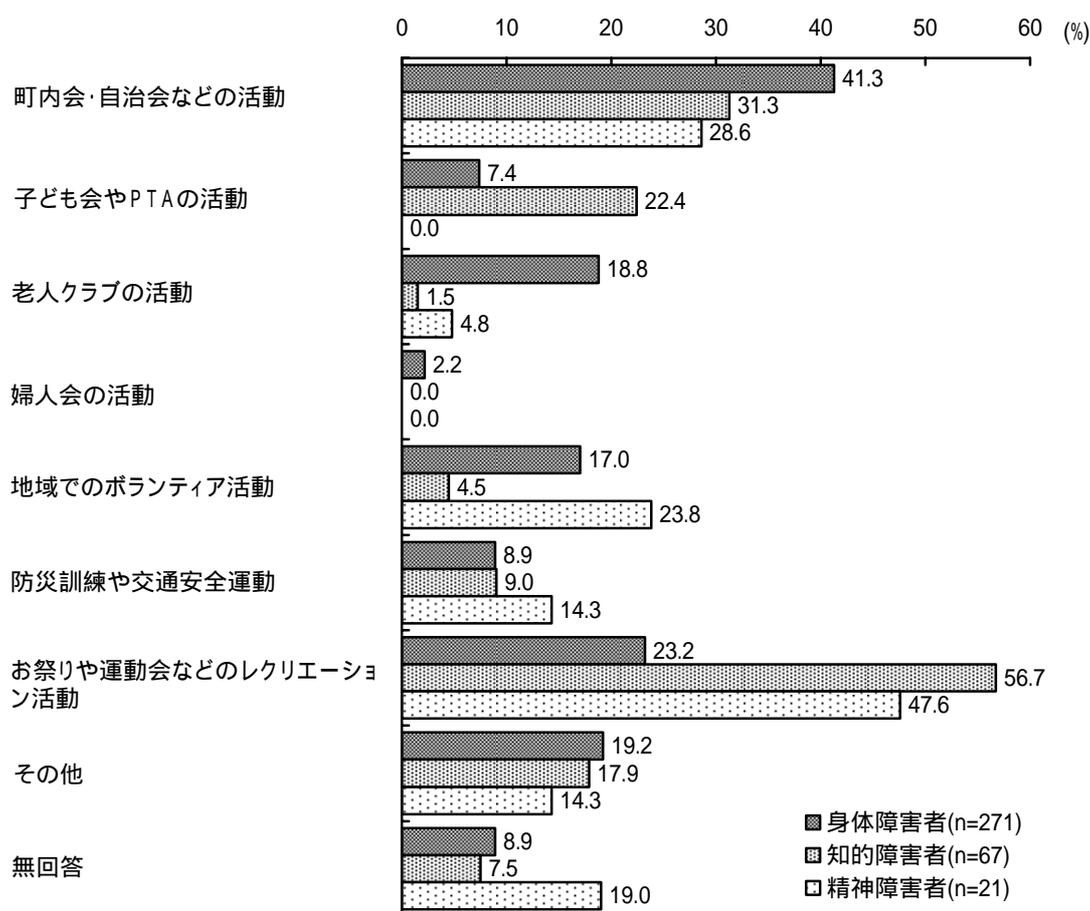
地域活動やボランティア活動に参加していると回答した人に、参加している活動や行事の種類をたずねたところ、身体障害者は、「町内会・自治会などの活動（41.3%）」が最も多く、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動（23.2%）」が続いている。

知的障害者は、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動（56.7%）」が最も多く、「町内会・自治会などの活動（31.3%）」、「子ども会やPTAの活動（22.4%）」が続いている。

精神障害者は、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動（47.6%）」が最も多く、「町内会・自治会などの活動（28.6%）」、「地域でのボランティア活動（23.8%）」が続いている（図表1-6-3）。

図表1-6-3 参加している地域活動の種類

<地域活動やボランティア活動に参加していると回答した人>（障害別：複数回答）



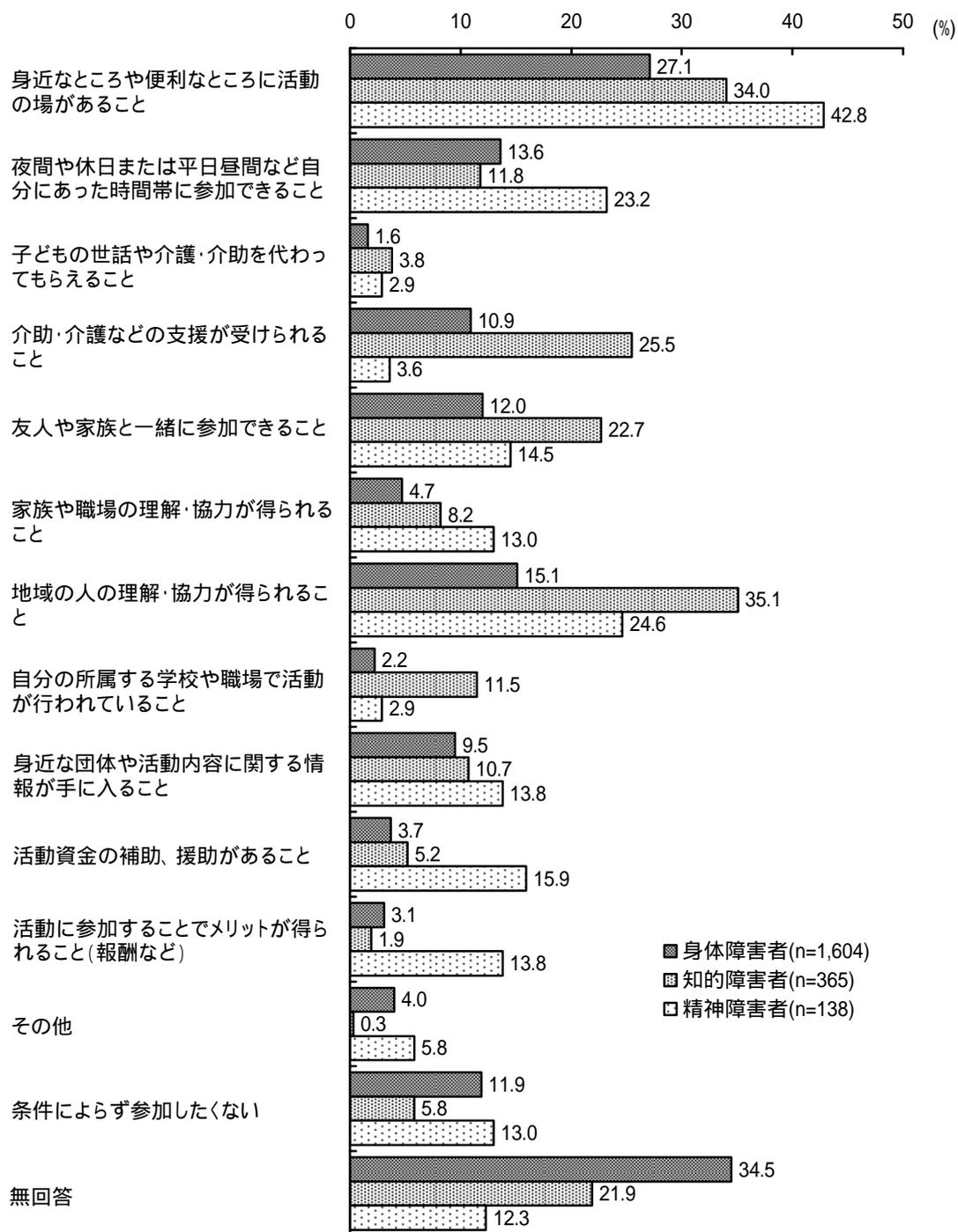
地域活動を行う上で必要な環境や条件（問 12）

地域活動を行う上で必要な環境や条件は、身体障害者は、「身近なところや便利なところに活動の場があること(27.1%)」が最も多く、「地域の人々の理解・協力が得られること(15.1%)」が続いている。「条件によらず参加したくない(11.9%)」は約1割である。

知的障害者は、「地域の人々の理解・協力が得られること(35.1%)」が最も多く、「身近なところや便利なところに活動の場があること(34.0%)」、「介助・介護などの支援が受けられること(25.5%)」が続いている。

精神障害者は、「身近なところや便利なところに活動の場があること(42.8%)」が最も多く、「地域の人々の理解・協力が得られること(24.6%)」、「夜間や休日または平日昼間など自分にあった時間帯に参加できること(23.2%)」が続いている。「条件によらず参加したくない」は13.0%である(図表1-6-4)。

図表1 - 6 - 4 地域活動を行う上で必要な環境や条件
(障害別：複数回答(3つまで))



(7) 情報機器の利用

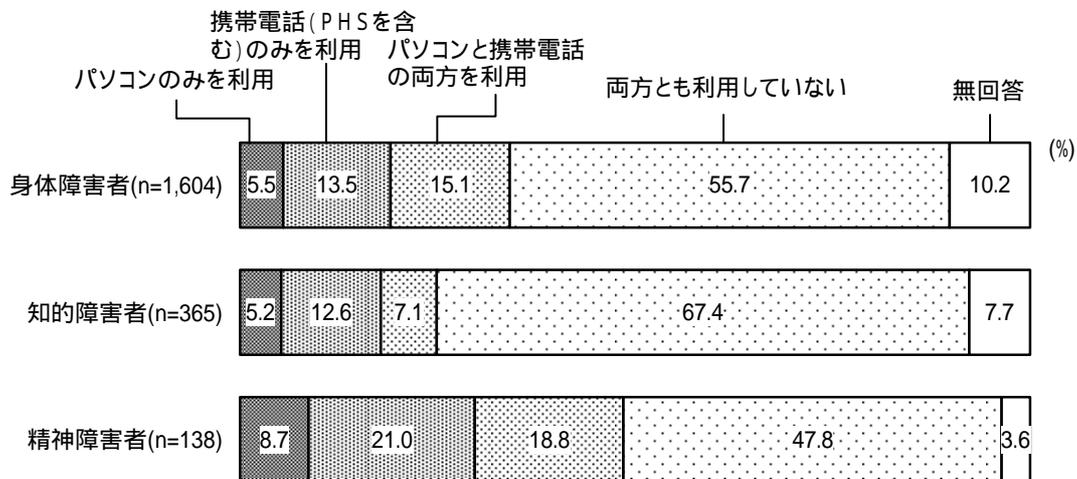
メールの利用 (問 13)

パソコンや携帯電話でのインターネットやメールの利用は、身体障害者は、「両方とも利用していない」が 55.7%である。

知的障害者は、「両方とも利用していない」が 67.4%である。

精神障害者は、「両方とも利用していない」が 47.8%である (図表 1 - 7 - 1)。

図表 1 - 7 - 1 メールの利用 (障害別)



メールの利用目的（問13-1）

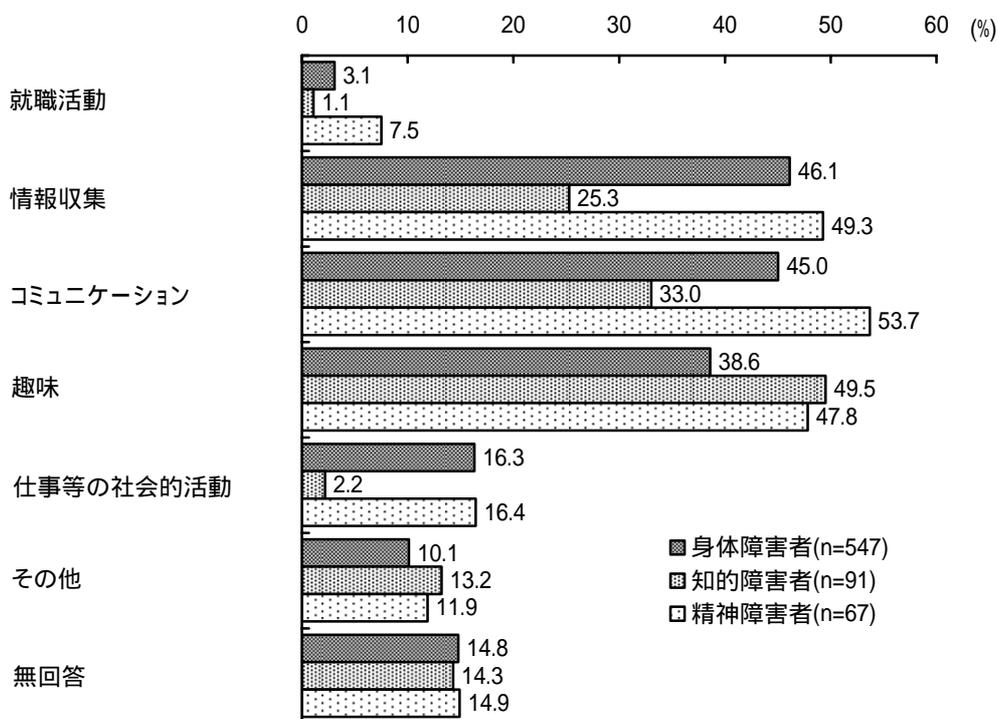
インターネットやメールを利用していると回答した人に、利用の目的をたずねたところ、身体障害者は、「情報収集（46.1%）」が最も多く、「コミュニケーション（45.0%）」、「趣味（38.6%）」が続いている。

知的障害者は、「趣味（49.5%）」が最も多く、「コミュニケーション（33.0%）」、「情報収集（25.3%）」が続いている。

精神障害者は、「コミュニケーション（53.7%）」が最も多く、「情報収集（49.3%）」、「趣味（47.8%）」が続いている（図表1-7-2）。

図表1-7-2 メール利用目的

<インターネットやメールを利用していると回答した人>（障害別：複数回答）



(8) 防災・防犯

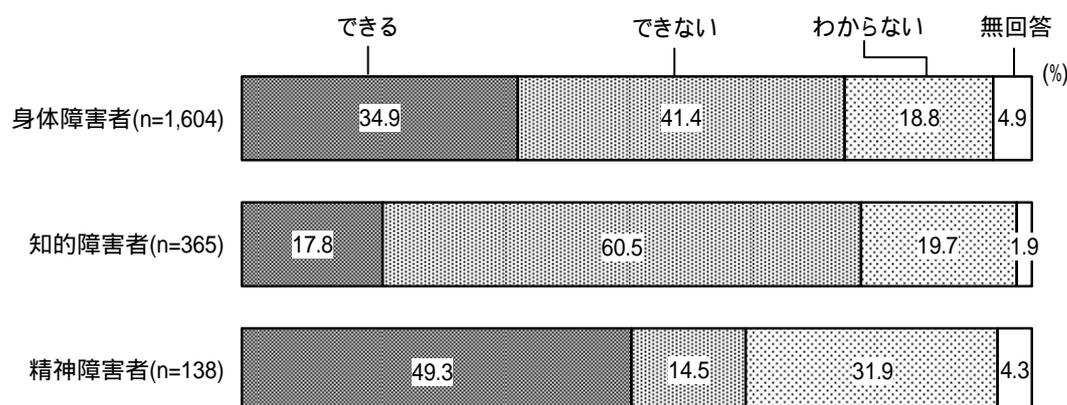
緊急時の単独避難（問 14）

緊急時の単独避難は、身体障害者は、「できる」が 34.9%である。

知的障害者は、「できる」が 17.8%である。

精神障害者は、「できる」が 49.3%である（図表 1 - 8 - 1）。

図表 1 - 8 - 1 緊急時の単独避難（障害別）



援助者の有無（問 14 - 1）

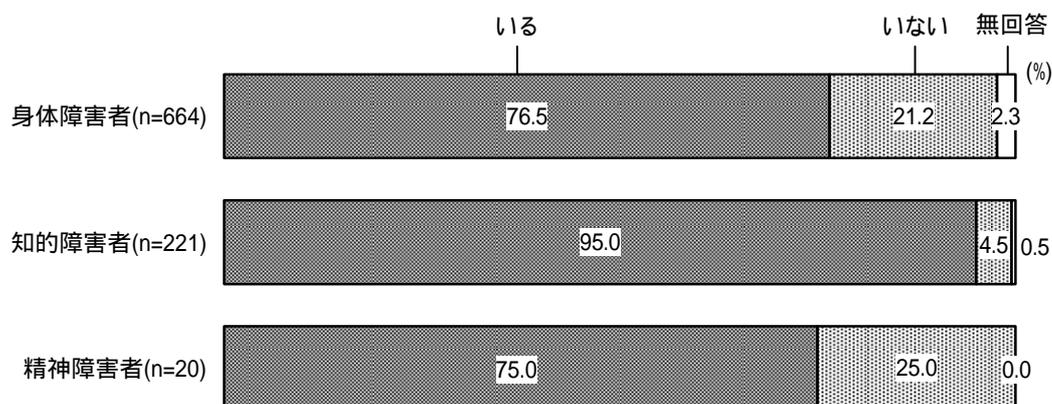
ひとりで避難できないと回答した人に、援助者の有無をたずねたところ、身体障害者は、「いる」が 76.5%である。

知的障害者は、「いる」が 95.0%である。

精神障害者は、「いる」が 75.0%である（図表 1 - 8 - 2）。

図表 1 - 8 - 2 援助者の有無

<ひとりで避難できないと回答した人>（障害別）



具体的な援助者（問 14 - 2）

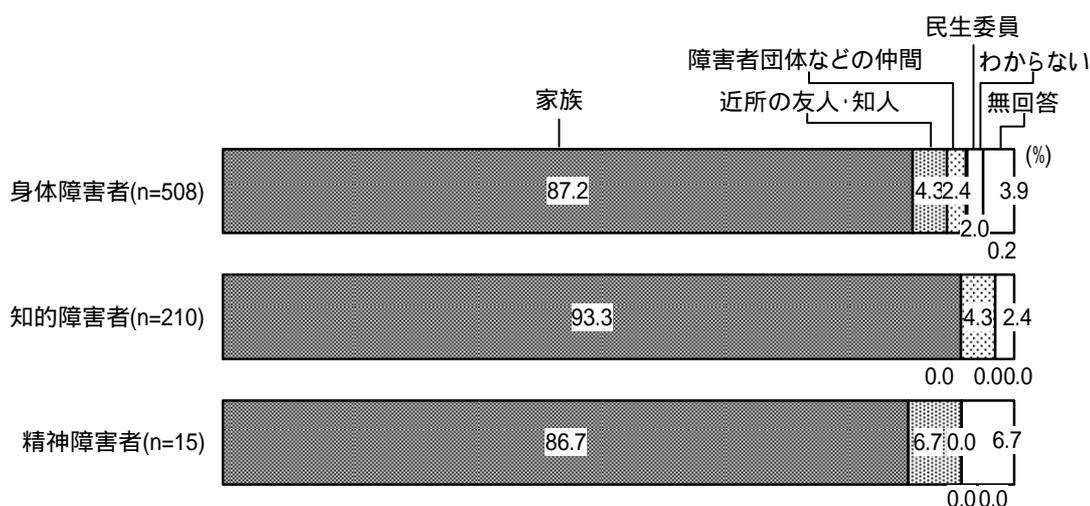
ひとりで避難できないと思う人で、援助者がいると回答した人に、具体的な援助者をたずねたところ、身体障害者は、「家族」が 87.2%である。

知的障害者は、「家族」が 93.3%である。

精神障害者は、「家族」が 86.7%である（図表 1 - 8 - 3）。

図表 1 - 8 - 3 具体的な援助者

<ひとりで避難できないと思う人で、援助者がいると回答した人>（障害別）



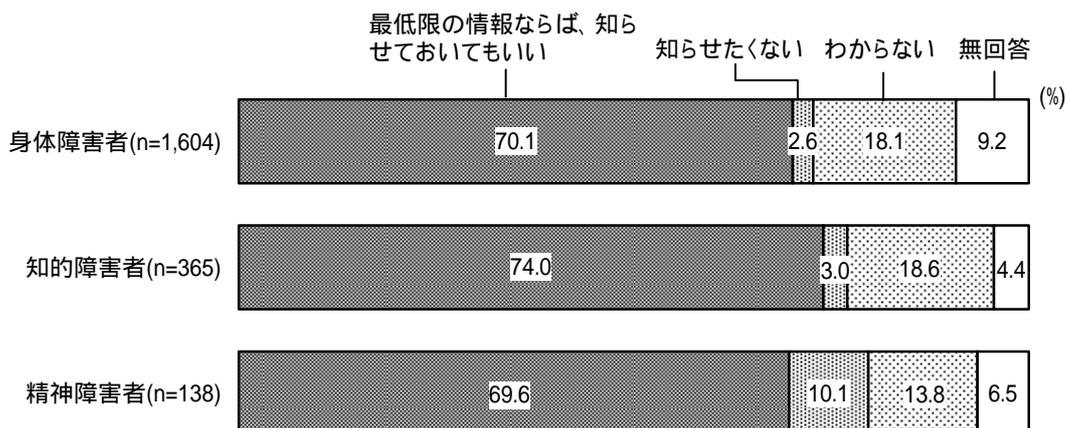
災害時のための個人情報提供への考え方（問 15）

災害時のために行政等へ個人情報を事前に知らせておくことについては、身体障害者は、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」が 70.1%である。

知的障害者は、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」が 74.0%である。

精神障害者は、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」が 69.6%である。「知らせたくない（10.1%）」は約 1 割である（図表 1 - 8 - 4）。

図表 1 - 8 - 4 災害時のための個人情報提供への考え方（障害別）



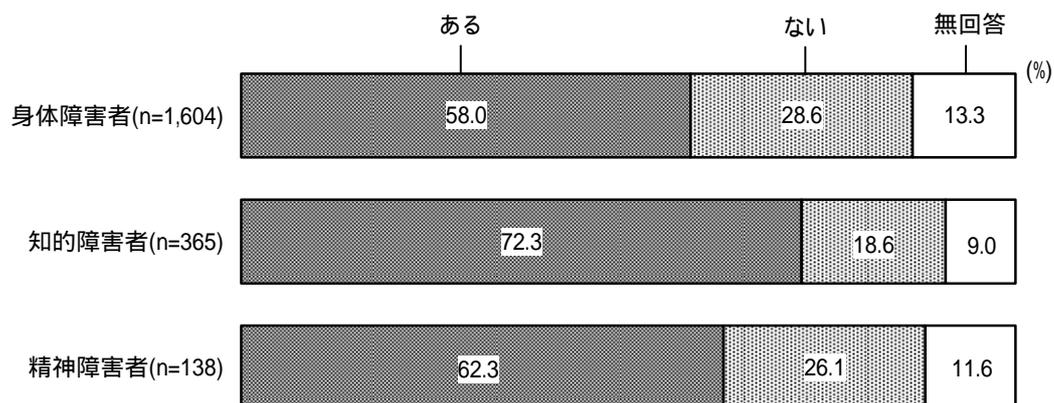
犯罪被害への不安（問 16）

犯罪被害への不安は、身体障害者は、「ある」が 58.0%である。

知的障害者は、「ある」が 72.3%で 7 割を超えている。

精神障害者は、「ある」が 62.3%である（図表 1 - 8 - 5）。

図表 1 - 8 - 5 犯罪被害への不安（障害別）



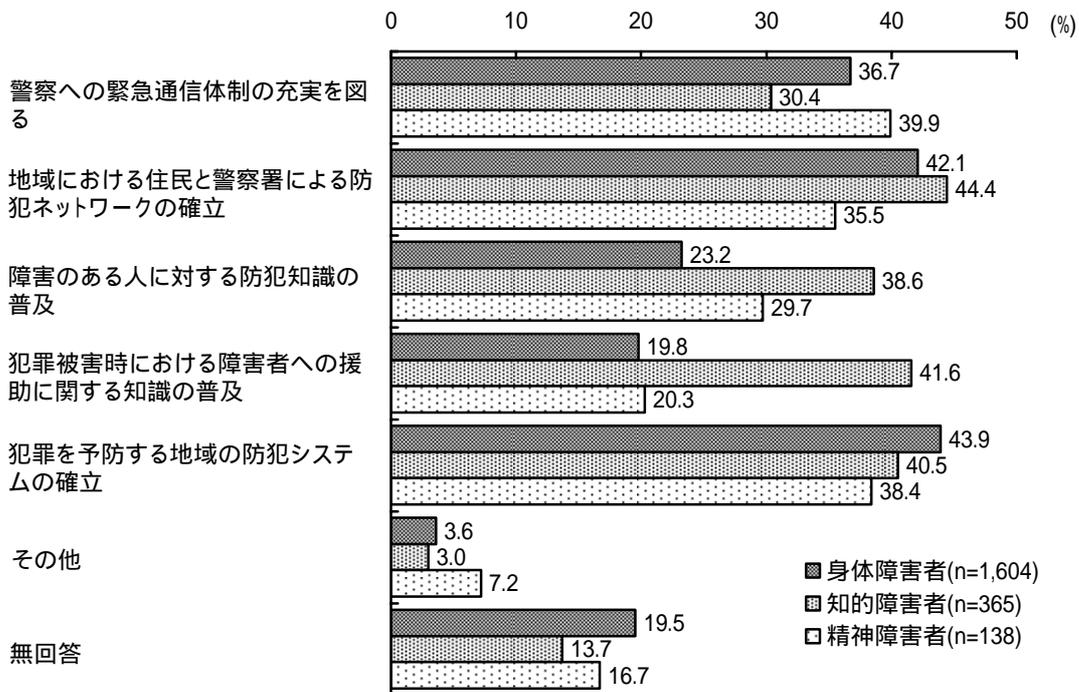
重視する防犯対策（問 17）

重視する防犯対策は、身体障害者は、「犯罪を予防する地域の防犯システムの確立（43.9%）」が最も多く、「地域における住民と警察署による防犯ネットワークの確立（42.1%）」、「警察への緊急通信体制の充実を図る（36.7%）」が続いている。

知的障害者は、「地域における住民と警察署による防犯ネットワークの確立（44.4%）」が最も多く、「犯罪被害時における障害のある人への援助に関する知識の普及（41.6%）」、「犯罪を予防する地域の防犯システムの確立（40.5%）」が続いている。

精神障害者は、「警察への緊急通信体制の充実を図る（39.9%）」が最も多く、「犯罪を予防する地域の防犯システムの確立（38.4%）」、「地域における住民と警察署による防犯ネットワークの確立（35.5%）」が続いている（図表1-8-6）。

図表1-8-6 重視する防犯対策（障害別：複数回答）



(9) 医療

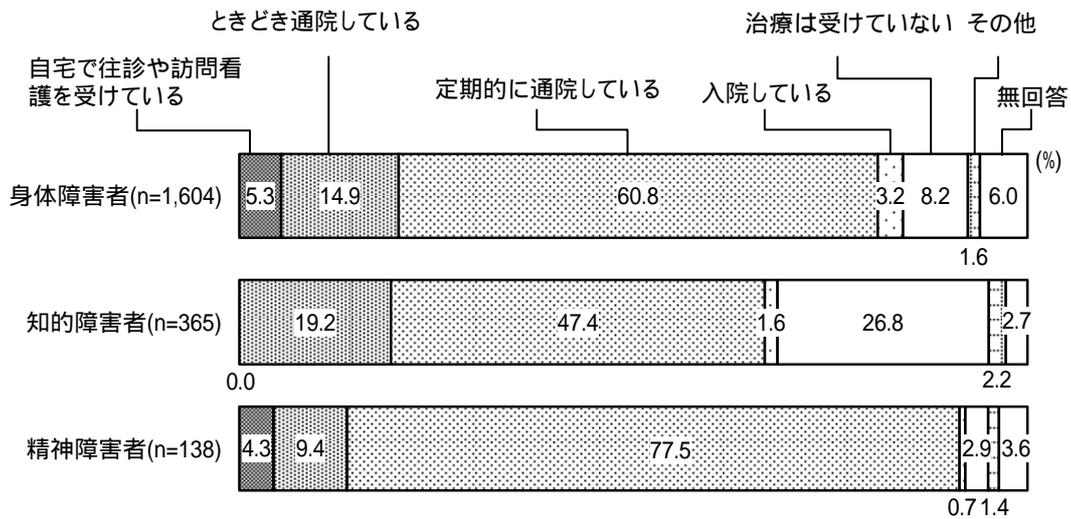
現在受けている医療（問 18）

現在受けている医療は、身体障害者は、「定期的に通院している（60.8%）」、「ときどき通院している（14.9%）」、「自宅で往診や訪問看護を受けている（5.3%）」を合計すると81.0%である。

知的障害者は、「定期的に通院している（47.4%）」が最も多く、「ときどき通院している（19.2%）」を合計すると66.6%である。「治療は受けていない（26.8%）」が3割弱である。

精神障害者は、「定期的に通院している（77.5%）」、「ときどき通院している（9.4%）」、「自宅で往診や訪問看護を受けている（4.3%）」を合計すると91.2%である（図表1-9-1）。

図表1-9-1 現在受けている医療（障害別）



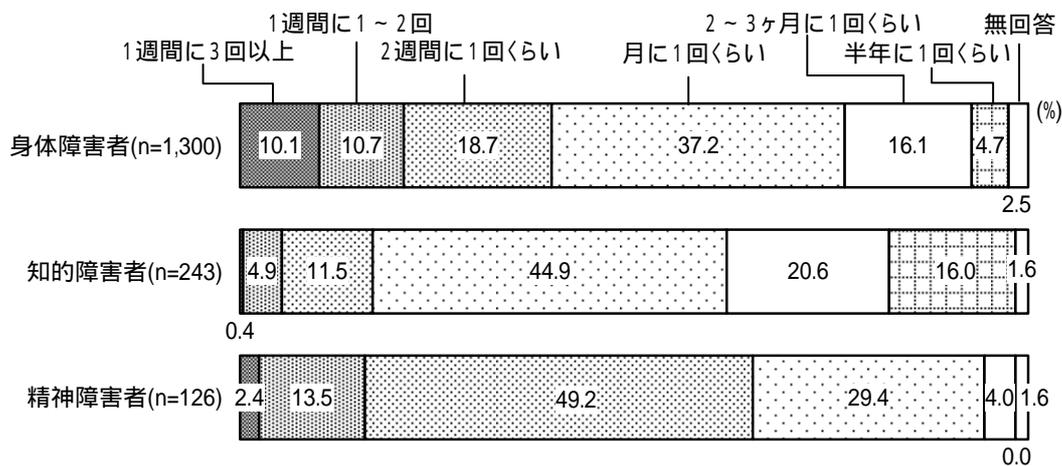
通院回数（問 18 - 1）

医師の治療を受けていると回答した人に、往診または通院の回数をたずねたところ、身体障害者は、「月に1回くらい（37.2%）」が最も多く、「2週間に1回くらい（18.7%）」が続いている。

知的障害者は、「月に1回くらい（44.9%）」が最も多く、「2～3ヶ月に1回くらい（20.6%）」が続いている。

精神障害者は、「2週間に1回くらい（49.2%）」が最も多く、「月に1回くらい（29.4%）」が続いている（図表1-9-2）。

図表1-9-2 通院回数
 < 医師の治療を受けていると回答した人 >（障害別）



通院での困りごと（問 18 - 2）

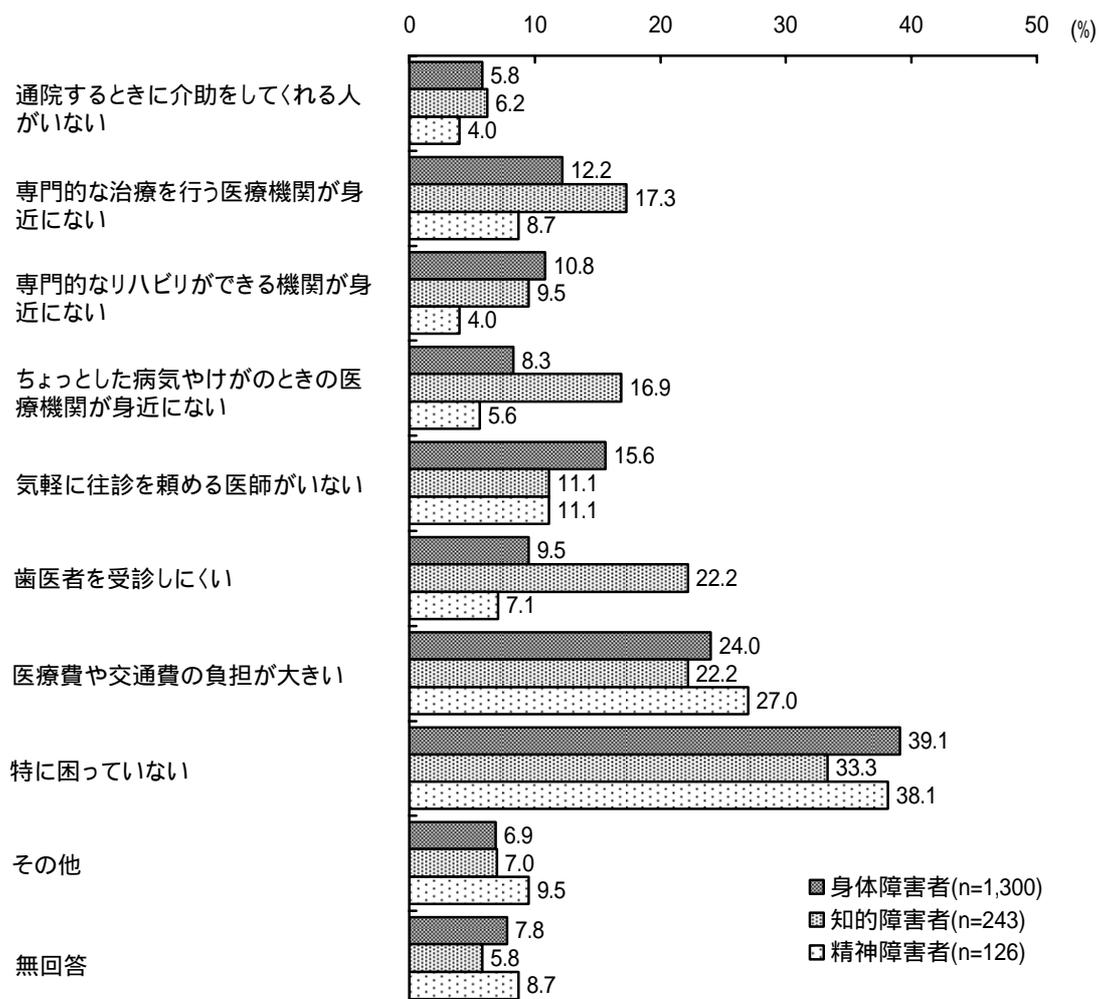
医師の治療を受けていると回答した人に、通院などでの困りごとをたずねたところ、身体障害者は、「特に困っていない」が 39.1%であるが、困っていることは、「医療費や交通費の負担が大きい（24.0%）」、「気軽に往診を頼める医師がいない（15.6%）」となっている。

知的障害者は、「特に困っていない」が 33.3%であるが、困っていることは、「歯医者を受診しにくい（22.2%）」、「医療費や交通費の負担が大きい（22.2%）」となっている。

精神障害者は、「特に困っていない」が 38.1%であるが、困っていることは、「医療費や交通費の負担が大きい（27.0%）」、「気軽に往診を頼める医師がいない（11.1%）」となっている（図表 1 - 9 - 3）。

図表 1 - 9 - 3 通院での困りごと

< 医師の治療を受けていると回答した人 >（障害別：複数回答）



(10) 共生社会

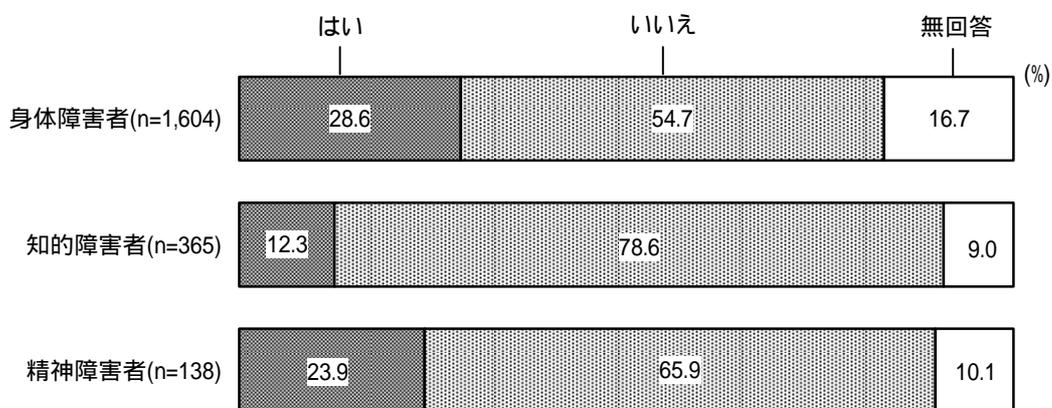
市民のノーマライゼーションの理解（問19）

ノーマライゼーションが市民に十分理解されていると思うかについては、身体障害者は、「はい」が28.6%である。

知的障害者は、「はい」が12.3%で1割台である。

精神障害者は、「はい」が23.9%である（図表1-10-1）。

図表1-10-1 市民のノーマライゼーションの理解（障害別）



ノーマライゼーションが理解されていないと感じるとき（問 19 - 1）

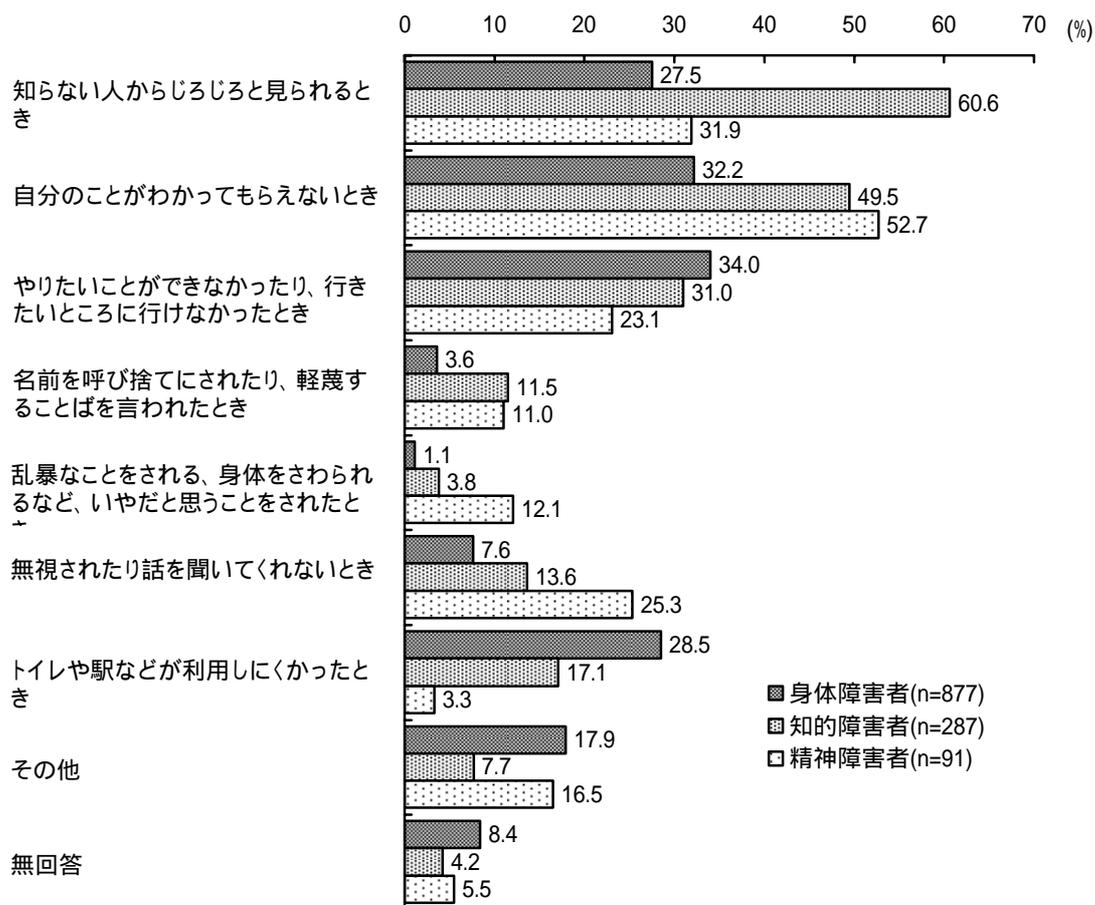
ノーマライゼーションが十分理解されていないと思うと回答した人に、どのような時に感じるかたずねたところ、身体障害者は、「やりたいことができなかつたり、行きたいところに行けなかつたとき(34.0%)」が最も多く、「自分のことがわかってもらえないとき(32.2%)」、「トイレや駅などが利用しにくかつたとき(28.5%)」が続いている。

知的障害者は、「知らない人からじろじろと見られるとき(60.6%)」が最も多く、「自分のことがわかってもらえないとき(49.5%)」、「やりたいことができなかつたり、行きたいところに行けなかつたとき(31.0%)」が続いている。

精神障害者は、「自分のことがわかってもらえないとき(52.7%)」が最も多く、「知らない人からじろじろと見られるとき(31.9%)」、「無視されたり話を聞いてくれないとき(25.3%)」が続いている(図表1-10-2)。

図表1-10-2 ノーマライゼーションが理解されていないと感じるとき

<ノーマライゼーションが十分理解されていないと思うと回答した人>(障害別:複数回答(3つまで))



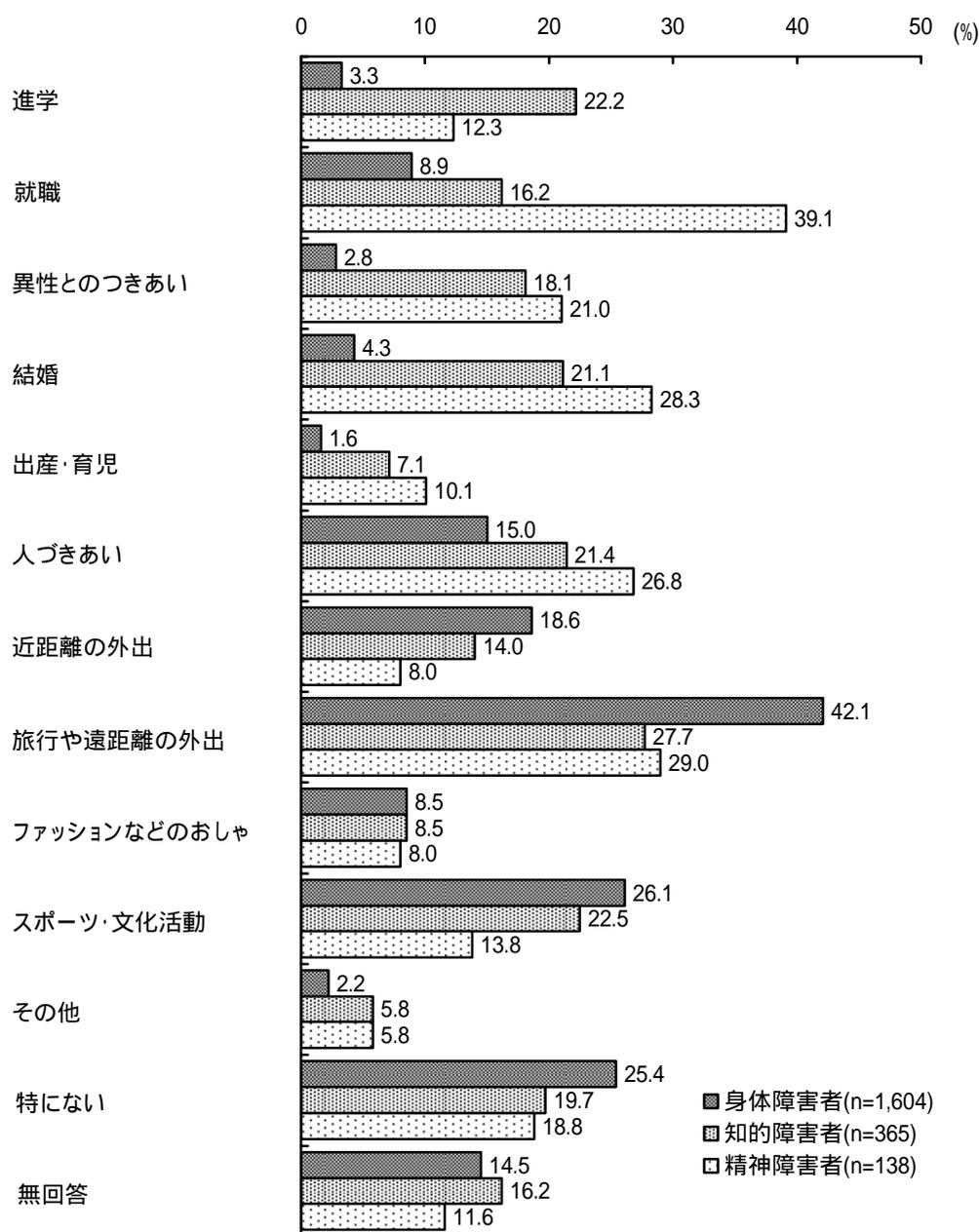
障害のためにあきらめたこと（問20）

障害のためにあきらめたことは、身体障害者は、「旅行や遠距離の外出（42.1%）」が最も多く、「スポーツ・文化活動（26.1%）」が続いている。

知的障害者は、「旅行や遠距離の外出（27.7%）」が最も多く、「スポーツ・文化活動（22.5%）」、「進学（22.2%）」が続いている。

精神障害者は、「就職（39.1%）」が最も多く、「旅行や遠距離の外出（29.0%）」、「結婚（28.3%）」が続いている（図表1-10-3）。

図表1-10-3 障害のためにあきらめたこと（障害別：複数回答）



(11) 施策

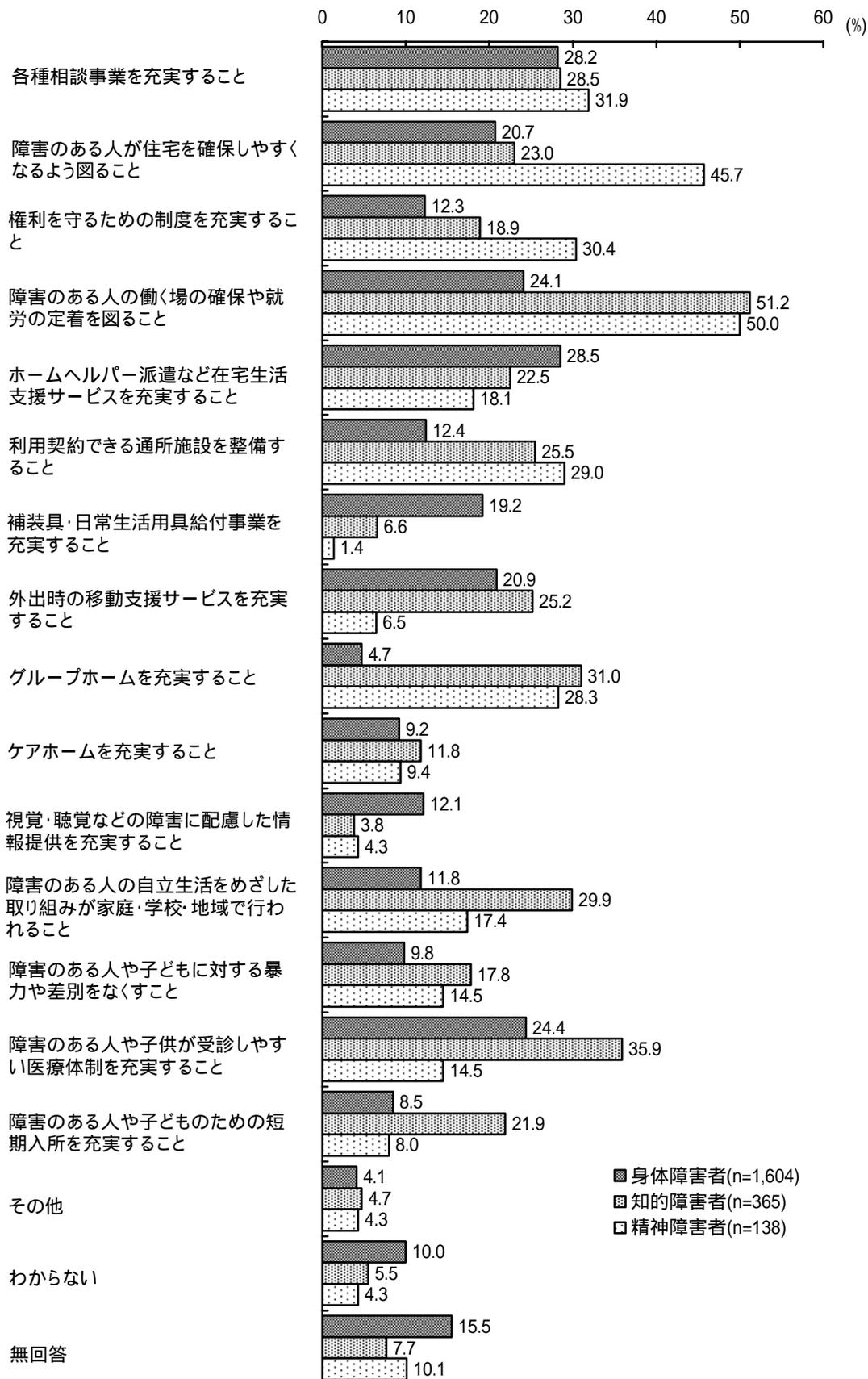
充実を望む施策（問 21）

市に充実を望む施策は、身体障害者は、「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること（28.5%）」が最も多く、「各種相談事業を充実すること（28.2%）」、「障害のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること（24.4%）」が続いている。

知的障害者は、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（51.2%）」が最も多く、「障害のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること（35.9%）」、「グループホームを充実すること（31.0%）」が続いている。

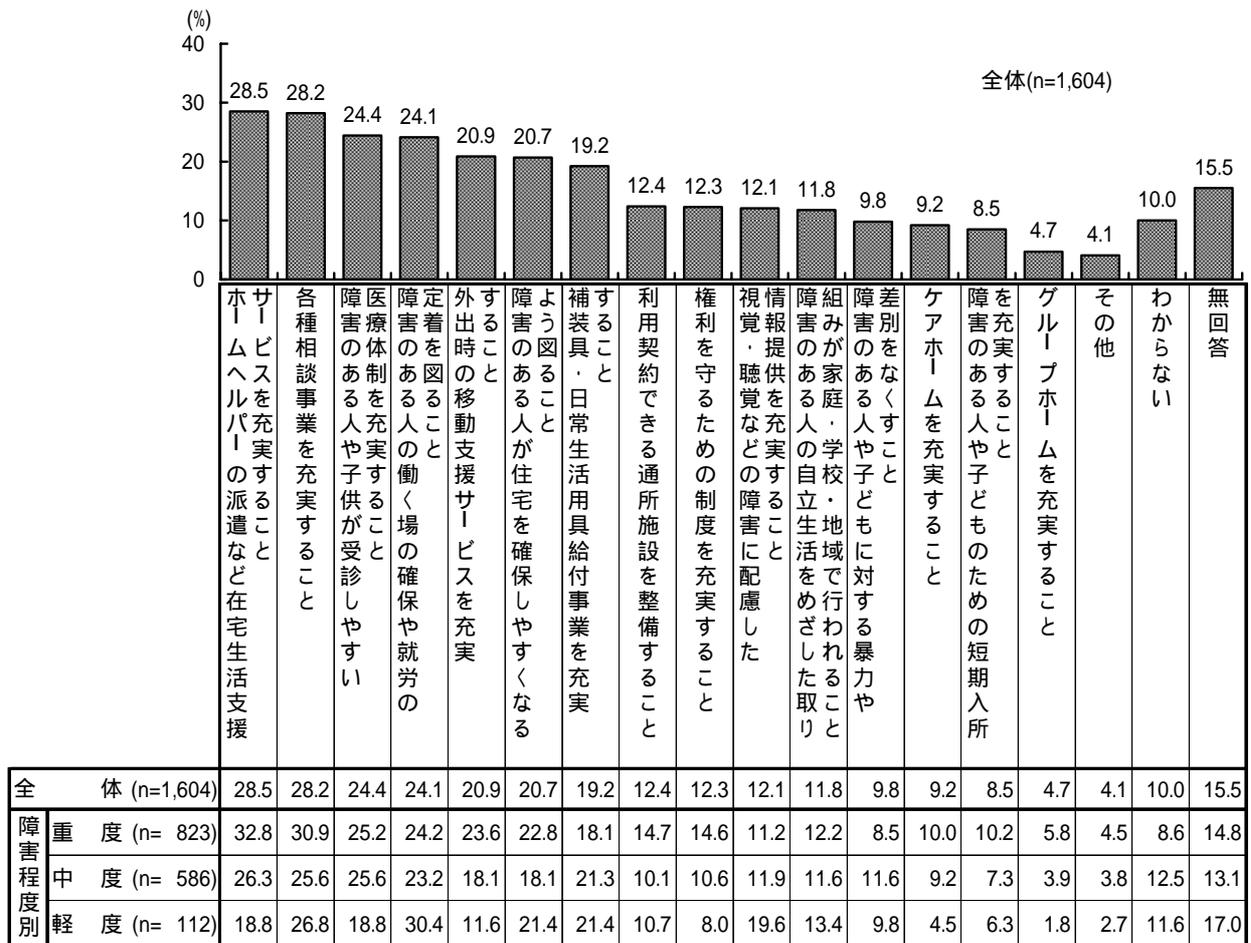
精神障害者は、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（50.0%）」が最も多く、「障害のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること（45.7%）」、「各種相談事業を充実すること（31.9%）」が続いている（図表 1 - 11 - 1 - ）。

図表 1 - 11 - 1 - 充実を望む施策（障害別：複数回答（5つまで））



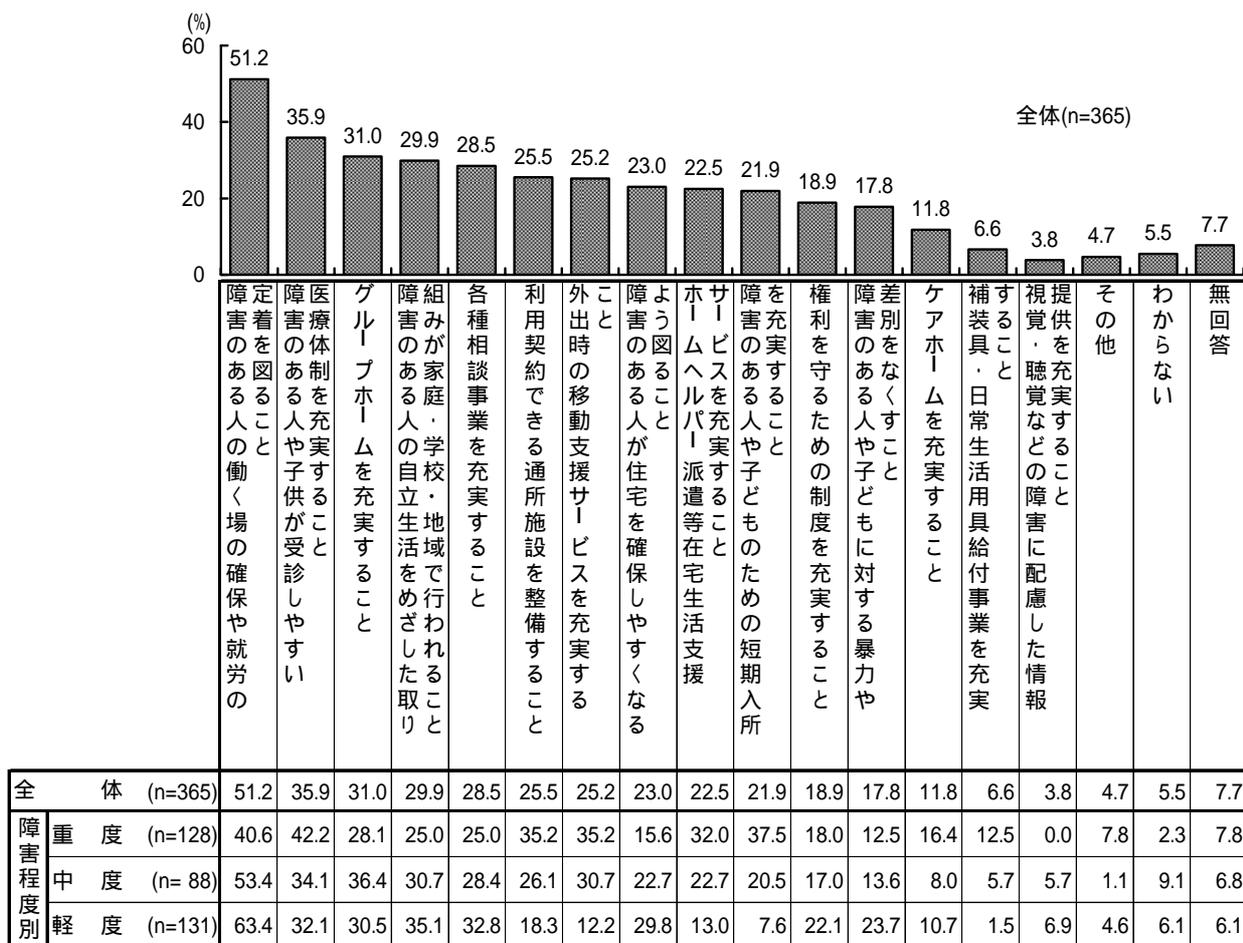
身体障害者を障害程度別に見ると、重度、中度は「ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること(それぞれ 32.8%、26.3%)」、「各種相談事業を充実すること(それぞれ 30.9%、25.6%)」、「障害のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること(それぞれ 25.2%、25.6%)」など、サービスニーズが上位を占めるが、軽度は「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること(30.4%)」が最も多い(図表1-11-1-)。

図表1-11-1- 充実を望む施策
(身体障害者全体、障害程度別：複数回答(5つまで))



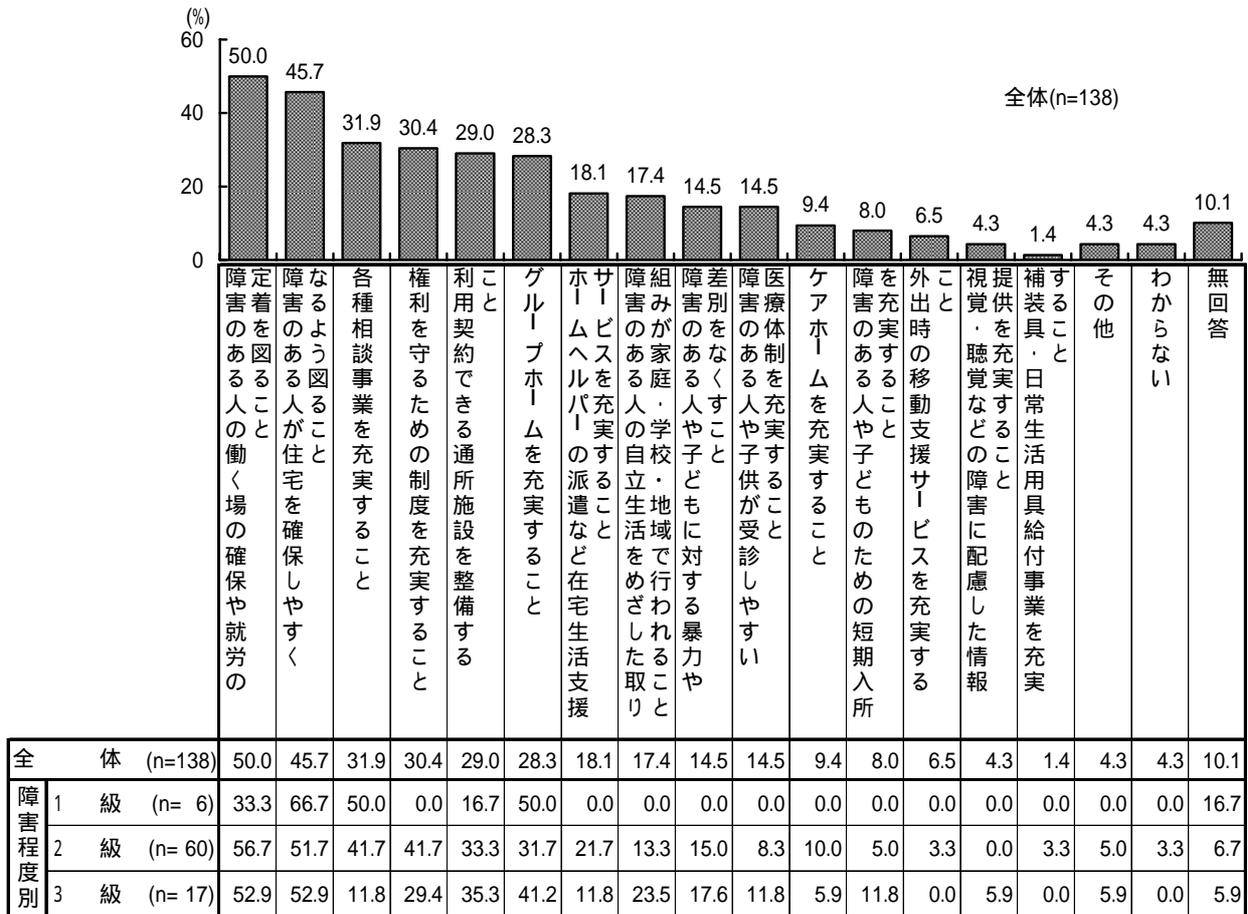
知的障害者を障害程度別に見ると、中度、軽度は「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること（それぞれ 53.4%、63.4%）」が最も多い。重度は「障害のある人や子どもが受診しやすい医療体制を充実すること（42.2%）」が最も多い（図表1-11-1- ）。

図表1-11-1- 充実を望む施策
 （知的障害者全体、障害程度別：複数回答（5つまで））



精神障害者を障害程度別に見ると、1級は「障害のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること(66.7%)」が最も多く、働く場や就労よりも住宅の確保を重視している。2級及び3級は「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること(それぞれ56.7%、52.9%)」、「障害のある人が住宅を確保しやすくなるよう図ること(それぞれ51.7%、52.9%)」がいずれも50%以上である(図表1-11-1-)。

図表1-11-1- 充実を望む施策
(精神障害者全体、障害程度別：複数回答(5つまで))



(12) 市への要望 (問 22)

市の障害のある人の施策について、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で533件の回答を得た。以下、主な記述を掲載する。また、記入者が「本人」以外の場合は【 】内に本人との関係が書かれている。

〔身体障害のある人〕(356件)

障害福祉サービスに対する要望・不満等について (54件)

- ・ 認知症については理解が難しいので、特にホームヘルパーさんには良くわかって欲しい。(女性、65歳以上)【子ども】
- ・ タクシー券が決まったところしか使えず不便。しかも、契約しているタクシー会社の運転手から「券使うんだからなんぼ払っても文句ないだろ」と暴言をはかれ、なかなか下車できなかったことがある。(男性、乳幼児期)【父母】
- ・ 身体障害者3級まではいろいろな恩典があるが、4級になるとほとんどない。(女性、65歳以上)

情報提供や相談体制等について (30件)

- ・ 年1回程度で良いと思うのですが、府中市の福祉制度全般について説明を聞ける機会を設けて欲しい。現在は、資料を渡して、詳細は自分で読んでくださいという対応ですから、施策やシステムが良く理解できないのが実態です。(男性、65歳以上)
- ・ 障害者手帳と都指定の難病による介護保険の認定ももらったが、それぞれ別々の説明はあるが、総合的に理解して、障害者に説明してくれる人がいなかった。手続きも複雑で、障害者本人ができるはずがない。(男性、65歳以上)
- ・ 市の公共施設は多数ありますが、住所は記されていても、そこへ行くための交通の便などが載っていません。聴覚障害者は人に尋ねることができませんので乗り物の方法や停留所名などを記入していただくとありがたいです。(女性、65歳以上)

障害のある人への手当や経済的な支援等について (29件)

- ・ 障害者手当をもう少し増やして欲しい。(女性、55～60歳)【兄弟姉妹】
- ・ 医療費の負担軽減を強く希望したい。(女性、学齢期)【父母】
- ・ 収入の少ない家庭への経済的支援が充実されるように望みます。(女性、55～59歳)

生活の不安について (27件)

- ・ 高齢のため、家を借りるときの保証人になる人もなく、収入も少ないので、将来が不安な状態。(女性、65歳以上)
- ・ いまのところは配偶者がいるので困ったことはあまりないが、子どもがいないので、1人になったときの不安がある。(女性、65歳以上)

- ・ まだ1人で生活していけますが、歳を増すごとに体力に自信がなくなります。(女性、65歳以上)

施設について(24件)

- ・ 市役所の西側にある車イス用駐車スペースに屋根を設置して欲しい。また、本来の目的以外の一般の利用者は利用しないような方法を考えて欲しい。(男性、35~39歳)
- ・ 障害者がいつでも利用できる療養型の施設がもっとあれば良いと思う。(女性、65歳以上)
【配偶者】
- ・ 障害者用のスポーツセンターが欲しい。(女性、30~34歳)
- ・ 国立にある「都多摩障害者スポーツセンター」のようなマヒのある人でも手軽に運動のできる施設があると、もっと外に出る機会が増えると思います。(男性、60~64歳)

謝意や政策への期待等について(22件)

- ・ 障害者に対して、府中市の施設や各係の担当者が、皆さん親切で説明が行き届き、有難いことです。(男性、65歳以上)
- ・ 予算の確保など大変でしょうが、現在の福祉をこれからも続けていただければと思います。(男性、50~54歳)

まちづくりについて(22件)

- ・ 車椅子や電動車のための道路を整備して欲しい。歩道の整備と交差点の立ち止まり用の手すりを作ってください。(男性、65歳以上)
- ・ 街中にちょっと座れるベンチが欲しい。(女性、65歳以上)
- ・ 公共輸送機関の乗換駅接続通路に車椅子を備えて、歩行不自由者の利便を図っていただきたい。(女性、65歳以上)
- ・ 歩道の段差をなくして欲しい。車椅子利用者にはとても不便。(女性、65歳以上)【子ども】

障害のある人に対する理解や協力の必要性について(19件)

- ・ まわりに友達や、理解してくれる人が少ないのでとてもさみしい思いをしています。(男性、65歳以上)
- ・ 無灯火やスピードの出しすぎなど、歩道での自転車のマナーが悪い。(女性、65歳以上)
- ・ 喉頭ガンによる咽頭摘出による障害者は、一般に理解度が低いので困るときがある。(男性、65歳以上)
- ・ 障害者に対する街の人の思いやりが欠如している。エレベーターに乗るべく扉の前に立っていると、ドアが開いた途端に前へ割り込んできます。降りるときも同じで、ドアが開くと当方が降りようとしているのに乗り込んできます。(女性、65歳以上)
- ・ 点字ブロックのところに放置自転車があり、視覚障害者の人がぶつかりそうになりました。(女性、18~24歳以上)
- ・ 障害者は何事にも選択肢が狭い。何か成し遂げようとする、周りの人や社会にこびて生

きてゆかねばならないのが実情です。(女性、40～44歳以上)

障害児に対する施策について(15件)

- ・ 市立小学校や中学校に肢体不自由者のための介助者をつけていただきたい。保育所に1人で通って自立を目指していたのに、小学校入学と同時に、介助のため母親が学校に付き添い、自立とは程遠い生活となった。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 保育園、幼稚園等で障害児の受け入れをもっと増やして欲しいです。働きたくても働けないし、子どもにも健常者とのかわりをさせてあげられない。(女性、乳幼児期)【父母】
- ・ 療育機関が少ない。歩行不自由児の通える施設がわずかしかなく選べない。(女性、乳幼児期)【父母】
- ・ 普通学級に通っている障害児に関しては、まったくといっていいほど福祉の手が入っておらず、親が全部負担している。(女性、学齢期)【父母】
- ・ 外出時の不便さやトイレに簡易ベットが少ない不便さよりも、将来を見通せない毎日を送る方がとてもつらいし、悲観しています。(女性、学齢期)【父母】

申請手続き等について(11件)

- ・ 府中市に世話になってもう10年。毎年、提出書類を持って来いという。パソコンが普及している現在においても、昔となんら変わらない。名前、生年月日等でわかるのに。(男性、55～59歳)
- ・ 自動車税の件。毎年申請するのはおかしい。(男性、65歳以上)
- ・ 申請してから許可になるまでの期間が長すぎると思う。(女性、55～59歳)
- ・ 障害になっていろいろな手続きをするのに係が分かれていて、手続きが大変だし、複雑だと感じました。(女性、40～44歳)

住居について(10件)

- ・ 住宅のことで悩んでいます。公営住宅に入れないので心配しています。(女性、60～64歳)
- ・ 住宅で困っています。いろいろな介助機器などを取り付けても、エレベーターがないと住んでいる人たちは確実に外に出る機会が減り、自立もできません。(女性、65歳以上)【配偶者】

交流場所や機会について(9件)

- ・ 高齢者で障害を持っている身として、何かグループで楽しめる場があるといいです。楽しいおしゃべりができるところが欲しいです。(女性、65歳以上)
- ・ 障害者が車椅子でも気軽に参加できるような文化活動を企画して欲しい。いま使える機能で、新しいことに挑戦して、閉じこもりがちな日常を改善したいと思いながらも、そのような企画が見当たらない。(男性、65歳以上)

交通手段について（8件）

- ・ 路線バスの通っていない所にちゅうバスのバス停を作って欲しいです。（男性、18～24歳）

就労について（7件）

- ・ 障害者でも、就職の支援サービスをしてもらいたい。（男性、45～49歳）

医療について（7件）

- ・ 社会復帰のために必要不可欠なのは医療体制で行われるリハビリだと思います。医療保険だと期間が限定されてしまいますが、長いスパンで自立を目指しリハビリが行える体制を切望します。（男性、65歳以上）【子ども】
- ・ 治療機関の限定があるのはおかしい。完治まで治療できるようにしてもらいたい。（女性、60～64歳）

市の窓口対応について（7件）

- ・ 障害のため、特殊なくつを作ってもらったのですが5万円かかってしまい、少しでも見てもらいたく市役所にいったのですが、「出せません」で終わりました。もう少し話を聞いてくださってもいいのではないのでしょうか。（女性、40～45歳）
- ・ 障害のある人が自ら申請しないとサービスや優待券を受けられないのが困る。こちらから聞かなくても親切に教えてくれる職員もいるが、ほとんどの人は、聞かなければ教えてくれない。（女性、乳幼児期）【父母】
- ・ 市役所の窓口の方が事務的な態度で、それ以上の相談ができなかった。（女性、65歳以上）

障害者自立支援法への不満などについて（6件）

- ・ 障害者自立支援法による「応益負担」をやめ、負担を軽くして欲しい。（男性、65歳以上）

アンケートについて（5件）

- ・ 今回のアンケートで自分が手帳を持ちながら、あまり障害者や、それにまつわるいろいろなことがわかっていないことに気づきました。（女性、65歳以上）
- ・ 無作為の調査とはいえ、このような調査票を自宅へ郵送されると困ります。身体障害者手帳を交付されていることを家族に知らせていないからです。（女性、50～54歳）

災害時の不安について（4件）

- ・ 災害時にまわりに迷惑をかけずに避難できる場所の確保が必要。（男性、中学卒業後～17歳）【父母】
- ・ 一番の不安は、災害時の透析先の確保が可能なのかということです。特に地震発生時の透析不能の場合の情報手段に不安を感じております。（男性、65歳以上）

介護保険について（4件）

- ・ 身体障害者手帳を持っていても、介護保険優先で、それも限度額があり、身体障害者のサービスをほとんど使えない。（男性、45～49歳）

その他（36件）

- ・ 23年間入院しているので、本人も手足が不自由で、考えることができないので、お答えすることができません。（女性、35～39歳）【父母】
- ・ 府中市の「心の旅」に付き添い制度を作って欲しい。（女性、65歳以上）
- ・ 住民税申告のとき補聴器を買った代金を税控除してくれない。金額が高いので認めてもらいたい。（男性、65歳以上）
- ・ 障害福祉課には親切な人もいるけど、エレベーターに、われ先にとベビーカーを押しつけて乗り込む市の職員がいることにがっかりしました。心遣いがなさすぎる。（女性、乳幼児期）【父母】
- ・ 障害者になって、公的なサービスだけでなく、精神的にもケアして欲しいです。（女性、40～44歳）

〔知的障害のある人〕(122 件)

障害福祉サービスに対する要望・不満等について (24 件)

- ・ 将来はグループホームで生活したいので、増やして欲しいです。(男性、35～39 歳)
- ・ 養護学校卒業後、どこにも行くところがないように、重度重複で、医療的ケアのある私でも通所できる場所を確保して下さるようお願いします。(女性、学齢期)【父母】
- ・ 短期入所や一時預かりでの時間や理由の幅が広がると良いです。(男性、乳幼児期)【父母】
- ・ ヘルパー不足解消、ショートステイ先の確保など、自立支援法のサービスの充実をお願いします。(男性、乳幼児期)【父母】
- ・ レスパイトを利用できる日が少ない。本当に困った時のためにとっておかななくてはならないので、ほとんど夜にかかる外出はできないのが現状です。せめて夜 9 時までのレスパイトをもう少し増やしてください。(女性、25～29 歳)【父母】

障害児に対する施策について (19 件)

- ・ 市内に知的障害の児童のための養護学校が 2 校あるが、学区に関して、もう少し緩やかにして欲しい。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 府中市には小学生のデイサービスがないので、子どもも学校以外に活動できない。学童も仕事が決まってから申し込みしないといけない。障害枠があるので子どもを預けられないのに、仕事も決められない。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 近隣の市は障害児学級の小学、中学への登下校のスクールカーやスクールバスがありますが、府中市は地域が広い割には、そういったことがなく保護者にゆだねられているので、とても負担で、不公平に感じます。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 小学生のうち学童クラブがありましたが、中学生以上になると、どこにもあずかってもらえるところがありません。(女性、学齢期)【父母】
- ・ 健常のお子さん方が全員学童に入ることができ、また、放課後子どもプランにより学校でも見守って遊ぶ場ができているのを見ると、障害児専用の場所作りの必要性を感じます。(女性、学齢期)【父母】
- ・ 重度の障害児に対する学童保育や放課後活動の充実。健常児と一緒には無理がある。障害児の中でも、障害の幅があるので、軽度の子どもと一緒にはつらい。愛の手帳の判断でも良いから、重度の子どもに対するプログラムを考えて、参加できる場を作って欲しい。(女性、学齢期)【父母】
- ・ 兄弟姉妹の行事に、親が参加する時の一時預かりの充実を強く希望します。(男性、学齢期)【父母】

生活の不安について (11 件)

- ・ 年々、親は歳をとっていきますし、急なときの対応にすごく不安を感じています。(女性、30～34)【不明】
- ・ 誰しも口にするのは、親が先に死んでこの子はどうなるのだろうということです。親亡き

後、一人立ちしてもらいたいと思う人ばかりです。施設の充実を図ってもらいたいと重ねてお願いします。(男性、18~24)【父母】

謝意や政策への期待等について(8件)

- ・ 府中市はとても親切な市だと感じています。保育所の先生方、教育センターの相談員の方、とても丁寧に対応してくださり、それに救われます。(男性、乳幼児期)【父母】
- ・ このようなアンケートを通して、少しでも障害を持つ人、家族、また周囲の人々への理解と、施策へ積極的に取り組もうとしていることに感謝します。(女性、18~24歳)【父母】

障害のある人に対する理解や協力の必要性について(8件)

- ・ 障害がある人でもスポーツ・文化面で活躍できる可能性を持っている人はたくさんいると思いますが、障害があるために断られる習い事もあります。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 一般の人の障害に対する理解がほとんどされていないので、一人で歩いていると変人扱いする人が多い。理解される具体的な案を考えて欲しい。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 自閉症を含む発達障害を持っている子どもたちに対する地域の理解が乏しく、なかなか受け入れてもらうことが難しい。(男性、乳幼児期)【父母】

情報提供や相談体制等について(8件)

- ・ 入学、進学時に少ない情報でとても苦労した。これからの人たちには、一人ひとりに合わせた指導、情報、専門知識による自立支援を望む。(男性、中学校卒業後~17歳)【父母】
- ・ 家庭を訪問して各種の相談を聞いてもらいたい。(女性、40~44歳)【父母】
- ・ 福祉に関する情報を、どこへ行けばわかるか場所がわかりません。役所でうろうろしてしまいます。(女性、34~39歳)【父母】
- ・ 学校を卒業すると、なかなか情報を得ることができないので、わかりやすく教えて欲しいし、気軽に相談できる場所を作って欲しい。(男性、18~24歳)【父母】

施設について(8件)

- ・ 遠方から治療を受けに来る障害者難病の患者さんの家族のための、カンガルーハウスのような施設を府中病院の近くに建ててもらいたい。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 親亡き後も安心して生活できるために、府中市にも療育センターの設立をお願いします。(女性、40~24歳)【父母】

障害のある人への手当や経済的な支援等について(7件)

- ・ 収入のない障害者に手当等の援助が欲しい。(男性、40~44歳)【兄弟姉妹】
- ・ 通院、検査が定期的に必要であるが、愛の手帳4度では、医療費が補填されないなので、これを改善して欲しい。(女性、学齢期)【父母】

交流場所や機会について（5件）

- ・ 学校を卒業してしまうと、障害児を持っている親同士、なかなか会うことも少なくなってしまうのではないかと不安です。交流できる場と、それがわかるような広告があるとうれしいです。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 発達障害を持つ幼児の母です。子育ての悩み、進路などについて気持ちを共感して話し合える環境になかなか出会えず、不安な気持ちですごしています。できれば先輩となる母親たちと話をしたいです。(男性、乳幼児期)【父母】

就労について（4件）

- ・ 就学後、楽しくお仕事に通える環境が確保されることを願います。(女性、中学校卒業後～17歳)【父母】
- ・ 障害のある人の働ける場所を増やして欲しい。(女性、学齢期)【父母】

災害時の不安について（4件）

- ・ 災害時の避難場所として、知的障害者がまわりに迷惑をかけずにいられる施設の確保。(男性、18～24歳)【父母】
- ・ 地震や災害時、家族だけではどうにもならないとき助けてもらえるようなシステムを作っ
て欲しいです。(男性、25～29歳)【父母】

医療について（3件）

- ・ 知的障害のある人を理解している病院が増えて欲しい。内科や歯科など。(男性、中学校卒業後～17歳)【父母】
- ・ お医者さんの自閉症に対する知識不足と、待合室で長時間待てなかったりして、とても大変な思いをしています。(男性、乳幼児期)【父母】

アンケートについて（2件）

- ・ 今回のアンケートは母親である私が記入しました。本人は、重度の知的障がいであり字は書けません。意思も確認できません。(男性、中学校卒業後～17歳)【父母】

障害者自立支援法への不満などについて（1件）

- ・ 自立支援法は、重度障害者にとってはいろいろと問題があり、もっと考えて欲しい。(女性、40～44歳)【父母】

申請手続き等について（1件）

- ・ 様々な書類に関し、毎年同じことを書かなくてはいけないのが負担です。締め切りもバラバラなので、何度も持参や送付の手間がかかる。(女性、乳幼児期)【父母】

まちづくりについて（1件）

- ・ すべりにくい歩道を作ってもらいたいです。（男性、40～44歳）

住居について（1件）

- ・ 親が元気だったら一緒に暮らせるけど、親が亡くなったら自分の住むところ、また、面倒を見てくれる人がいなくなる。だから、障害者が安心して住める場所を増やして欲しい。（女性、18～24歳）【父母】

その他（7件）

- ・ 障害のある子の兄弟姉妹に対するサポートをお願いします。障害のある子に手がかり十分に育児ができない。（男性、学齢期）【父母】
- ・ ヘルパーに対する様々な保障を高めて欲しい。慣れた頃に入れ替わってしまいます。（男性、25～29歳）【父母】

〔精神障害のある人〕(55件)**障害福祉サービスに対する要望・不満等について(6件)**

- ・ グループホームが少ないように思います。(女性、55～59歳)【兄弟姉妹】
- ・ 小規模授産施設をもっと増やして欲しい。(男性、25～29歳)
- ・ 作業所で働いたら、それなりの収入を得ることができるよう。(女性、40～44歳)
- ・ 短期入所施設の充実を図ること。(男性、60～64歳)【兄弟姉妹】

障害者自立支援法への不満などについて(8件)

- ・ 自立支援法は考え直し、廃止して欲しい。(女性、50～54歳)
- ・ 作業所を無料で利用できるようにして欲しい。(男性、45～49歳)
- ・ 障害のある人の自己負担をもっと軽くして欲しい。(女性、30～34歳)

住居について(8件)

- ・ アパート等、一般の住宅を障害があっても確保しやすくして欲しい。(男性、35～39歳)
- ・ 保証人がなくても借りられるアパートがあると良いと思い。(男性、50～54歳)

障害のある人への手当や経済的な支援等について(6件)

- ・ 精神障害のある人が都内へ出るためにかかる電車代を半額補助してもらえたら、もっと文化的な生活ができると思います。(女性、55～59歳)
- ・ 生活保護費を増額して欲しい。(男性、55～59歳)
- ・ 現在の障害者年金では、住宅が借りられない。生活費もギリギリ。生活保護のお世話にならないように住宅手当が欲しい。(男性、35～39歳)

就労について(7件)

- ・ もっと精神障害者の就労を受け入れてくれる企業の増加を求めます。(女性、40～44歳)
- ・ 障害をオープンにしても一般企業が理解してもっと雇って欲しい。(男性、35～39歳)
- ・ 社会の理解を充実させ、多様な働き方を個人個人の状態、能力にあわせてできるよう取り組んで欲しい。(女性、30～34歳)
- ・ 工賃作業など、障害者ができるようなことがあれば、仕事をまわして欲しい。(男性、25～29歳)

障害のある人に対する理解や協力の必要性について(3件)

- ・ 社会参加できる機会をたくさん作って欲しい。(男性、35～40歳)
- ・ 精神障害者に対する偏見は、昔からほとんど変化していません。(男性、35～40歳)

生活の不安について（6件）

- ・ 現在両親と同居しているが、親亡き後、どのような家に住み、生活のケアを誰に頼んだら良いものか、不安でたまらない。（男性、35～39歳）
- ・ 障害が重く、収入も不安定だし、この先、現在通っている施設にも通い続けられるか不安です。現在の自分が、制度のどの位置にいるかもわからない。（男性、35～40歳）

情報提供や相談体制等について（3件）

- ・ 病気への対処法など家族も含めて相談できるような施設があると良いと思います。（男性、65歳以上）
- ・ 府中市で通院する病院を探そうとしたとき、市役所でも、保健所でも、どの病院が、どのような方針で治療しているのかの情報が得られなかった。（男性、55～59歳）

申請手続き等について（1件）

- ・ 足が少し悪いのだが、少しのことでも、市役所まで行ってくれといわれる。（女性、55～59歳）

施設について（1件）

- ・ 市内にある各文化センターに障害者本人と家族が自由に出入りできる部屋の設置を希望します。（男性、65歳以上）【子ども】

その他（8件）

- ・ 態度が横柄な施設職員は辞めさせて欲しい。（男性、25～29歳）
- ・ 税金は弱者のために最優先に使って欲しいと思っています。（女性、65歳以上）
- ・ 府中市のみんなが共生しあう社会になることを望んでいます。（男性、45～49歳）

(13) 保護者の状況

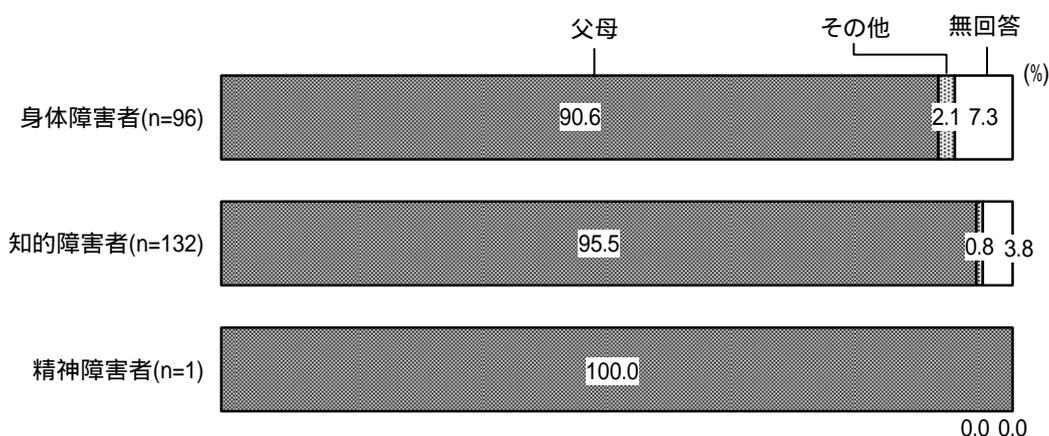
本人との関係 (問 23 - 1)

保護者と本人の関係は、身体障害者は、「父母」が 90.6%である。

知的障害者は、「父母」が 95.5%である。

精神障害者は、「父母」が 1人 (100.0%)である (図表 1 - 13 - 1)。

図表 1 - 13 - 1 本人との関係 (障害別)



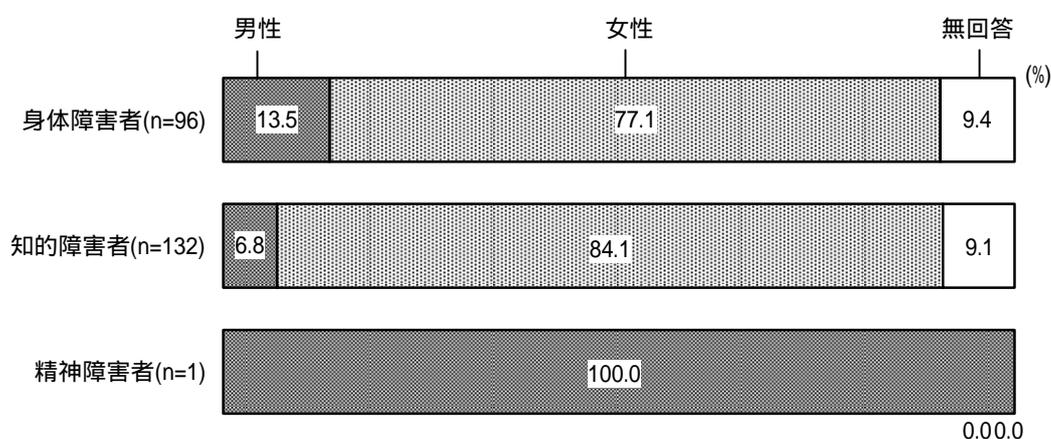
性別 (問 23 - 2)

保護者の性別は、身体障害者は、「女性」が 77.1%である。

知的障害者は、「女性」が 84.1%である。

精神障害者は、「男性」が 1人 (100.0%)である (図表 1 - 13 - 2)。

図表 1 - 13 - 2 性別 (障害別)



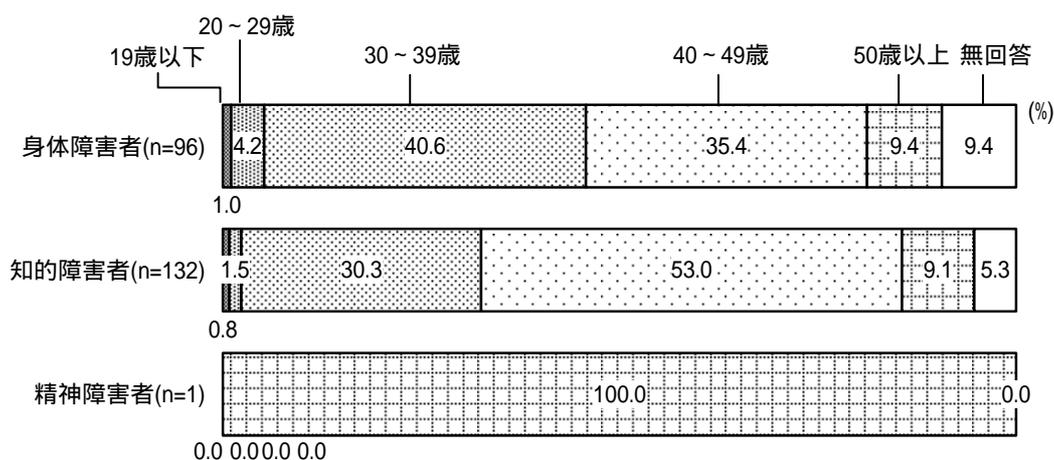
年齢（問 23 - 3）

保護者の年齢は、身体障害者は、「30～39歳（40.6%）」が最も多く、「40～49歳（35.4%）」が続いている。

知的障害者は、「40～49歳（53.0%）」が最も多く、「30～39歳（30.3%）」が続いている。

精神障害者は、「50歳以上」が1人（100.0%）である（図表1-13-3）。

図表1-13-3 年齢（障害別）



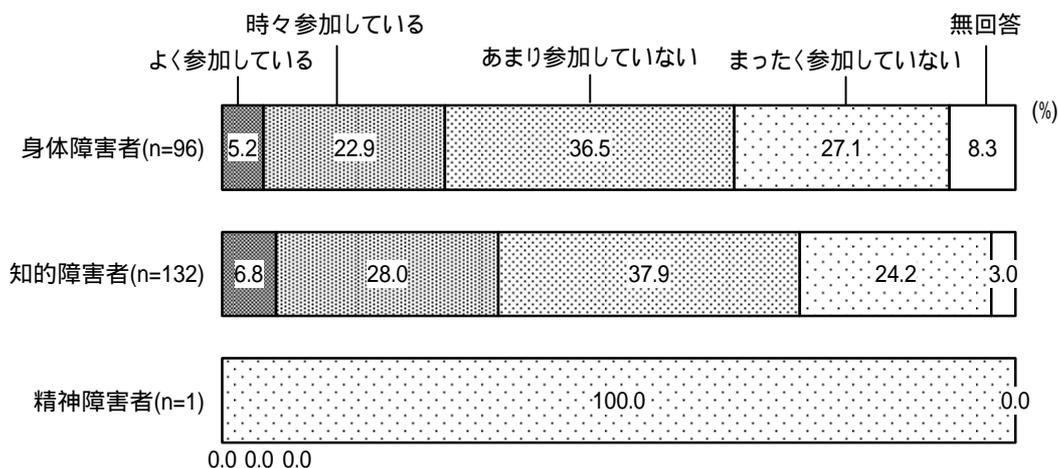
地域活動等への参加の程度（問 24）

保護者の地域活動等への参加の程度は、身体障害者は、「あまり参加していない（36.5%）」が最も多く、「まったく参加していない（27.1%）」が続いている。

知的障害者は、「あまり参加していない（37.9%）」が最も多く、「時々参加している（28.0%）」が続いている。

精神障害者は、「まったく参加していない」が1人（100.0%）である（図表1-13-4）。

図表1-13-4 地域活動等への参加の程度（障害別）



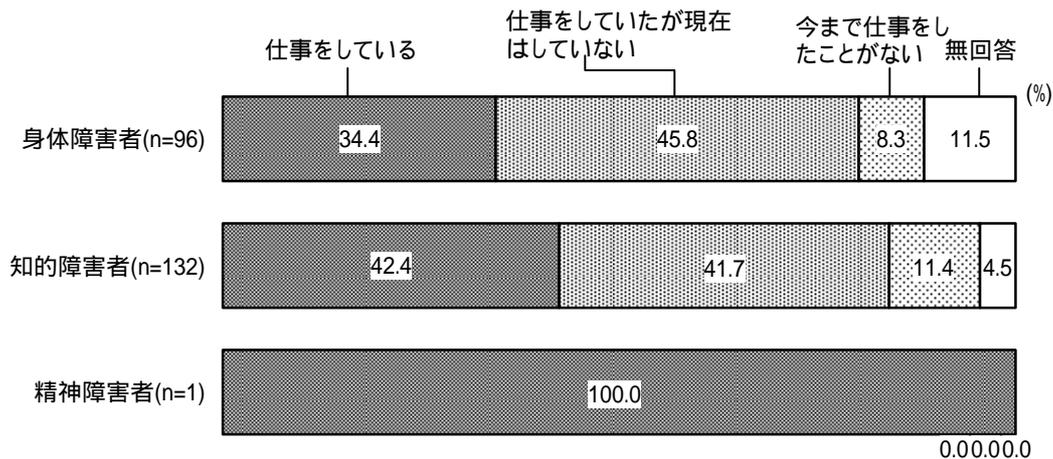
現在の仕事（問 25）

保護者の現在の仕事は、身体障害者は、「仕事をしている」が 34.4%である。

知的障害者は、「仕事をしている」が 42.4%である。

精神障害者は、「仕事をしている」が 1人（100.0%）である（図表 1 - 13 - 5）。

図表 1 - 13 - 5 現在の仕事（障害別）



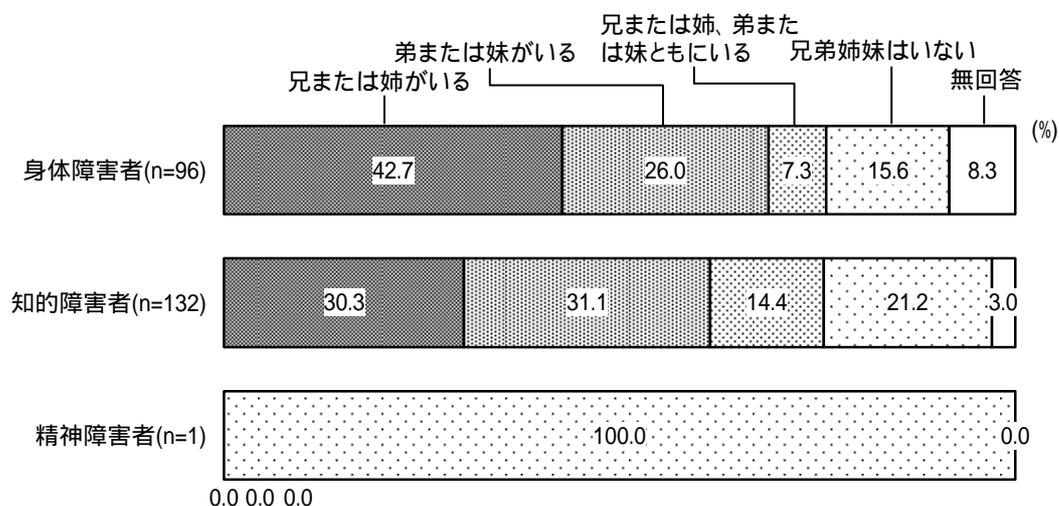
兄弟姉妹の有無（問 26）

本人の兄弟姉妹の有無は、身体障害者は、「兄弟姉妹はいない」が 15.6%である。

知的障害者は、「兄弟姉妹はいない」が 21.2%である。

精神障害者は、「兄弟姉妹はいない」が 1人（100.0%）である（図表 1 - 13 - 6）。

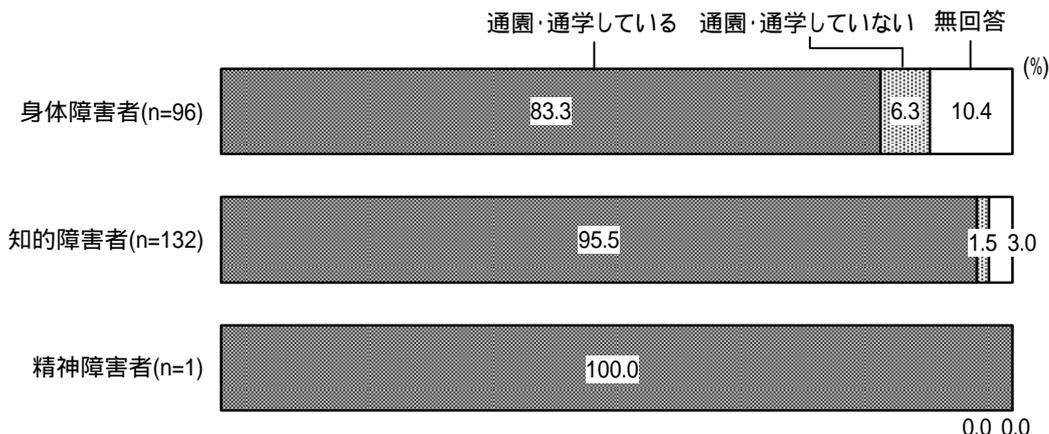
図表 1 - 13 - 6 兄弟姉妹の有無（障害別）



通園・通学の状況（問27）

本人の通園・通学の状況は、身体障害者は、「通園・通学している」が83.3%である。
 知的障害者は、「通園・通学している」が95.5%である。
 精神障害者は、「通園・通学している」が1人（100.0%）である（図表1-13-7）。

図表1-13-7 通園・通学の状況（障害別）

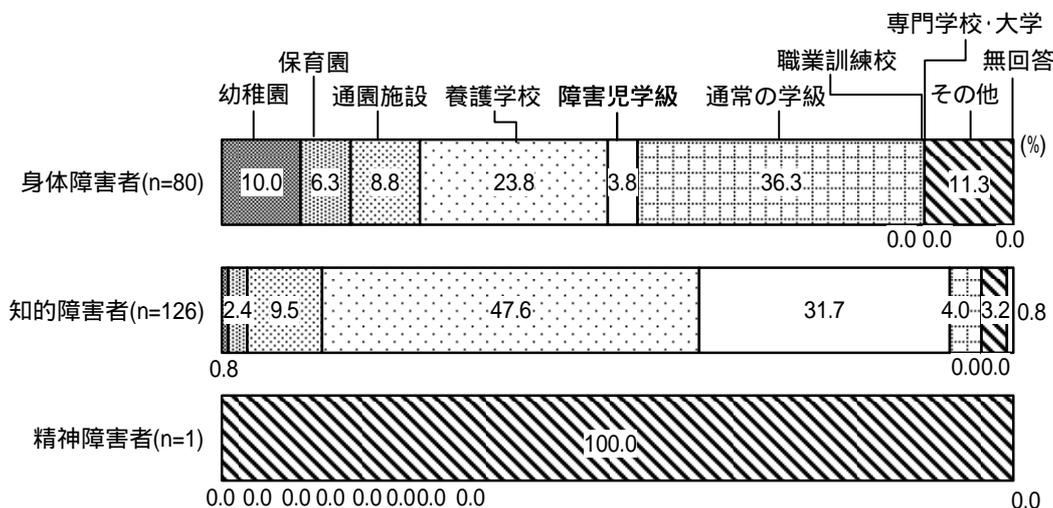


通園・通学先（問27-1）

通園・通学していると回答した人に、通園・通学先をたずねたところ、身体障害者は、「通常の学級（36.3%）」が最も多く、「養護学校（23.8%）」が続いている。
 知的障害者は、「養護学校（47.6%）」が最も多く、「障害児学級（31.7%）」が続いている。
 精神障害者は、「その他」が1人（100.0%）である（図表1-13-8）。

図表1-13-8 通園・通学先

<通園・通学していると回答した人>（障害別）



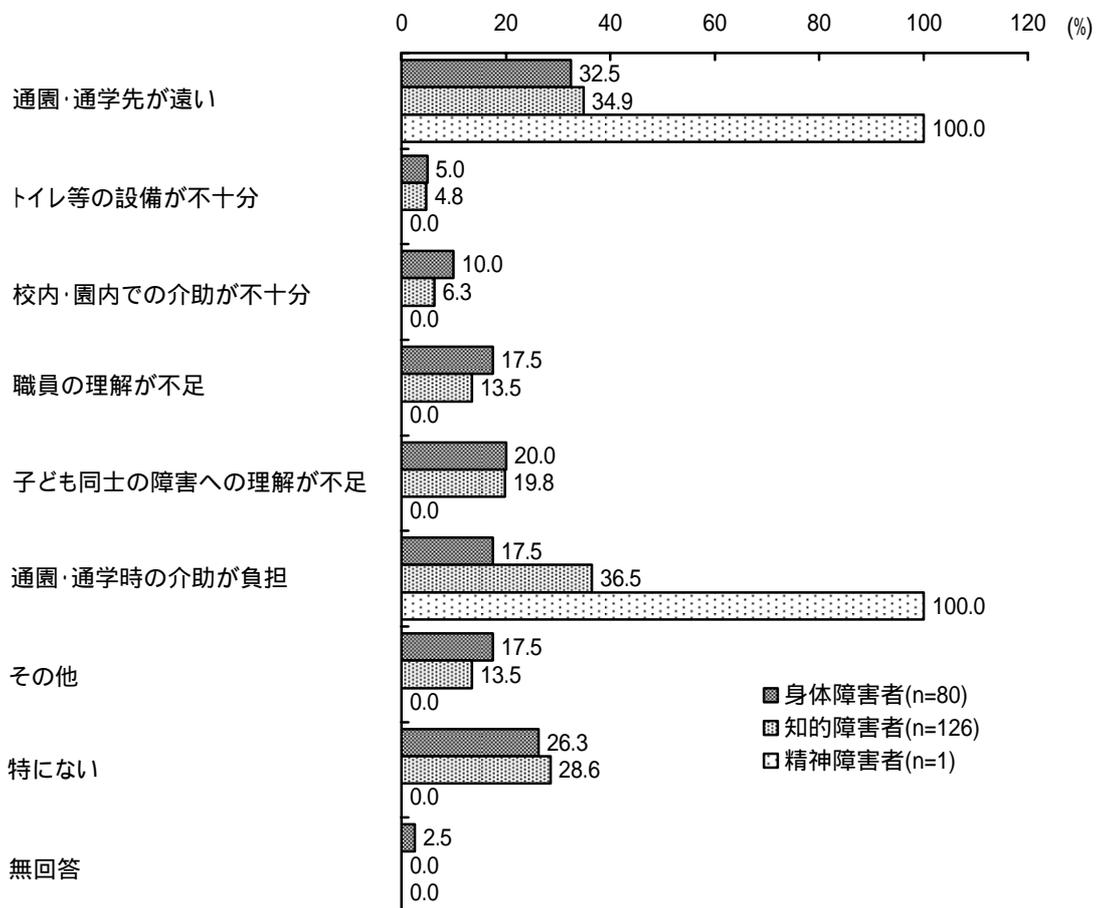
通園・通学での困りごと（問 27 - 2）

通園・通学していると回答した人に、通園・通学する上での困りごとをたずねたところ、身体障害者は、「通園・通学先が遠い（32.5%）」が最も多く、「子ども同士の障害への理解が不足（20.0%）」が続いている。「特にない」は26.3%である。

知的障害者は、「通園・通学時の介助が負担（36.5%）」が最も多く、「通園・通学先が遠い（34.9%）」が続いている。「特にない」は28.6%である。

精神障害者は、「通園・通学先が遠い」、「通園・通学時の介助が負担」となっている（図表 1 - 13 - 9）。

図表 1 - 13 - 9 通園・通学での困りごと
 <通園・通学していると回答した人>（障害別：複数回答）

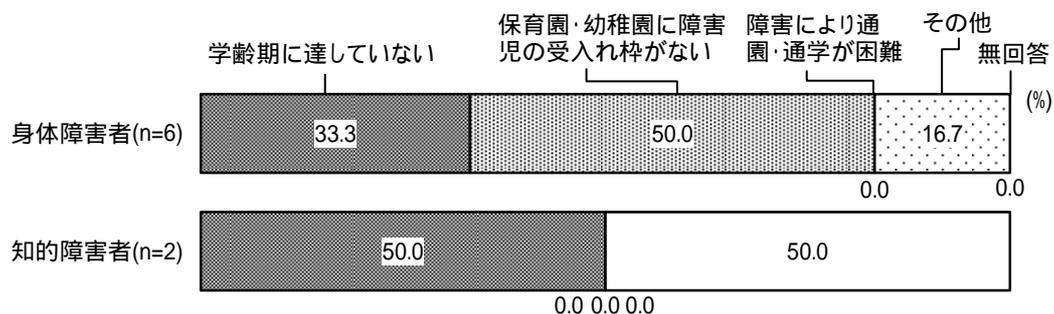


通園・通学していない理由（問27 - 3）

通園・通学していないと回答した人に、通園・通学していない理由をたずねたところ、身体障害者は、「保育園・幼稚園に障害児の受入れ枠がない」が50.0%である。

知的障害者は、「学齢期に達していない」が1人（50.0%）である（図表1 - 13 - 10）。

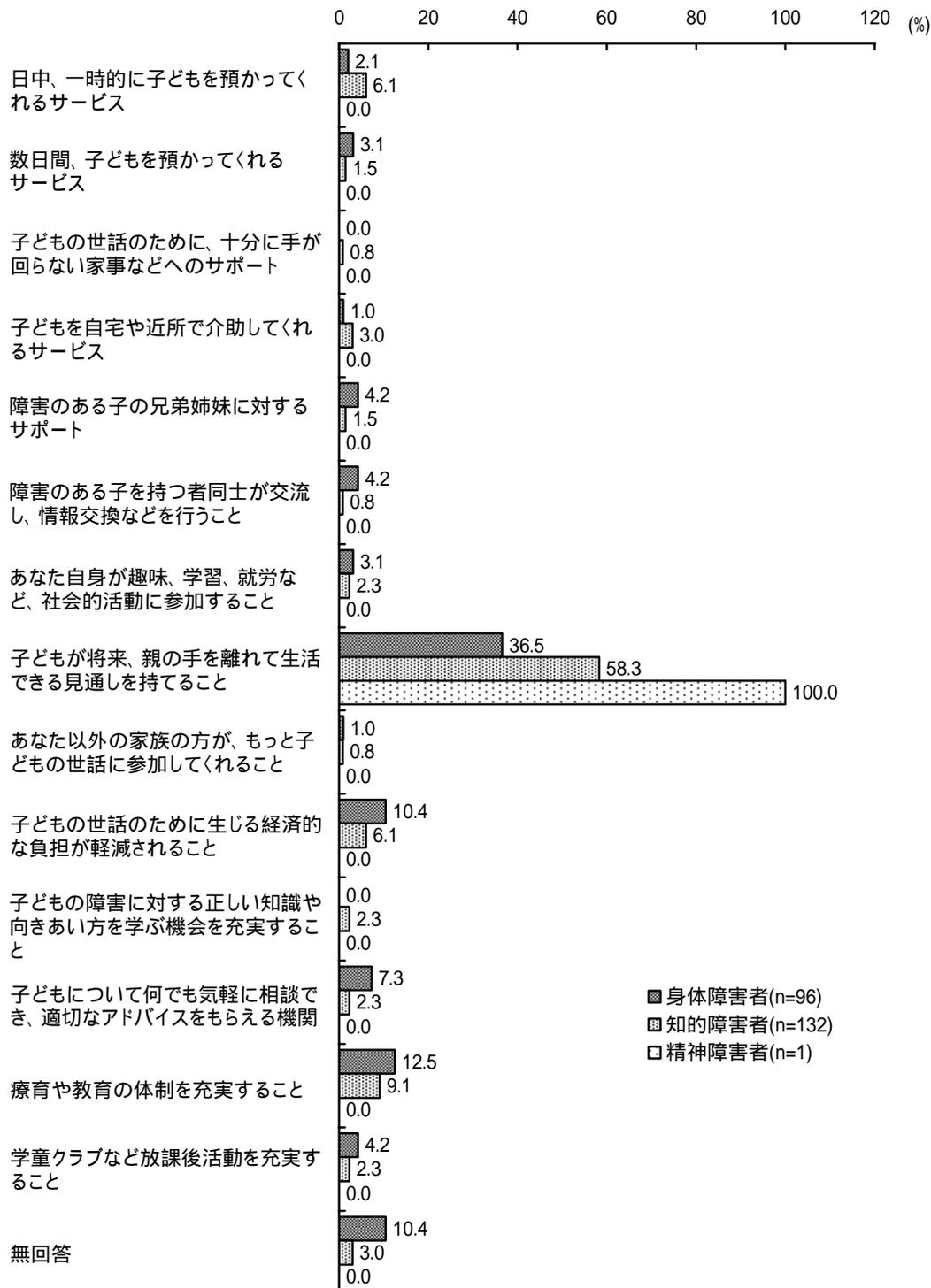
図表1 - 13 - 10 通園・通学していない理由
 <通園・通学していないと回答した人>（障害別）



養育の負担感・ストレス等軽減のために重視すること：最も重要（問 28）

養育の負担感・ストレス等軽減のために、最も重要だと考える項目については、身体障害者、知的障害者、精神障害者ともに、「子どもが将来、親の手を離れても生活できるという見通しを持てること（それぞれ 36.5%、58.3%、100.0%）」が最も多い（図表 1 - 13 - 11）。

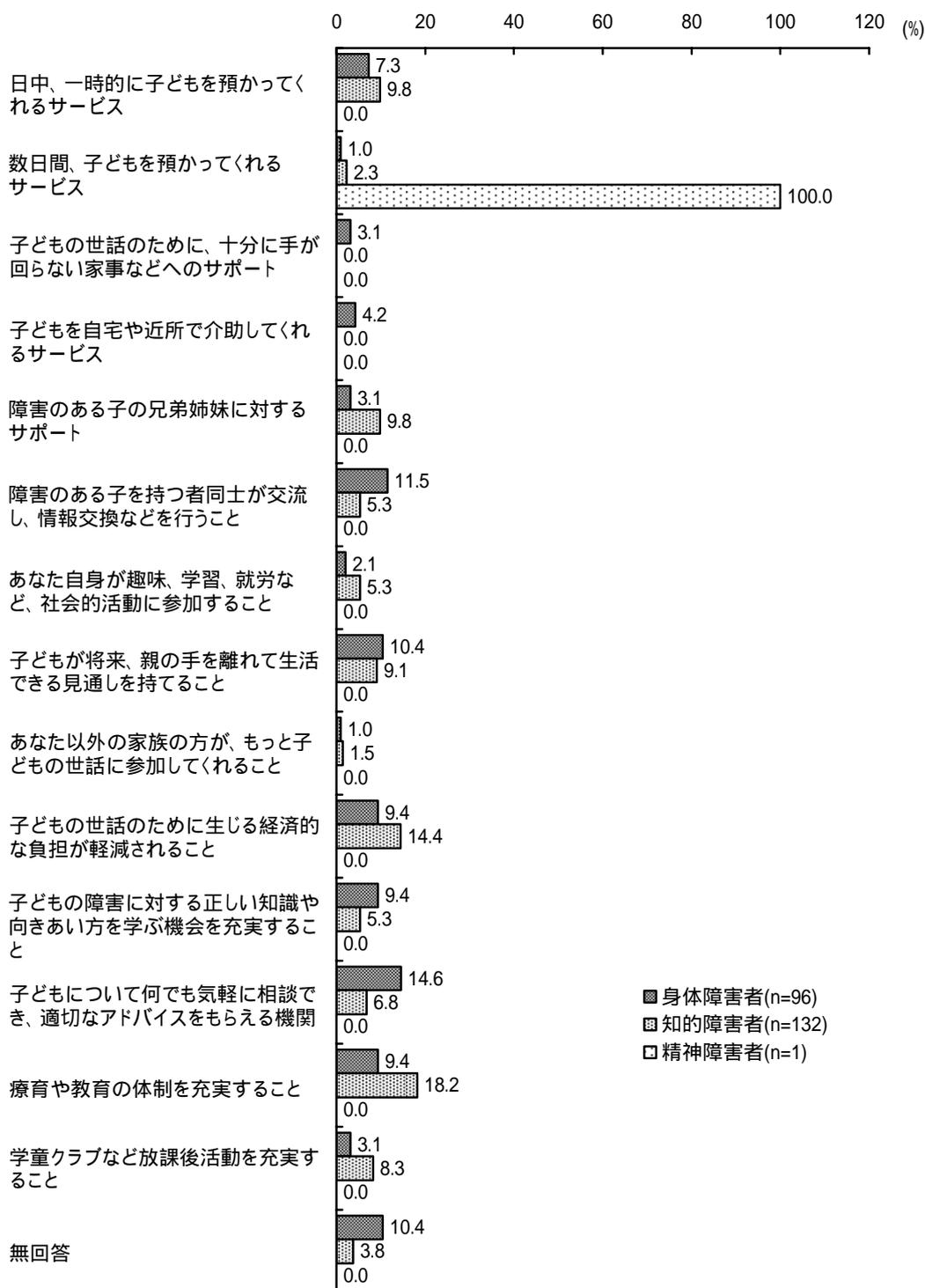
図表 1 - 13 - 11 養育の負担感・ストレス等軽減のために重視すること：最も重要（障害別）



養育の負担感・ストレス等軽減のために重視すること：2番目に重要（問28）

養育の負担感・ストレス等軽減のために、2番目に重要だと考える項目については、身体障害者は、「子どもについて何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもたらえる機関（14.6%）」が最も多い。知的障害者は、「療育や教育の体制を充実すること（18.2%）」が最も多い。精神障害者は、「数日間、子どもを預かってくれるサービス（100.0%）」となっている（図表1-13-12）。

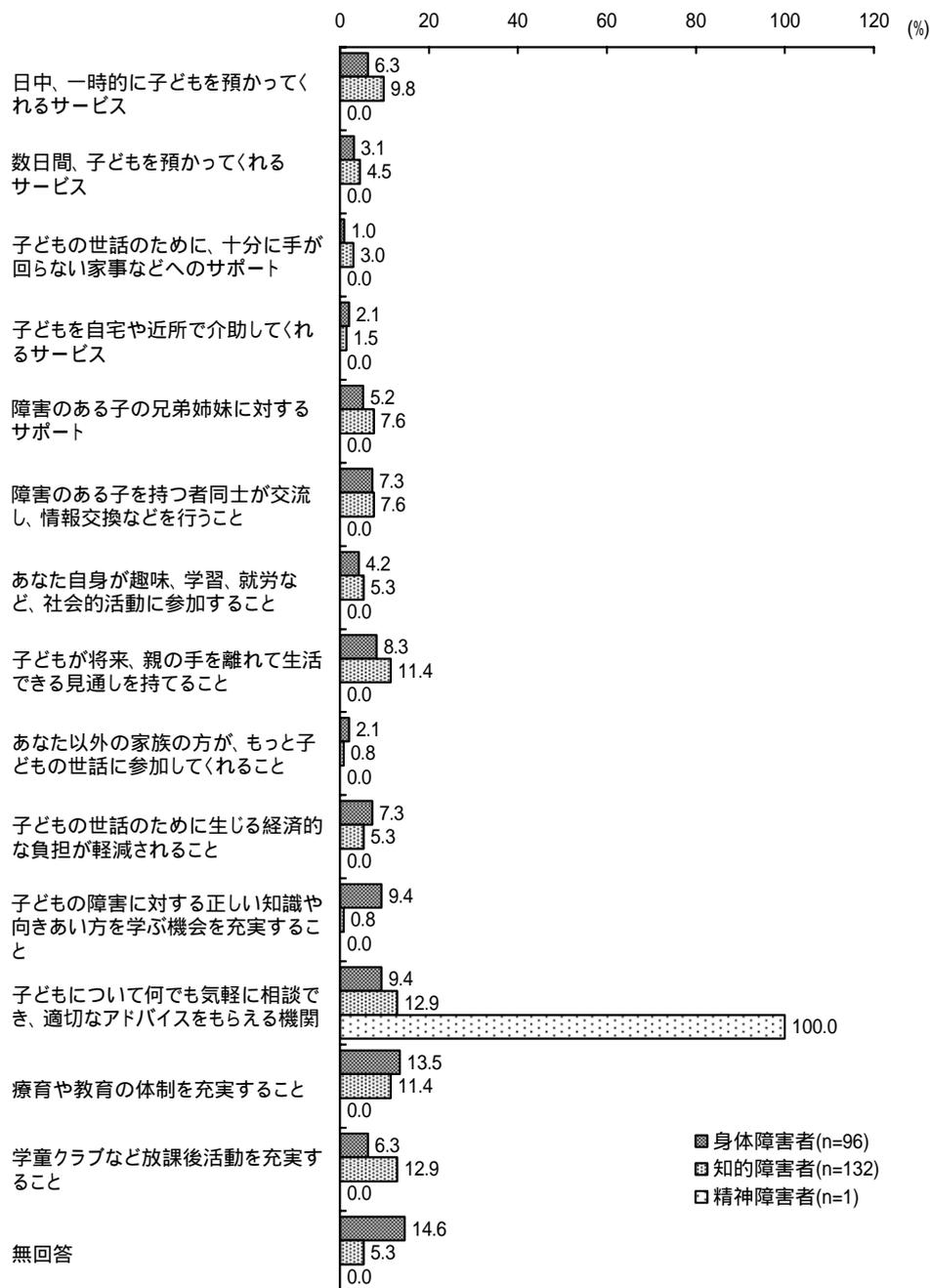
図表1-13-12 養育の負担感・ストレス等軽減のために重視すること：2番目に重要（障害別）



養育の負担感・ストレス等軽減のために重視すること：3番目に重要（問28）

養育の負担感・ストレス等軽減のために、3番目に重要だと考える項目については、身体障害者は、「療育や教育の体制を充実すること（13.5%）」が最も多い。知的障害者は、「子どもについて何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもたらえる機関」と「学童クラブなど放課後活動を充実すること」がともに12.9%である。精神障害者は、「子どもについて何でも気軽に相談でき、適切なアドバイスをもたらえる機関（100.0%）」となっている（図表1-13-13）。

図表1-13-13 養育の負担感・ストレス等軽減のために重視すること
：3番目に重要（障害別）

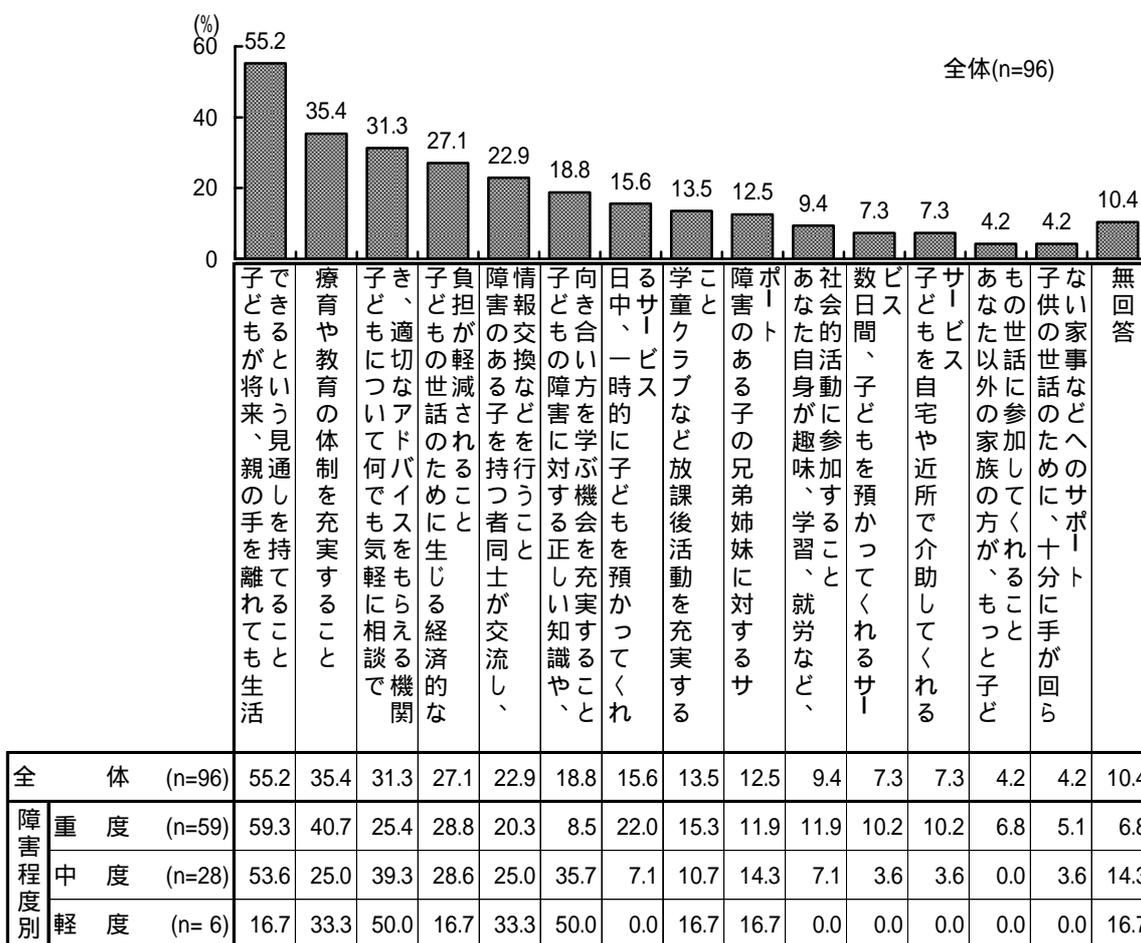


養育の負担感・ストレス等軽減のために重視すること

：最も重要から3番目に重要まで（問28）

最も重要から3番目に重要まで、得られた回答すべてについて、身体障害者の障害程度別に見ると、集計数の少ない軽度（n=6）を除き、重度、中度ともに「子どもが将来、親の手を離れても生活できるという見通しを持てること（それぞれ59.3%、53.6%）」が最も多い（図表1-13-14- ）。

図表1-13-14- 養育の負担感・ストレス等軽減のために重視すること（すべての回答）
（身体障害者全体、障害程度別：複数回答）



同様に、知的障害者を障害程度別に見ると、重度、中度、軽度ともに「子どもが将来、親の手を離れても生活できるという見通しを持てること（それぞれ67.3%、88.9%、83.0%）」が最も多い（図表1-13-14- ）。

図表1-13-14- 養育の負担感・ストレス等軽減のために重視すること（すべての回答）
（知的障害者全体、障害程度別：複数回答）

